

金 光 学 園

やっなみ

2014. 12

創立 120 年記念号



239・240 合併号



高校入学式



中学入学式



中学ゆずり葉の会



平成25年度の「中学ゆずり葉の会」は、例年通り中3から中1・2への生徒会活動の引き継ぎの場として、義務教育終了式後に、ほつま体育館で行われました。1年生は、きれいな歌声と呼びかけて、3年生への感謝の思いを伝えました。次に2年生は、3年生との思い出を振り返る寸劇で、思わず笑いや拍手の起こる場面もありました。最後に「虹」を合唱し、これから旅立つ3年生への深い感謝を伝えました。

3年生は、中学最後の行事です。実際に練習が始まったのは、学年末考査が終了してからでした。練習時間は短かったですが、最高学年として、後輩達に3年間で培った力の集大成を見てもらおうと頑張りました。実行委員会を中心に考えた出し物のテーマは、「Mixジュース3年濃縮100%」です。205名の個性がぶつかり合い、混ざり合いながら一つになっていく様子を舞台で表現したいと思い、どのような出し物をするかを一生懸命考えました。練習を重ねるごとに、歌声が大きく、美しくなっていた「遙か」の合唱から始まった舞台は、学年皆で考え、実行委員がまとめた構成詩とともにオーブニングとしてふさわしい緊張感に満ちた様子で始まりました。その後、有志のグループによる「ライジングサン」のキレイのいいダンスと歌声が体育館に響き、堂々と中3出し物の開会を宣言しました。その次は、女子全員が出演したハンドクラブです。実行委員会を中心にリズム作りや隊形など全てを生徒主導で行い、見事な音のハーモニーを披露しました。有志による太鼓演奏で会場を盛り上げた後は、男太全員による力強い「ハカ」を披露しました。その後は、「フォークンクッキー」と「うらじゃ」のダンスです。衣装にもこだわりの会場が華やかな雰囲気になりました。そして会場が「Mixジュース」となったバラバールンや布を使った出し物へと続きます。体育館を埋め尽くす勢いの色の乱舞は、205名の個性という名の色を表しているようであり、それらが一つの出し物としてまとまっていく様子は、まさに3年間の集大成といえるものでした。また、学年通信タイトル「夢に向かっ」のあいさつ作文を書いた書道パフォーマンスでは、5頁もの用紙で堂々とした字を披露しました。その後、実行委員が作成したスライドや、有志のコーラスを経て、いよいよ最後の合唱曲「3月9日」です。今までお世話になった全ての方々への感謝の思いを込めて精一杯歌いました。その後の呼びかけでは、中学生生活の思い出を振り返りながら、「夢に向かっ」高校へと旅立つべく決意を述べていきました。たった30分程度の舞台でしたが、高校へのスタートラインに立つにふさわしい出し物となりました。

未来へ

2014年、台風被害や広島での豪雨災害、御嶽山噴火による人災や、長野県を中心とした大地震など自然災害の多い年となり、被害に遭われた方々に哀悼の意を抱くと共に、助け合い、支え合って生きることの大切さを改めて認識させられる今日この頃です。さて、本年度、金光学園は創立120年を迎えました。

この記念すべき年に、皆様方には、例年にも増して多大なるご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

120年の時の長さは誰も経験したこともなく、我々には想像もできない程の年月の流れです。

また、金光学園の前身である「神道金光教会学問所」の開所には、佐藤範雄初代校長が、構想より数十年もの歳月を経て、苦心の末、実現させられたと聞きしております。以来、先輩諸兄の弛まぬご尽力により、今日の金光学園の姿が築き上げられてきました。脈々と受け継がれてきた学業、部活動、探究活動、国際交流などの歴史と経験は、現在では、かけがえのない財産として、生徒たちの活動の場を拡げて頂いております。そして、近年ではSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定校としての注目も集め、未来に向けて新たなページの刷新も着々と進んでいます。

素晴らしい環境の中で、多くの人に支えられて、当たり前のように生活できる事のありがたさを噛みしめながら、先人たちがそうして下さった様に、未来の学園生たちにも引き継げる歴史を刻んでいく事が、いま在る者の務めであると思えます。

(金光学園やつなみ保護者会 副会長)

往田 啓介

目次

巻頭言	1
中学・高等学校入学式	2
道10)	3
学園生の故郷	4
活躍する卒業生：新宮 拓	5
学園随想⑦：藤井 幹久	6
やつなみ保護者会のページ	7
会長就任挨拶	8
自画像	9
メタセコイヤ	10
活躍おめでとう	11
金光学園創立120年記念式	12
会報	13
韓国・春川女子高等学校第5回姉妹校交流	14
イギリス・仁川英語村海外研修	15
SSH宿泊研修記	16
探究授業報告	17
中学生になって	18
入校時合宿	19
大佐山教育キャンプ	20
中3修学旅行・高2修学旅行	21
友愛セーブルご協力の御礼	22
高1学習合宿	23
2014記念 音楽会	24
中学体育会	25
ほつま祭	26
平成26年度大学入試結果	27
高3人権講演	28
地区会報告	29
法人決算の概要／保護者会決算・予算	30
ある日のホームルーム	31
生徒入賞作品	32
部活動紹介・生徒会活動	33
学園だより	34
教室の窓から	35
編集後記	36

平成二十六年年度 金光学園中学・高等学校 入学式

四月八日、入学式が挙行された。中学は午前九時から百九十二名が、高校は午後一時三十分から二百二十一名(留学生一名含む)が、来賓・保護者・教職員の祝福を受けて新たな出発をした。

校長式辞の後、中学は木村蒼弦君が、高校は藤原南さんがそれぞれ「願いの言葉」を力強く述べた。続いて学校法人理事長の挨拶、来賓を代表して中学は金光教務総長代理、金光教布教部長 近藤金雄氏、高校は金光教務総長 岡成敏正氏の祝辞があり、次に、保護者を代表して中学は天野智嘉氏、高校は奥村貴子氏の挨拶があった。

終わりに、中学は生徒会事務局と音楽部による学園歌紹介、高校は学園歌斉唱で式の最後が締めくくられた。

式辞

校長 金光 道晴



ご来賓の皆様には公私ともご多用のところ、ことに金光教関係の皆様には、ご大祭の期間中を、また、金光町内の小学校やつなみ保護者会の皆様には年度初めの大変お忙しい中を、お練り合わせご臨席を賜りまして誠に有り難うございます。保護者の皆様にも本日は誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。新入生の皆さん、入学おめでとう

ございます。金光町の桜も校庭東の桜も満開の時期は少し過ぎましたが、まだきれいに咲き誇り、今日の入学式を祝ってかれているようであります。

さて、金光学園は、明治二十七年(一八九四年)に創立されて今年が百二十年の誕生日を迎えます。大きな節目の年でありますから、今年は様々な記念行事や事業が計画されておりますが、この記念すべき年に、百九十二名の新入生の皆さんを迎えることができ、これから皆さんと一緒に勉強していくことができることは、私達教職員にとっても在校生にとっても大変嬉しいことであり心から歓迎をしたいと思います。

さて、皆さんはこれまでに「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という言葉を見たり聞いたりしたことがあると思います。

この言葉は正門の石碑にも大きく刻まれていますし、皆さんがこれから入る教

室にもかかげられています。すでにオーブンスクールや入学試験や、三月のスクーリングの時、どの教室にも掲げられていましたので、気が付いた人も沢山いると思います。まだよく見ていない人は、教室に入ってゆっくり見てみてください。えんじ色の下地に金色の文字で書かれています。

金光学園では、この「人をたいせつに自分をたいせつに、物をたいせつに」という言葉は、生徒も保護者も教職員も、そして卒業生にいたるまで最も大切にしている言葉で、「合言葉」と呼んでいます。そもそも合言葉とはなんでしょうか。

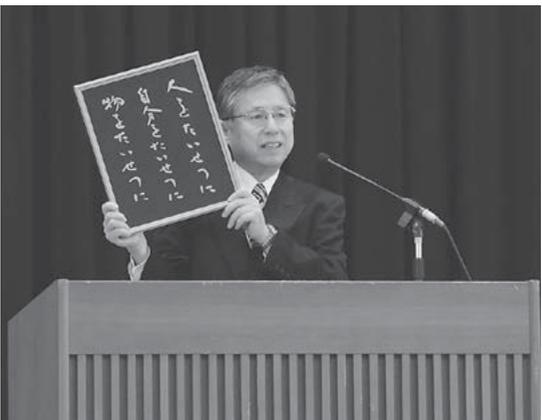
合言葉の一つの意味は、仲間や味方同士が、前もって「山」と言えば「川」と答えるなどの約束事を決めておき、お互いが仲間であることを知らせ合う合図の言葉という意味があります。もう一つは仲間同士の主張を端的に表わす標語という意味がありますが、学園の合言葉は、仲間同士の生き方や考え方を短い言葉で明確にわかりやすく表現したモットーといってもいいと思います。

したがって、生徒の皆さんにだけ、守ってもらおうというものではありません。

生徒も、皆さんのお父さんやお母さんも、私たち教職員も、卒業生も全ての金光学園に関係する人達、つまり仲間が行動の目標や目当てとするもので、みんなで努力しあっているという願いなのであります。これからも卒業まで何回となく聞くことになると思います。

わたしは、この合言葉こそ、いじめや差別はもとより、民族紛争や、国と国との対立、環境問題など、今日人類が抱えている全ての問題を解決するキーワードだと思っています。どうぞこれから6年間かけて合言葉の中身をしっかりと考えていただきたいと思っています。そして、人・自分・物を大切に出来る人、合言葉を実践できる人になっていただきたいと願っております。

ところで、今日のHRで皆さんには、金光教の教祖様のみ教えが書かれている日めくりを記念としてお渡ししますが、昨日の7日の日めくりには「木の切り株に腰を下ろして休んでも立つ時には礼を言う心持になれよ」という言葉が書いてあります。普通では何の役にも立たない木の切り株でも、腰をおろして休んだら、お世話になった御礼を申す心になろうと



教えられているのです。感謝する心を持つことこそ人として大切なことであることを教えてくださっているものであります。

今日の8日の日めくりには「食物はみな人の命のために天地の神がつくりあたえ給うものぞ」という言葉が書いてあります。これには続きがあつて「何を飲むにも食べるにも有り難くいただく心を忘れなよ」という言葉が続きます、食前訓といっ



て金光学園では食事の前に唱える言葉でもあります。食事がいただけることや水などが飲めることも、決して当たり前のことではなく、感謝の気持ちを忘れてはいけないと教えられています。

今朝起きてから当たり前に過ぎてきた数時間のことを考えても、皆さんは、実

この最中、本日、中高一貫教育の金光学園中学校入学式にあたり、各ご来賓の皆様方には、公私ともご多用中、ご臨席を賜り、誠に有難うございます。

今日まで頂いております温かきご支援とご声援の数々に、厚くお礼を申し上げます。

さて、念願の金光学園中学校入学を見事果たされました生徒の皆様には小学校時代より日夜不断の努力と優秀なる成績をお称えすると共に、本日ここに厳粛で麗しい入学式を無事お迎えする事となられましたことは、小学校の校長先生を初め、諸先生方、更に保護者の皆様方と共に、心よりおめでたいこととお慶びを申し上げます。

さて、全国各地に桜前線豊かに到来し、金光町桜並木も皆様方を祝福するがごとく見事満開となりましたが、同時に新緑が吹き出るご時節到来となり、新しい生命が蘇る絶好のご時節の中に、新学年を迎える事となりました。

先の金光教教主・金光鑑太郎様は「ちははも こどもとともに うまれたりそだたねばならぬ 子どもちははも」と詠まれました。

に多くの恩恵を受け、色々な人や物のお世話になって、今入学式に出席しているのではありません。例えば、朝元気で目覚めさせてもらったこと。それはお布団の中でぐっすり寝させてもらったからであります。おいしく朝食をいただけたこと。真新しい制服も大変よく似合います。靴や服にもお世話になっていきます。皆さんは今日どうやって学校に来たでしょうか。お父さんやお母さんと一緒にお家の車で来た人もあるでしょう。電車やバスを利用した人もあるでしょう。そして何より、お父さんお母さんを通して、天地からいただいた元気な命があるからこそ入学ができ、今日の喜びを感じる事ができるのであります。病気や怪我をしていたら今日の入学式にも出席することは出来なかったかもしれません。

これらのことはあたりまえのように思うかもしれませんが決してそうではないのです。改めてそのことに心から感謝したいと思います。そして今日から皆さんも合言葉の全てを大切に心や感謝する心をしっかり胸に刻んで、これからの学園生活を一生懸命努力していったきたいと思います。



理事長 佐藤乃武雄

勉強はもちろん、生徒会行事、部活動などいろいろな活動に全力を尽くし、心身を鍛え、豊かな人間関係を養い、友達と仲良くして立派な金光学園の生徒として成長していくようお祈りして式辞いたします。

「人をたいせつに 自分をたいせつに物をたいせつに」

春雨と共に春爛漫のご時節を迎え、今年、私も金光学園にありましては、創立百二十年目のお年柄を迎えており、記念事業として「一二〇記念館」が建設中であります。



ただ今からは、親子共々に今日までの成長を喜び合い、子供と共に中学校一年生として入学し、よき親として生まれ変わら、また、子供も今日まで注がれてきたご両親の深き愛情に感謝し、親子共々に育ち合い、祈り合い、励まし合う関係に成長していくことが最も大切であると思わせて頂いております。

ただ今からは、親子このようなご心境になって、学園教育に親しんで頂き、交通事故に遭遇しないように注意し、健康第一にそれぞれの個性が生かされ、中高一貫教育が実りあるものとなり、やがて、高等学校、大学進学という大願が無事成就されてまいりますよう切に祈り上げて、ご挨拶とさせていただきます。

私達の願い

中学新入生代表 木村 蒼弦

若い草の芽も伸び、花々の咲き始める春らんまんの今日、私達新入生192名は、金光学園中学校の入学式を迎えることができました。あこがれてきた伝統ある金光学園に入学できたこと、また創立120周年という記念の年に学園生になれることをとてもうれしく誇りに思います。

今、私達は、これから始まる中学校生活に期待と不安でいっぱいです。新しい友達と一緒に、新しい勉強や調べ学習、部活動やほつま祭などの行事をすることがとても楽しみです。一方、勉強についていけるか、友達と仲良くできるだろうかという不安もあります。しかし、金光



学園の合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」をいつも心にとめてたくさん友達と協力し勉強や部活動がんばっていきたいと思います。そして、創立以来の多くの先輩方が築いてくれた良い校風を受け継ぎ発展させていくことができましたらいいなと思っています。

最後になりましたが、校長先生をはじめ多くの先生方、先輩の皆様、これからご迷惑をおかけすることも多くあると思いますが、時にやさしく時に厳しくご指導してくださいませようどうぞよろしく願います。今日は、私達新入生のためにこのような素晴らしい入学式を行っていただけて本当にありがとうございます。

中1保護者代表挨拶

天野 智嘉

新入生の保護者を代表致しまして、高いところからではございますが、一言ご挨拶を申し上げます。本日は子供達の為にこの様な厳粛かつ盛大な入学式を執り行って頂き誠に有難うございます。また法人理事長、校長先生をはじめ、ご来賓



の皆様にはお心のこもった温かいご祝辞を頂き、子供達はもとより保護者一同大変嬉しく、感激致しております。心より御礼申し上げます。

子供達は有難いご縁を頂いて、本日より、この金光学園におきまして、希望と喜びを胸に新しい世界への歩みを始めることとなりました。入学への希望で満ち溢れた子供達の姿を見ておりますと、子供達の輝かしい将来に期待を寄せるのと同じくして、私自身、親として子供達と共に成長しなければと、気が引き締まる思いです。

私ごとで恐縮ではございますが、昭和63年、このほつま体育館が竣工した年から、私の学園生活は始まりました。学園

では勉強のみならず、部活動やほつま祭や体育会など様々な行事を通じて、いつも熱心に叱咤激励をくださった先生方、一期一会の出会いから、喜怒哀楽を共にし、切磋琢磨した友人達との忘れられない日々など、何事にも代えがたい眩しい青春を送らせて頂きました。お互いを尊重し、個性を認め合う中で豊かな人間性が育まれることが、学園の一番の魅力だと卒業し社会人となった今になっても、強く感じるところでございます。私はご縁を頂いて、今でも学園の友人と机を並べて働き、先輩後輩と職場で毎日汗を流しています。年代の差はありますが、個々が豊かな人間性を発揮し、社会の為に力を尽くしています。これも中学高校という人生の中で最も成長出来る時期を学園という素晴らしい環境で過ごさせて頂いたおかげと皆が感謝しております。先日卒業生達に子供が母校へ入学することになったことを話したところ、『人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに』とまず学園の合言葉が発せられました。学園と言えば、まず合言葉であります。それほどまでに心に深く刻まれています。両親から生を受けて、今ま

でにお世話になった先生や友人達、毎日自身の為となる食べ物、着る物、住まいや書籍など生きていく上で、お世話になった全てに対して感謝し、思いやりを持つことの大切さを合言葉はいつも思い起こさせてくれます。この思いを胸に日々実践に努めなければならぬと考えている次第であります。この合言葉に加え、学園で学んだ言葉の中に『にちにちがさら』があります。日々新たな気持ちを持つて精進しなければならぬと理解しております。人生の中では楽しいことばかりではなく、辛く苦しいことに耐え、頑張らなくてはならない時が必ずあります。そんな時にも気持ちを新たにしてください。そんな困難にも一生懸命取り組む大切さをこの言葉は教えてくれます。ありがたい教えに導かれ、何事にも感謝と思いやりを持ち、日々お互いが成長を遂げられる、より充実した学園生活が先生方を始め子供達、保護者の皆様と共に築かれ、子供達が社会の力になれる人間として育つことと確信しております。

さて、新入生の皆さんへ入学おめでとうございます。学園という新しい環境にさぞ胸を高鳴らせていることかと思いま



す。この6年間での出会いは生涯の友となり、経験は自身の人格の礎となることでしょう。今の気持ちを忘れず仲間達と共に学園生活を精一杯楽しんで下さい。校長先生をはじめ諸先生方には、まだまだ未熟な子供達でございますから、至

らない点も多々あるかと存じますが、時には温かく、時には厳しくご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。
最後になりましたが、お忙しい中ご来賓の皆様方にはご臨席を賜りまして心より御礼申し上げます。これもちまして保護者代表のご挨拶とさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

願いの言葉

高校新入生代表 藤原 南

春風が心地よく感じられる今日この頃、私たち新入生220名と留学生1名、合わせて221名は、桜が満開に咲き誇る中、晴れて金光学園高等学校の入学式を迎えられることに心から感謝いたします。

私たち新入生はしっかりと将来の夢に向かって仲間と共に、一生懸命努力し、何事にも積極的に取り組み、これから始まる高校生活を有意義なものにしていきたいと思っています。

私は中学校3年間で「仲間の大切さ」を学びました。仲間と共に助け合ったり、励まし合ったりすることで、多くの高い壁を乗り越えてきました。嬉しいときには喜びを分かち合ってきました。これか



らも更に「仲間との絆」を深め、一人ひとりがかけがえのない存在として充実した3年間を過ごしたいと思えます。

私たちは今、大変恵まれた中で生きています。一日一日を無駄にすることなく、感謝の気持ちを忘れずに、日々前進していきたいと思えます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ諸先生方、お父さん、お母さんには、これからも厳しく温かく私たちをご指導くださいますようお願い申し上げます。願いの言葉とさせていただきます。

高1保護者代表挨拶

奥村 貴子

新入生の保護者を代表しまして一言ご挨拶させていただきます。



校長先生、理事長先生並びにご来賓の皆様にご臨席賜り、このように盛大な入学式を迎えられたことに保護者一同心からの感謝を申し上げます。

又、先程は校長先生、理事長先生、ご来賓の皆様からの温かいお言葉を拝聴致しまして改めて金光学園高等学校に入学出来ましたことを親子共々喜んでおります。

今日から子供達の高校生活がスタート致しました。

人生の礎となるこの時期におきまして、子供達は、自分の将来を描き目標を立てて進んでいくことと思います。

しかし、自分ほどのような道に進めば良いのか、と迷い悩む日々もあると思います。

先生方におかれましては、子供達が目標に向かって進んで行けますようにご指導頂きたいと心よりお願い申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。

義務教育であった中学生から高校生になった皆さんは、自分の意志で自由な行動が出来る様になったと同時に、その行

動に対して厳しい責任を課せられる立場になりました。

私達保護者は、皆さんの高校生活を応援し支援する努力を惜しみませんが、最終的な責任は皆さん自身にあるということをはっきり自覚して生活して頂きたいと思っています。

金光学園には、素晴らしい合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」がございます。この合言葉は、高校生、大学生、社会人と世代が変わっても人として生きていくうえで、とても大切な言葉だと思います。

この言葉を胸に一日一日を大切に過ごして下さい。

3年間という月日は、長いようであるという間に過ぎていきます。

新入生の皆さん全員が悔いの無い高校生活を過ごされることを心より願っています。

そして、私達保護者も金光様の教えにあります「ちはははも 子供とともに生れたり 育たねばならぬ 子もちははも」の精神で子供達と共に成長していきたいと思っております。

最後になりましたが、校長先生をはじめ



め諸先生方には、これから3年間、子供達のことを何卒よろしくお願い致します。

私達保護者も、子供達が充実した学校生活を送れるよう日々見守って参りたいと思っております。

簡単ではございますが、これで挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



道 (10)

金光 道晴

「あたりまえ」の大切さ

体育会や球技大会では、ラジオ体操をしたり、ストレッチ体操をしたり、全員で準備体操をしてから競技に移ります。数年前の高校体育会時のことですが、準備体操をする代表の生徒が突然「あたりまえ体操」というものをやったのであります。今は下火になりましたが、少し前までは、ある二人組のお笑い芸人の方がよくやっており、流行していました。音楽に合わせて、「♪ あたりまえ あたりまえ あたりまえ あたりまえ」と歌って「♪ 右足を出して、左足出すと、歩ける↓ 当たり前体操」「♪ 手首を前に、何回か曲げると、人来る↓ あたりまえ体操」と、歌に合わせて体操(?)をするのです。「あたりまえ」でバカバカしいところが受けるのかもしれませんが、もちろん準備体操として適当でないことは言うまでもありません。その生徒はいわゆる「受け」を狙ってやったのですが、狙い通り生徒にも、保護者の方々にも大いに「受けた」のであります。「あたりまえ」ということがお笑いのネタになっているのであります。

しかし、「あたりまえ」ということは面白いことなのでしようか。本当は「あたりまえ」は大変尊く、もったいなく、大切なことだと思っております。私はそのことを宗教の授

相様は1024人いるということになります。20代さかのほれば、約100万人、30代で10億、40代で約1兆余り、50代さかのほれば、自分の命につながる命は1000兆を超える想像もつかない天文学的数字になるのであります。

しかし、この天文学的数字の祖先の誰か1人でも欠けていたら、今の自分の命はないのであります。そう考えると自分の命は奇跡的に受け継がれてきたもったいない命であり、神秘的としか言いようのない命であると思うのであります。天地自然の大きいなる働きの中で続いてきた命であり、決して「あたりまえ」の命ではないのであります。

しかし、私たちは毎日おいしい食事をいただき栄養をとり、大小便の働きをいただき、夜になるとぐっすり休み、朝になると元気で目覚めることを「あたりまえ」のことと考えてしまいます。

私自身も、病氣や怪我をして初めて健康のありがたさに気づかされ、大切な人や物を失ってはじめてその尊さや大切さを身に染みて感じるのであります。つい今のありがたさを忘れ、天地自然から大きいなる恩恵を賜っていることを忘れてしまうのであります。

私は以前病に倒れ、若くして亡くなられた井村一清さんという方が書かれた「飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ」という本を読み、涙が止まらなかつたことがあります。井村さんは昭和22年生まれのお医者さんで、30歳の時に右足に悪性の肉腫が発見され、転移を防ぐために右足を切断されたのであります。先日の記念講演に来てくださったパラリンピアン佐藤真海さんと同じであります。しかし井村さんの場合は、その後肺に癌が転移してしまいました。当時1歳半のわが子飛鳥

業でよく生徒に話します。たとえば、私達はお互い、今生かされて存在していますが、自分では全く意識することなく「あたりまえ」に呼吸をしています。人は呼吸を1分間で20回ぐらいすると、これに1時間60分と1日の24時間をかけると、1日に28800回。1年365日で1千万回、私の場合ですと、生まれてきてからこれまで6億回以上休みなく呼吸をしてきたこととなります。

心臓も止まることなく、休むことなく「あたりまえ」に動き続けています。呼吸の約4倍の数だけ心臓はとまらずに、これまで24億回もまったく、油をさすことも、取り換えも、修理もすることなく動き続けてきました。何という「あたりまえ」でありましょうか。

現代の科学技術の発達した時代につくられた、いくら精度の高い機械でも、何十年の間、一度も故障もせず、正確に動き続けることは出来ないと思うのであります。しかし、私たちはずっと呼吸をし続け、心臓を動かし続けているのであります。自分が意識的に努力したり、トレーニングを積んだり、機械のように部品や電池交換などしているのではないのですから、「あたりまえ」のことであります。この「あたりまえ」のように思える働きこそ、大いなる天地自然の働きであり、神秘的な働きだと思っております。

また次のような話もあります。全ての人にはお父さんとお母さんの二人の親がいる。その両親の命を頂いての今の自分の命があるが、その両親にもまた二人の両親がいる。自分から申せば4人の祖父母、そして8人の曾祖父と曾祖母がいる。さらにさかのぼっていけば16人、32人、64人、・・・と2倍ずつ増えていきます。10代さかのほれば、2の10乗でご先

ちゃんと奥さんのお腹の中には、2人目の命が宿ったのであります。自分はまもなく死んでゆかねばならない運命にあると知ってから、残されたわずかな月日のうちに、何も知らない幼い二人の子供へ、与えることができる唯一の父親から子供たちへの心の形見として、1冊の本を書き上げたいと考えたのです。そして、2人の子へ「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」という本を残されたのであります。その本の中に次のような「あたりまえ」という題の詩があります。

「あたりまえ こんなすばらしいことを みんななぜ喜ばないのでしょうか あたりまえであることを お父さんがいるお母さんがいる 手が二本あって、足が二本ある 行きたいところへ自分で歩いていける 手を伸ばせば何でも取れる 音が聞こえて声が出る こんな幸せはあるでしょうか しかしだれもそれを喜ばない あたりまえだと笑って済ます 食事が食べられる 夜になるとちゃんと眠れ そしてまた朝がくる 空気を一杯胸にすえる 笑える 泣ける 叫ぶこともできる 走り回れる みんなあたりまえのことを みんな決して喜ばない その有り難さを知っているのは それを失くした人たちだけ なぜでしょう あたりまえ」という詩であります。

私たちがお互い、こうして「あたりまえ」に命をいただき生きていくことはどれほど尊いことであり、もったいないことであるかを、わからせてもらおうのであります。

にちにちの命をいただいていることはもちろん、全ての「あたりまえ」であることに感謝や御礼の気持ちをお忘れなことが、大切であると思っております。

「ここから通っています」 学園生の故郷

高梁市

この地域には、次のようなものがあります。

- ① 沢柳の滝
- ② 大賀デッケン（国の天然記念物）
- ③ 弥高山の仏舎利塔
- ④ 弥高山の雲海
- ⑤ 穴門山神社（平安時代後期から続く）
- ⑥ 無煙炭（昔、炭鉱の町）

さて、ここはどこでしょうといえども、答えられるものでもなく、とりあえずこの地で核となることについて列挙してみました。

そう、ここは岡山県高梁市川上町です。この地に嫁に来て初めて大賀デッケンという言葉を目にし、これは何ぞやと日ごろから思っておりまして。国の天然記念物というくらいだから大層なものなのだろうと思っていたところ、この投稿のお話をいた

だいたので、調べるいいきっかけになりました。

この辺りは古生代と中生代の地層がひっきりかえっているということらしいのであるが、従来は断層によるとされてきたが、現在では褶曲作用によって地層全体が裏返しになったために、古生代の地層が中生代の地層より上になったという説が有力らしい。この地域は石灰岩が多く取れるのであるが、その秘密はどこにあるのだろうか？

その大賀デッケンの近くに沢柳（さなぎ）の滝があります。これはこれはきれいな滝で、我が家のサイクリングコース一番です。マイナスイオン全開で癒されます。

またまた大賀デッケンの下の地層からは無煙炭が出ます。今でも田んぼを掘るとポ



ロボロする無煙炭が出てくる出てくる。なんと50年前には、この地は炭鉱で賑わっていたそうで、今や町人口30000人足らずのこの過疎地に、銭湯や映画館、キャバレーがあったというから、これまた別の意味でのロマンを感じますねー。おっと紙面がなくなってきたぞ！足早に紹介すると、雲海で有名な弥高山があります。雲海だけではなく仏舎利塔もあり、宗教的な意味合いも強いところです。その弥高山のふもとに穴門山神社があります。下に下にまだまだ下に降りていきます。空気が変わり、これもまた別世界が広がります。かなり位の高い神社のようです（ちなみに私はこの神社で結婚式を挙げました）。

以上、川上町の一部を紹介しました。岡山県には有名な製鉄所や自動車工場があります。鉄は人間の生活になくてはならないものです。これを作るために石炭（コークス）や目の前に広がる石灰岩が必要であること。この地球ロマンが車などの原材料を作るんだ！ということ思いながら、親子共々、いろいろなことに興味を持っていきたいものです。何でもつながついているんだな、不思議と。

中1の母 平松 徳子

井原市

今年、市政60周年を迎える井原市は、岡山県の西南部に位置し、温和な気候に恵まれ、美しい自然に囲まれた人口約43000人の暮らしやすい町です。

井原市は、この温和な気候により青野町の「ぶどう」や芳井町の「明治ごんぼう」などのいろいろな特産品があり、さらに観光名所もたくさんあります。

まず、ぶどうの里・青野には、葡萄酒漫館があります。皮ごと食べられる「瀬戸ジャイアンツ」、「シャインマスカット」、大粒で味も濃厚な「ニューピオーネ」。どれもおいしくて、我が家みんな大好きです。進物にしても大変喜ばれます。

そして、「明治ごんぼう」。重粘な土壌で作られたゴボウは味と香りがよく、きんぴらごぼうにすると最高です。

井原の観光名所としてあげるのが、田中美術館です。近代彫刻家の巨匠・平櫛田中の作品を保存展示してあります。岡倉天心と西山禾山に思想的な影響

を受け、伝統的な木彫技術と西洋の彫塑を学んだ田中の作品は、観る者を引き込む緊張感と人間味あふれる豊かな創造性を持っています。代表作としては、6代目尾上菊五郎をモデルに約20年の歳月をかけて完成した「鏡獅子」（東京国立近代美術館、国立劇場展観）があります。何年前か前、東京からこの「鏡獅子」が井原に帰って来た時、私も子供と一緒に観に行きました。彫刻とは思えないリアルさに感動したのを覚えています。どんなに苦しいことやつらいことにも負けずに頑張る、素晴らしい彫刻家になった「田中さん」。「いまやらねばいつできるわしがやらねばたれがやる」という有名な言葉を残して、107歳でその生涯を閉じました。井原市のマスコットキャラクターである「でんちゅうくん」は、この平櫛田中先生の「鏡獅子」をモデルにしており、各地のイベントにひっぱりだこです。

そして美星町は、沖縄県石垣市



と長野県南牧村と共に日本3選星名所に選ばれました。

「星の郷美屋」として、地域活性化をめざして、さまざまなイベントが行われています。また、この町には、口径101cmの望遠鏡を備えた国内最大規模の公開天文台があり、夏の三角形など様々な季節の星空を見ることが出来ます。ぜひご家族で満天の星空を見に来てください。

1学期が終わり、我が子も学園生活にもようやく慣れてきました。これも先生方や諸先輩、友達のおかげと感謝しています。早く、将来の目標を定め、これから益々充実した楽しい学園生活を送れるように、勉強に部活動に励んでほしいと思います。

高1の母 北田 文江

出会いこそ財産

新宮 拓

(高52回)



私は今、テレビ番組の制作ディレクターの仕事をしています。ディレクターというのは、番組の企画から、取材、撮影、編集と、放送までの全ての過程に関わる職種です。大学卒業後、NHKに入局。初任地は岡山局でした。その後、東京のスポーツ部に異動し、現在もスポーツの番組を制作しています。今は、週末の夜に放送している「サタデースポーツ」「サ

ンデースポーツ」という番組を担当しています。

スポーツ部ではこれまで、夏のロンドン五輪ではマラソンを、冬のソチ五輪ではフィギュアスケートを担当してきました。今年の春からはプロ野球担当になり、12球団の中の注目チームや選手を集める仕事を主にやっています。解説者の人をスタジオに呼んで、専門的で新しい視点を伝えたり、特定の選手に密着し、その選手が胸に秘める思いや努力をVTRで伝える特集を放送しています。プロ野球の取材は、メディアの数も多く、また何年も取材をしている記者も多く、選手から話を引き出すのは簡単ではありませんが、球場に足繁く通うことで、何とか顔を覚えてもらっている最中です。

今年で、就職してちょうど10年になりました。本当にあつという間でした。10年前の5月、東京での1カ月間の新人研修を終え、初任地の岡山に来た時のことを今も鮮明に覚えています。私の出身は広島県ですが、高校3年間を通った金光学園がある岡山局に赴任することになったことに不思議な縁を感じていました。岡山局に勤務した間は、本当に県内の

様々な所に取材に行き、多くの人に出会いました。北は、西栗倉村の林業、鏡野町のスキー場、新見で千屋牛を飼育している高校生。東は、備前焼や、邑久や日生のカキ漁師。西は高梁の備中神楽やピオーネ農家、笠岡ラーメン。南は玉野の造船会社や笠岡諸島。いろんな場面が目には浮かんできます。世の中のことを知らなかった私を、取材先の方々は優しく迎え、忙しい中、時間を割いて話をしてくれました。残念なことに、わが母校に取材でお世話になる機会はなかったのですが、岡山から東京に異動する前の最後の仕事となった夏の高校野球県大会の中継で、決勝戦まで勝ち上がった母校の選手たちのプレーを中継できたのはいい思い出です。

今の仕事をしていてやりがいを感じるのには、やはり視聴者の方の反応です。放送後、視聴者のツイートをチェックし、どんな意見が書かれているかを確認するのは、ドキドキもありますが、結構楽しみでもあります。ソチ五輪後、それまでもっと取材していたフィギュアスケートの高橋大輔選手のドキュメンタリー番組を放送したのですが、その時のツイートに

すごく嬉しいものがありました。「放送をたまたま見ていたら、何故だか涙が止まらなくなってしまった」というような内容でした。私自身も、高橋選手のことには岡山局時代から取材し、特に思い入れのある選手でしたので、とても嬉しかったです。放送までにはさまざまな苦労がありますが、「やってよかったな」としみじみと思いました。

もう一つ今の仕事のやりがいは、多くの人との出会いです。取材が終わっても、毎年賀状を送ってくださる方や、毎年冬になるとカキを送ってくれる漁師さんがいます。多くの人生に触れることで、自分の人生が何倍も濃密なものになっていく気がしています。

ディレクターの仕事をしていて改めて大事な点だと思うこ



とは、コミュニケーションです。勉強は一人でもできますが、仕事は一人では決して完成しません。ディレクターは、自分のやりたいことを意思表示し、プロデューサーに企画のGOサインをもらう。カメラマンや編集マンに自分のイメージを伝え、撮影・編集してもらう。コミュニケーションの積み重ねで仕事が少しずつ進んでいきます。いつ声をかけて相談すれば、相手は気持ちよく応じてくれるか、いつも考えています。そのためには、まず自分が何をしたいかを明確にしておくなければいけません。私は毎朝、その日に、誰に何を伝えたいかといけなのかを書き出すようにして、何とか仕事が順調に進むよう心がけています。

私は、小さいころからテレビが好きで、高校の時には「将来はテレビ局で働きたい」と漠然と考えていました。ブラウン管の中の華やかな世界への憧れもありました。本気でテレビのディレクターを志したのは、大学2年生の時です。当時放送していた、俳優やスポーツ選手が、自らの夢や挫折、目標を熱く語る番組に熱中し、何かパワーをもらえた気がしました。「自分も、見ている人がパワーをもら



えるような番組をつくりたい」と思うようになりました。その思いは、今も変わっていません。見ている人にパワーを与えられる番組を自分が作れたかと考えると、「まだまだだな」というのが正直なところですが、今後、そんな番組を1本でも多く作りたいと思っています。

寄り道か、必要な道か

藤井 幹久

～*～学園随想(71)～*～

Offer me 100 Bond, regular. (1は百万ドル)

「アメリカ国債(30年債)を1億ドル、翌日決済で買いたい、値段は？」この売買を一日に何度も繰り返す。1円動けば約1億円の損益が出る。値動きから目が離せない。



ロンドン勤務時代の写真

14年前、私は、外資系証券会社に勤務し、東京大手町とあるビルの中で、外国の債券やファンドを顧客に販売したり、買い取る営業の仕事をしてきた。さらにその6年前は都市銀行

で、自ら国債や先物・オプションの売買をしていた。目の前の6台のスクリーンを見ながら、市場の値動きに注目し、投資家の心理状態を考えながら、利益を上げることに全力を注いだ。自分のキャリアや、生き方について、私には、「社会の役に立っているのか」「何らかの教育を通して、未来を切り開く若者の人生にプラスにかかわりたい」という思いが常にあった。

働きながら、33才で日本大学の通信教育で英語の教員になるための勉強を始め、35才で教育実習にいき、36才で縁あって、金光学園の教員になることができた。

【年上の後輩】

年は少しとっているが、教育現場のことを全く知らない人間が、いきなり職場に入ってきたのだから、当然、当時の若



ニューヨーク勤務時代の世界貿易センター

手の教員も、年配の教員も、この36歳に手を焼き、大変やりにくかったに違いない。実際、出席簿の管理の仕方、学園のカリキュラムも、さっぱりわかってない状態で、私はどれほど、先生方に助けていただいたかと思うと、今でもどんなに感謝してもしきれない。そもそも、その年齢の私を採用するにあたっては、学校法人としても、大変な決断であったに違いないと常々思う。

【学園教育】

振り出しは、高校1年担当だった。人生初の担任も経験させていただいた。驚きの連続であったが、まずは生徒の企画力に驚かされた。初年度はほつま祭で映像部門に挑戦、映画を撮影するための口

けない、というより、正直何もできなかったのだが、生徒自身が、練習日程からシナリオやキャスト決め、撮影や編集を全て行うその企画力と行動力には度胆を抜かれ、こういった生徒たちを育てている金光学園の教育という土壌の豊かさに感嘆したものだ。個人的には、白石島でロケを行う前日に柔道部の合宿で、足の靭帯を痛め、びっこをひいて海岸を歩いたことや、金光図書館前の撮影後、佐藤元信前校長にばったりお会いし、自宅に招かれ、コーヒーをごちそうになったことが、忘れられない思い出だ。

翌年は高2で、演劇に申し込んだ。クラスには指導力抜群の女子生徒Sさんがおり、「先生、グランプリを絶対とるけん」と宣言して、とまどっている私を励ましてくれるだけでなく、「先生、学園に在る間に必ず中学の担任をしてな。学園が存分に味わえるよ。その時今私たちがやっている演劇の練習を、中学校の生徒に指導してあげてな。」などと喋って、くれ、全くどちらが先生かわからない状態の中で、約束通り、担任初のグランプリをプレゼントしてもらったことも忘れられない。(私はその後、中3を2回担任させ

ていただき、彼女の言っていたことを守る努力をした。)

【未来へ】

順風満帆で全てうまくいっている生徒は、実際ほとんどいない。勉強が得意な生徒はその子なりに、高い目標で競う厳しさを求める。振り返れば、大きな悩みや問題を抱えた生徒、自分の進路目標を決め、努力し続け最後にそれを実現した生徒、できなかった生徒、在学中に親を亡くした生徒に対し、私が一生懸命、何か役に立ちたいと関わろうとしても、力になれないこと、あるいは自分の言動を後悔したり、反省することも本当に数多くあった。その一方で、卒業生が、社会にもまれ、成長して、学園に立ち寄って話をきかせてくれる教員の醍醐味も、数多く経験させていただいた。

私は現在学年を離れ、英語の教科指導以外では、主に進路を担当している。子供たちをめぐめる環境は、目まぐるしく変わり、大きなグローバル化の波が押し寄せている。国内外での競争も激しくなり、大変な時代だとも思う。しかも、心を持たない機器に囲まれ、血の通わないメー

ルや情報に取り囲まれ、真の人間性を磨くには、大変厳しい時代なのかもしれない。この時代にあって、教師として、生徒の貴重な多感な時期に、この金光学園で彼らと出会い、彼らの人生にかかわるチャンスを提供してあげたいことは、ありがたい限りだ。それと等しく嬉しいことは、生徒から学ばせていただくことが実に多いことだ。生徒はみな、それぞれ、優しさや、アイデアや発想力、誠実さや、様々な、目を見張るような能力を持っており、私は心から彼らを尊敬している。彼らが、それぞれの良さを大切に、その自分の良さを軸に、前向きに物事を捉え、不得手なことでも気持ちの面で克服して、力強く人生を歩んでいけるよう、何かしら未来を拓くヒントを少しでも提供できれば、と願う今日のごろである。



思い出の初めての高3学年団

やつなみ保護者会のページ

指導部

部長 勝野 涼子

指導部は、今年度8名の部員で活動します。主な活動は、やつなみ保護者地区会の開催をすすめ、学校外での生徒の補導や指導に関わることです。

地区会は、一学期の行事も一段落する7月中の開催を設定しています。新しい環境の中、地区ならではの悩みや心配事や疑問など、同じ地区の保護者同士、学年を超えて情報交換ができる場となっております。担当の先生方に相談にのっていただいたり、学校への要望をお願いしたり等意見を聞くことのできる貴重な会ですので、多くの方のご出席をお願いいたします。

学校外における生徒の指導として、主に下校時の列車乗車マナーの指導、金光駅周辺、他の街頭での指導・補導に協力していきます。

教養部

部長 三木 朋子

今年度は6名の部員で主に3つの活動に取り組んで参りました。

夏のPTA指導者研修会では、「よりよい親子のかかわり」をテーマに講話を拝聴致しました。子どもの存在を喜び、感謝の心で子育てをして、子ども自身の自己成長力を信頼して見守りましょうとハツとする思いで聞き入りました。

秋の研修旅行は、藤田美術館で東洋古美術品を鑑賞、大園園で庭園を眺めながらのランチ。今春開業のアベノハルカスでお買い物ゆつたりとしたコースで、慰労と親睦を深める事が出来ました。

次ページでは、学園に所縁のある方々に思い出やエピソードを俳句にして寄稿して頂き、力がページを飾って下さい

庶務部

部長 藤原 智子

今年度の庶務部は30名でスタートし、一大イベントである友愛セールを9月14日に開催致しました。保護者や地域の皆様から心のこもった素敵なお品や遊休品をご提供いただき、売り場も大変盛り上がりました。また多くの方にご来場いただいたおかげで、商品も完売し庶務部一同、充実した時間と達成感を味わうことができました。ありがとうございます。

私達庶務部は、友愛セールに向けて6月から週に一度のペースで計13回の手作り会と4回の講習会を開催し、毎回庶務部の方はもちろん、手作りに興味のある多くの保護者の皆様にご参加いただきました。おかげ様で大人気の金光ベアを中心にクラブバッグや部活シリーズのマカロンなど、バラエティに富んだ作品を作ることができ、笑顔があふれる活気ある手作り会となりました。心から感謝申

11月19日(水)
**やつなみ保護者会
 研修旅行**
 養部 原
 教養 海

11月19日、やつなみ保護者会52名で大阪方面に研修旅行に行きました。

当日、中谷会長が体調を崩され、私達に対するお気遣いからか(？)現地集合、現地解散というハプニングもありました。

濃いキャラクターの添乗員さんと藤田美術館、あべのハルカスに行きました。

藤田美術館では、国宝、重要文化財に指定されている所蔵美術品などを見学し、心が洗われるような穏やかな気持ちになりました。中でも、窯変天目茶碗の瑠璃色の窯変と呼ばれる斑紋は、気品ある美しい輝きを放ち、皆さんの目をくぎ

上げます。手作り会は可愛い作品を作るだけでなく、保護者同士の絆を作り、交流を深める場でもあります。手作りに興味のある方、手作りは苦手だけど友達をつくりたい方、どうぞ皆様手作りにご参加ください。

皆さん、共に楽しい時間を過ごしましょう！

付けにしてみました。昼食後、あべのハルカスへ。エレベーターの中では、皆さん女子高生のように「わー」「きゃー」と。佐藤副校長も「皆さん、少女のようですね」と(笑)そして地上300mから見る景色を堪能しました。その後、お勧めのお店で買い物をしたりしながら、あつという間の一日でした。

今回の旅行で、親睦の和も拡がり、研修旅行の目的は達成出来、有意義で楽しい一日を過ごせました。



やつなみ寄稿句

(卒業生)

ありつたけの 思い出たちは 永遠の宝
 暮れなずむ 夕陽に謝する けふの安全
 がくえんの こどもらみるに なつかしき

(保護者)

現役

さくら咲く 天国でも してるか 孫自慢
 学び舎に 恩師のありて 今の若
 背のびする 子らの笑顔と 学び舎よ
 帰郷を待つ 夕顔の白 極まれり
 茄子を焼く 風の向かうに メール音
 やつなみの 風がむすんだ 祖父父僕
 小言いう 目線上向き 笑み隠す
 集会時 鶴の三声か 懐かしき

(教員)

OB
 前校長 愛犬と行く 稲穂道
 青桐へ 歴史を語る A校舎
 秋晴や 歴史を語る 旧校舎
 扇額に 温故知新と ある館
 合言葉 いつも心に 菊薫る
 花開く 文藝春秋に 卒業生
 「おまかせする」心定まる 霜の朝(病を
 得)

現役

やつなみの 波間に見ゆる 新しき光
 早や十年 たくさんもらった 宝物
 雪解に やつなみ照らす 金色の湯
 薫風を 背に受け漂と 記念館
 生き生きと 川鳥蛙 学園も (ALT)

金光学園やつなみ保護者会 会長就任挨拶

拝啓 金光学園やつなみ保護者会の皆様方におかれましては、時下ますます清祥のこととお慶び申し上げます。また平素より当会の活動に對しまして深いご理解と多大なるご協力をいただき、心から御礼申し上げます。

さて、昨年に引き続き本年度もやつなみ保護者会の会長をさせて頂いていただくことになりました。この1年間を振り返りますと、3役の皆さんをはじめとして素晴らしい役員の方々、そして多くの保護者の皆様の温かいご協力をいただき、素晴らしい1年間を過ごすことが出来た、と思っております。特に120記念館の建設等のため保護者会費の見直し、その他活動の活躍に對して保護者会からの支援等、平素の活動と異なった対応を求められた場面でも、皆さんのご理解を得て円滑な対応することが出来ました。皆様のご理解とご協力に對してあらためて心からの感謝を申し上げます。

本年度はいよいよ本学園の創立120周年の節目の年であります。昨年より建設に着手してありました「120記念館」がいよいよ竣工し、本格運用されます。そして1年間を通して、記念の様々な事業が計画されておりますが、是非保護者の皆様に積極的なご参加をお願いいたします。

120年という全国でも有数の歴史を誇る本学園が今後ますますの発展を遂げていくためには素晴らしい才能やネットワークを持たれた卒業生や保護者の方々と、学園がますます連携を深めていくことが大切ではないか、と思っております。ただ、1年間会長と



金光学園やつなみ保護者会
会長 中谷 庄吾

いう立場から学園を見させていただいた時に、まだまだ可能性を活かし切れていないのではないかと感じることもありました。1年間という新たな任期を与えていただいたので、3役の方々や他の役員の方々とも相談しながら必要な提言も行っていきたいと思っております。

私は関西地方で生まれ育ち、本学園のことは息子が入学するまでは殆ど知りませんでした。息子が入学後、色々な活動を通じて学園のことを深く知るようになり、学園の素晴らしさを知るようになり、何故学園では自分の子ども、そして孫までも入学させる保護者が多いのか、というのがよくわかりました。素晴らしい学園の120年という節目の年に卒業生でもない私が保護者会長をさせて頂いていただくことについては、はたして自分が相応しいのか、という思いもございますが、これまでお世話になった先生方や保護者の皆様のご恩にお応えし、また本学園で学ぶ子供たちが素晴らしい日々を送ることが出来るように、一生懸命務めさせていただきます。

ただ、私は至らぬ点多々ございますので、もし皆様の方でお気づきになったことや、ご意見等がございましたら、どうかご遠慮なくお伝えいただけます。敬 具



角南 佑典



今年度より金光学園の高等学校に勤務させていただきますことになりました。

た、角南佑典と申します。高校1年団に所属しており、英語を担当しています。

私がこの学園で働きたいと思ったきっかけは、岡山大学大学院に所属していたとき、こちらで探究活動という授業のティーチングアドバイザーをさせていただいていたことです。週に1回だけの勤務でしたが、授業に一生懸命取り組み自分で見つけた課題を探究しようとする生徒の姿、そして廊下ですれ違うたびに大きく明るい声で挨拶してくれる姿がとても濃く印象に残りました。

長年の教師になるという夢が叶った今、私の新たな夢は生徒たちが現代のグローバル社会で負けない力を養うことです。



佐伯 香織

今年度より金光学園に勤務させていただきます、佐伯香織と申します。

生徒の皆さんの夢は何でしょうか。共に夢を見つけ、叶えましょう。

私は、大学時代に出会った金光学園を卒業した友人から聞く学園生活の様子に、ひそかな憧れを抱いております。ご縁をいただき、晴れて金光学園に勤務させていただきますことができたことは本当に幸運なことだと感じています。

生徒一人ひとりとしっかり向き合いたいから、生徒が将来思い出して語ることができるような充実した学園生活を作るお手伝いが出来れば、と思っております。一生懸命頑張りたいと思いますので、ど



村山 真生

今年度より勤務させていただきますことになりました、村山真生と申します。

うぞよろしくお願いいたします。

す。教科は理科で、中2学年団に所属しており、部活動は音楽部吹奏楽団を担当させて頂いております。4年前に金光学園を卒業し、大学では、化学を専攻し、この度母校に帰ってまいりました。振り返ってみると、私の金光学園で過ごした6年間は部活動抜きには語る事ができません。入学してから高3の夏休みが終わるまでテナーサックスとともに過ごしました。良き先輩、後輩との深い絆で結ばれ、多くの感動を得ることができました。限られた時間の中で部活動と勉強を両立するのは、とても大変でしたが、先生方のご指導と家族や友人のサポートのおかげで今があるのだと感謝しております。

今後は、私が生徒をサポートする番です。未熟ではありますが一生懸命努力し



Hello everyone! My name is Mohd Usairy Syafiq. Please call me Usairy. I was born in a place called Pahang, Malaysia. I am studying at Okayama University, majoring in Biomedical Engineering.

There are eight people in my family and I am the youngest. My hobby is football. I play football almost every day, I watch European football on television every week, and I watch football at the stadium twice a month. I am a fan of Fagiano Okayama, Manchester United, and of course Japan's National Football Team. My favourite Japanese football player is Yasuhito Endou. Ask me about football and we can have a discussion all day long. Last but not least, it is a pleasure to come here to Konko Gakuen and to meet all of you. English is not my native language either, so let's explore the beauty of English together!



"Good morning everyone. First of all, I would like to briefly introduce myself. My name is Mohd Aliff Afra. You can call me Aliff. I come from Malaysia. Currently, I am a PHD student at Okayama University of Science. My research is about Robot Arms. This project has

potential to be used in rehabilitation. For your information, I have been here for almost 8 years. I really enjoy living in Japan because the environment is clean and beautiful. I am interested in many things such as music, reading novels and watching movies. I love to read love stories and suspense thrillers. I think learning English is very important for students. I believe most students at some point in their lives will need to stand up and speak English in front of people. As a result of practice, students will be able to speak in English and increase in general confidence. So this is "me" standing in front of all of you. Thank you."



瀬戸 信貴

今年度より、金光学園に勤めさせて頂くことになりました。瀬戸信貴と申します。教科は数学で中学1年生の学年団に所属しております。また、部活動は音楽部吹奏楽団を担当しています。私の父母が学園出身であることや、昨年度にほつまクラスの探求授業のTAとして金光学園に行かせて頂き、生徒と活動を共にする中で、学校の全人教育の考え方や生徒の素直な姿に感銘を受けたこともあり、金光学園で働きたいという気持ちがとても強くありました。なのでこの度、勤務させて頂くことになりとてもうれしく思っております。

生徒一人ひとりが主体となって物事を考えていくサポートができるような授業づくりを目指して、笑顔忘れずに、全力で頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。

てまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



濃野 房子

今年度より非常勤講師として金光学園に勤務させていただきます。濃野房子と申します。教科は家庭科で、中学1年と2年生を担当いたします。

食品が持つ栄養素の過不足により、さまざまな症状が現れて病気の原因をつくることなどを理解させ、生活習慣病を未然に防ぐ指導をしていきたいと思っております。

また、教育相談のカウンセラーとしても勤務させていただくことになりました。生徒の立場に立ち、受容・傾聴・共感的理解に努め、生徒とラポールを形成しながら温かい気持ちで接し、生徒の悩み相談に役立つようカウンセリングを行いましたと思います。

趣味は、料理・洋裁・絵画・琴・生花・創作人形・卓球・バスケット・ダンスなどです。

純情で明るく元気な生徒さんにお会いできてうれしいです。また温かく思いや

はじめまして、今年度より非常勤講師として金光学園に勤務させていただきます。



中藤千代雄

35年間あまり県内の公立高校に勤務して参りましたが、3月に定年退職をいたしました。この度ご縁がありまして母校でもある金光学園にお世話になることになり、大変嬉しく思っております。私が生徒として通学していた時代は遙かに遠くになってしまい、当時の面影を残す景色も少なくなりました。中学校のときに北側にある木造校舎で学んだことが懐かしく思い出されます。今でも変わらないものは記念講堂とメタセコイアでしょうか。学校に来る時間は限られています。頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

りのある金光学園の先生方に大変感謝致しております。一生懸命頑張りたいと思っておりますので何卒よろしくお願申し上げます。



メタセコイヤ

高田 淳平くん 物理学会ジュニアセッションで奨励賞を受賞

高3 高田淳平君が、3月27日(木) 3月28日(金)に東海大学湘南キャンパスで行われた第10回物理学会ジュニアセッションに参加しました。

高田君は、探究Ⅱの授業で、中学生の

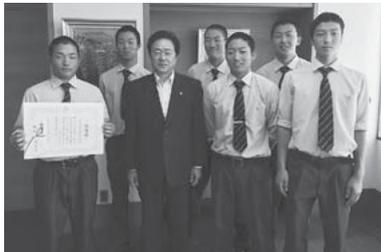


ときから続けてきた『茶柱の発生要因』を研究テーマとして選び、研究を行いました。熱意のこもった発表で聞く人を惹きつけていました。質問にも自信をもって答え、活発にディスカッションを行いました。発表の結果見事、奨励賞を獲得することができました。

野球部が浅口市長より善行表彰を受ける

5月28日、野球部が浅口市より地域の清掃活動やあいさつ運動の取り組みに対して表彰を受けました。浅口市市役所で感謝状の贈呈式があり、小林監督以下、野畑主将ら3年生6人が出席しました。野畑主将

は「先輩から受け継いだ伝統が、地域に役立っていることが実感できて嬉しいです。」と話していました。



化学ゼミ(高2 青山晃大くん・荒島拓馬くん・岡元太一くん・黒田竜生くん・平松祐真くん)が「オガ炭で燃料電池の道が開けた」の研究成果を発表し、多くの表彰を受けました。

7/31(木)

に岡山大学創立50周年記念館で行われた「高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」において、ポスター発表で、「ポスター優秀賞」を受賞しました。また、8月6日(水)・7日(木)パシフィコ横浜で行われたSSHの全国大会である「SSH生徒課題研究発表会」に参加し、「ポスター発表賞」を受賞しました。以下、本人たちの感想です。



私達は、岡山大学の研究発表で優秀賞を受賞し、その後8月に行われたSSH

青山 晃大

全国大会に行ってきました。やはり、全国から素晴らしい研究が集まっていてレベルが高かったです。そんな中で自分達の発表をして、「ポスター発表賞」を受賞できたのはうれしかったです。

荒島 拓馬

私たちは化学ゼミは、岡山大学の研究発表会で優秀賞を受賞し、横浜のSSH全国大会に行ってきました。初めて全国という舞台で発表したので、とても緊張しましたが、自分達の全力を尽くすことができました。会場では大学の教授から小学生まで様々な人々に対して発表を行うことができ、とてもいい経験になりました。ただ、外国人の方が来られたときに思うような発表ができなかったのが、3月に行われる国際発表会での雪辱を果たしたいです。また、研究にご指導下さった化学ゼミの岡崎先生にこの場をかりてお礼を申し上げます。

岡元 太一

私たちは岡山大学の研究発表で優秀賞を、横浜の全国生徒研究発表会でポスター賞を受賞することができました。横浜では人も多く、緊張しましたが、自分たちの研究の成果をきちんと伝えることが

できました。多くの先生方に助けていただいた研究でこのような賞を受賞できて本当に嬉しかったです。

黒田 竜生

私たち化学ゼミは横浜で行われたSSH全国大会に行ってきました。会場はとても広く、人も大勢いました。私たちは学校の代表としてその場に来たということでも緊張しましたが、何度も練習しただけあり、ポスター発表賞をいただくことができました。この経験を次に生かしていきたいと思います。

平松 祐真

私たちは、SSH全国発表会に参加しました。それまでに何度も練習をさせていただきましたが、本番になると少し間違えたり、うまく質問に答えられなかったりして、うまくいかないときもありました。が、何とかわかるように説明できました。そして、賞をとれたときには本当に驚きました。そしてとてもうれしかったです。もし次回があるならば、今度は間違えたりせず、きっちり発表できるようにしたいです。

岡辺雅男先生 私学協会功労者表彰!



7月29日(火)にメルパルク岡山で行われた「岡山県私学教育振興協会」で、私学協会功労者として表彰されました。岡辺先生は、私立学校の教職員として永年に渡り職務に精励されたことが讃えられて今回の表彰となりました。

以下、岡辺先生のコメントです。「今回の受賞を心から感謝し、これを励みに一層金光学園教育に力を尽くしていきたいと思えます」

今後のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。

『理数に挑戦2014』ファイナルステップで『数学賞』を受賞

11月2日(日)に岡山大学で開催された『理数に挑戦2014』ファイナルス

テップに、中学3年1組の高原健君が
 出場し、「数学賞」を受賞しました。おめ
 でようございます。



「第7回浅口市長杯 中学生英語スピーチコンテスト」に参加して

11月11日(火)、浅口市寄島町公民館を会場に「第7回浅口市長杯 中学生英語スピーチコンテスト」が行われ、中学生生徒が暗唱部門、創作部門でそれぞれグランプリ、準グランプリを、暗唱部門では審査員特別賞も獲得できました。
 練習期間が短い中、早朝や昼休み、放課後の時間を使って生徒は毎日真剣に練習を重ねました。暗唱の部では、教科書の本文をジェスチャーやアイコンタクト

を意識しながら語り、
 創作の部では体験から学んだことを軸にスピーチを作成しました。
 お互いにスピーチを聞き合っている練習、
 演壇に立つ



て本番と同じ雰囲気でも練習しました。時にはビデオを撮影し、自分の良い部分や改善点を意識しながらスピーチの質を高めました。その結果、生徒は大きな成果と達成感を感じることができたと思います。生徒の潜在能力の高さに改めて感銘を受けるとともに、今後の成長が一層楽しみになりました。今後も、「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく指導し、将来、生徒が自由に英語を使える能力を身につけることを目標に、指導を続けていきたいと思います。

【暗唱の部】

活躍おめでとう

《コース》

「金光学園らしい演奏」

中1 杉田 愛佳

私は全国高等学校総合文化祭(総文祭)に出場することができて本当に良かったなと感じました。総文祭は文化部のインターハイのようなもので、私はその総文祭の日が近づくとドキドキ、ワクワクして楽しみな気持ちが高まりました。さらに終業式のときには壮行会をしていただき、より頑張るぞ!という気持ちになりました。

出発のとき、いよいよだなと感じました。1日目、まずは同じ合唱部門に出場する人たちとの交流会がありました。その学校や学校がある都道府県の特徴などを紹介しあい、ただ歌を聴くだけではなく、お互いのこと知り合えてよかったです。

2日目はついにやって来た本番の日。

水戸市などから金光教の人がわざわざ応援に来てくださって、私は改めていろいろな人のおかげで、この総文祭に私たちは出ることができると感じました。だから本番のときには私は感謝の気持ちも込めて歌いました。そしてせっかくこのような舞台上に立てるのだから、しっかりと楽しんで歌おうと思いました。

本番終了後、佐藤副校長先生が「金光学園らしい演奏ができた」と



グランプリ…小林 千夏、大藤 瑞乃
 準グランプリ…岡 優真、高原 健
 審査員特別賞…河村 征
 【創作の部】
 グランプリ…才野 隼
 準グランプリ…浪越 素子、浅野日向子

第39回岡山県中学校弁論大会『研究会賞』受賞

11月17日(月)に山陽新聞本社で行われた上記の大会に、中学3年2組の植田七菜子さんが浅口市代表として『たった一言で』という論題で出場し、『研究会賞』を受賞しました。
 おめでとう
 ございます



「思います」と言うくださり、本当にうれしかったです。今までたったこの一回の演奏だけのためにみんなでいっぱい練習をしてきて良かったと感じ、とても達成感がありました。

総文祭だけでなく、この3日間はとても貴重な体験ができました。特に3日目の幕張総合高校合唱部との交流会はなかなかできない体験だったと思うので、普段の練習やサマーコンサートに向けて学んだことをしっかりと生かしていこうと思います。このような機会をいただき、本当にありがとうございます。

《高校陸上部》

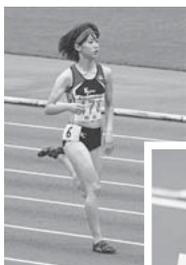
インターハイに出場でき達成感でいっぱい

高3 徳原真奈美

中・高6年間ずっと憧れ続けてきたインターハイに出場することができ、達成感でいっぱいです。インターハイは、普段の試合では経験したことのない緊張感を味わったり、全国トップレベルの選手達と競うことができました。400メートルと400メートルハードルは、あつという間に終わっ

てしまったけれど、ここまでの道のりを考えると、周りの支えなくしてはあり得ません。ここまで来ることができたのは、毎日練習を共にし、支えてくれた先輩や後輩、私にこの種目を勧め、アドバイスをくださった顧問の先生や多くの方々の応援のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、後輩にバトンを託し、インターハイ出場という目標を達成してほしいです。陸上競技を通して得た自信や仲間が、私の宝物です。将来さまざまな壁にぶつかることがあるかもしれませんが、陸上競技の経験を生かして乗り越えていきたいです。



《高校バレーボール部》

素晴らしい経験ができた

高3 佐藤 良樹

「ピーッ」と笛が鳴り、我がチームは岡山県で一位となる瞬間を迎えた。一斉にみんなが駆け寄り歓喜に沸いた。とうとう自分たちはインターハイ出場の権利を勝ち取ったのだ。

みなさんの支援もあり、自分たちは無事に東京へ行くことができた。まずは、東京体育館での第1試合、相手は強豪校である岩手県の一関修紅。それでも自分たちは、何故か負ける気がしなかった。現地には校長先生を始め、先生方、同窓生の方々、金光教会の方々、保護者等、たくさんの方々に応援してくださった。その甲斐あって勝利を得ることができた。感動した。チームの仲間と本当に喜び合った。惜しくも第2回戦は負けがしまい、悔しくもあったが、自分たちの心は晴れ晴れしていた。今振り返っても、素晴らしい経験ができたことを、大変嬉しく思う。今回勝利に導いてくださった亀山先生をはじめ、関係者の方々に深くお礼申し上げます。

《高校囲碁将棋部》

最後の全国大会を終えて

高3 羽仁 豊



僕は、博多で開催された第27回全国高等学校将棋竜王戦に出場しました。自分にとっては、5回め、そして最後の全国大会でした。絶対に日本一になると気合を入れ、親や顧問に無理を言っただけから現地入りをしました。予選は3戦して2勝すると通過ですが、1勝1敗で迎えた最終局。序盤でいきなり苦しくしてしまい、終盤は大差になり、最後まで指すことが辛すぎて、将棋を始めて初めて涙を流してしまいました。結局予選敗退となりました。翌日は、予選敗退者によるトーナメントに参加。4連勝で優勝。敢闘賞とトッププロ森内竜王の色紙をいただくと共に、記念写真を撮っていた

きました。
この大会で6年間続けた部活動も終わってしまいました。その中で培われた技術、嬉しさや悔しさはかけがえのないものです。今までお世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

《高校バワイリフティング部》

バワイリフティング世界大会に出場して

高3 久戸瀬康平

私は、ハンガリーで開催された第14回世界サブジュニアバワイリフティング選手権大会(9月1〜6日) 83kg級に日本代表として出場し、スクワット・ベンチプレス・デッドリフトのトータル550kgの自己新記録で6位に入賞することができました。

私が、バワイリフティングを始めたきっかけは、野球部で日々トレーニングに励んでいた去年の年末に、「バワイリフティングの大会に出てみないか」というトレーナーの一言でした。

何事もよい経験になると思う、秋季関西バワイリフティング選手大会に出場



し、大会新記録で1位となり、全日本選抜高校生バワイリフティング選手権大会への出場権を得て、そこで2位になりました。世界大会へ出場できることになりました。しかし、野球が最後の夏ということもあり、出場するかどうか悩みましたが、

先生方や友人たちの後押しもあり、出場を決めました。大会までは、日の丸の重圧や不安がありました。本番では開き直ることができ、目標値を達成することができました。一緒に行った代表の高校生や大学生はもちろん、他国の選手たちとも交流を深めることができました。たくさんの経験をすることができました。後押しをしてくださった方々には、とても感謝しています。この経験を最大限に生かしているいろいろなことに挑戦したいと思っています。応援ありがとうございました。

《高校放送部》

最初で最後の全国大会

高3 田邊 恭子

7月30日・31日に茨城県で第38回全国高等学校総合文化祭放送文化部門が開催されました。私は昨春秋に行われた岡山県の朗読部門の代表として出場しました。

今回朗読に選んだ本は宇月原清明作『安徳天皇漂海記』で、作者は岡山県出身の作家で、私の母のいとこでもあります。この作品は、難解な言葉も多く、



金光学園創立120年記念式典が、11月13日、厳かに挙行された。天候にも恵まれ、朝9時、校長と生徒代表（高3角南 周君、中3遠藤 稚子さん）が本部広前に参拝し教主金光様にお礼のお届をした。ほつま体育館に、240名のご来賓、ご遺族をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒1261名、幼稚園から2名の代表園児、教職員が一堂に会し、11時に音楽部吹奏楽団による「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。

金光学園創立120年記念式

まず、感謝・慰霊祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

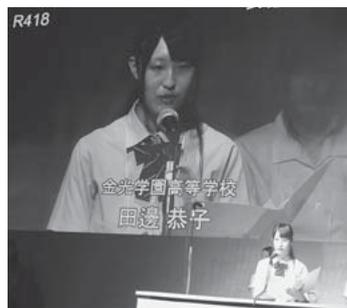
式典では、25年勤続の宰相裕一教諭と中原清江実習助手が表彰を受けた。続いて理事長挨拶、校長式辞、金光教務総長祝辞、岡山県知事ご代理 備中県民局長祝辞、浅口市長祝辞、岡山県私学協会会長祝辞、生徒代表の所願表明の後、学園歌斉唱で式典は締めくくられた。

昼食の後、13時40分から佐藤真海氏（パラリンピアン・陸上・走り幅跳び）より「夢を跳ぶ」をテーマに記念講演をいただいた。今の生き方が将来の自分の基礎・土台になることなど貴重なパラリンピットの体験から熱く語られ、今後の人生への大きな示唆をいただいた。その後、高校棟前で全教職員の記念写真撮影した。



表現するのが難しいという方もあり、全国大会の舞台で読むことに不安もありました。大会が、大会の1週間前に『高校生芸術フェスティバル二〇一四』で司会をしたことで、より自信をもち臨むことができました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、この経験は私にとってたいへん貴重なものとなりました。大会の実行委員会、当日の運営など、ほとんど茨城県の高中生が行っており、活気溢れる大会の雰囲気にも力をもらうことができました。

今回の大会だけでなく、これまでの部活動を通して得たものを将来生かしていきたいです。最後に応援してください周りの方々、部活の仲間、そして顧問の先生方、本当にありがとうございました。



《フィギュアスケート部》

第18回

全日本ノービスフィギュアスケート大会

中1 木科 雄登



10月25日・26日大阪の関西大学のアイスアリーナで第18回全日本ノービスフィギュアスケート大会が行われました。今年、ノービス最後の年。昨年は4位と、悔しい思いをしていたので今年は必ず表彰台へ上る事だけを考え、試合に臨みました。

試合では今まで練習した事をやれば必ず結果はついてくると信じて滑べりました。

内容は完璧なものではありませんでした。

だが、気持ち良く滑ることができ結果は3位!!

「やったー!!!」と叫びたい気持ちでした。身長が伸びる事で、足が痛くなったり靴を何度も変えたりと今年はずらいい1年でしたが、最後に結果が出せ、本当にうれしいです。また、来年から出場する全日本ジュニアの大会にも推薦され出場し、シヨート通過することができ新たな課題も見つけることができました。これからも日々努力を忘れず、夢を一つひとつ現実のものに変えていけるようがんばるので応援よろしくお願いします。





感謝並びに慰霊祭詞

学校法人金光学園理事長

佐藤乃武雄



掛けまくも畏き、生神金光大神、天地金乃神の御前に、学校法人金光学園理事長佐藤乃武雄、畏み畏みも白さく。
 畏かれど、天地金乃神はし、神御徳、天地に遍く満ちわたらせ給ひ、ものみなを生かし、万のこと整へ給ひ、わきても、天地の間に住む人間を神の氏子と愛で慈しみ給ひてあるは、忝きことの極みになむ。かく深き御思ひをかけさせ給ふも、人はそが御心を知らず、難を受けおるを神あはれと見そなはし、わが教祖の神に、九死一生の大患もて、知らず知らずのご無礼を悟らしめ、奇しき神みかけ蒙らし

め給ひ、厚き神引き立てのまにまに、取次の御業を事依さし給ひぬ。

かくて、神と人といよかけよで立ち行く道、初めて人の世に開かれ、あまたの人次々に救ひ助けられ、神比礼年とともに輝きわたりゆくが中に、わが金光学園はし、「神徳を受けよ 学徳を得よ」との教祖の畏き御旨を体して、明治二十七年十一月二十九日にも、神道金光教会学問所として創設せられ、道の教へに基づく人間教育を進めむとの全教の願ひをひた受けに受け、真に世のお役に立つ人材の育成を目指し、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を学園教育の合言葉として中高一貫教育を進め、教職員、生徒、保護者とともに、そが実践に励み努め、日に日に勉学に格しみつつ、ここに創立百二十年の記念のお年柄を迎へさせ給ひしことはし、実に忝きことの極みにして、礼び奉らむ言の葉もなし。

かれ、十一月十三日の今日の佳き日に、蒙り来たれる道のみかけを礼び奉り、今より後の更に厚き神比礼を願ひ奉ると、学校法人役員、教職員、生徒、保護者、同窓生達、御前に参ひ来集ひ、更に新合

祀霊神の遺族をはじめ、学園がお世話になりし人々を招きて、感謝並びに慰霊の御祭を仕へ奉ると、御前に心ばかりの味物を供へ奉り拝み奉りてあることの状態を、楽の調べ豊かに聞こし召し受け諾ひ給へと白す。

かく仕へ奉りて白さくは、今しも学園に学ぶ中学校・高等学校生徒、幼稚園児、合はせて千三百二十九名の若葉等は、天地のお恵みの中に生かされて生きていることに御礼を言ふ心を持ちて、勉学成就はもとより部活動・諸行事・奉仕活動などにも積極的に参加し、有意義なる学校生活を過ごさせ給ひ、とりわけ、文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクール指定も四年目に入り、加えてスーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定も受けしが、これまでの探究学習の成果の上に、全校挙げての取り組みに勤しましめ給ひ、殊に来春の進学等を迎ふる高校三年の生徒等にありては、それその願ひ成就のみかけを蒙らしめ給ひ、学園教職員にありては、心合はせて学園精神を高揚する御用に努め、万事に都合お練り合はせを蒙りて健やくそが運営に当たらしめ給ひ、かくて、創立

百二十年記念事業として執り行ひたる、「二〇二〇記念館」の新築工事を滞ることなく成し竟へしことを礼び奉りつつ、高棟耐震補強工事、中棟耐震補強工事の成就、金光学園幼稚園にありては、創立百周年以降の新たな展開を期していくため、万事のご都合お練り合はせを祈ぎ奉り、更には、創立百二十年以降の学園教育の行く手を確に歩ましめ給へと、畏み畏みも乞ひ祈み奉らくと白す。

言別けて、故金光中学校校主・金光山神大道立別命、同じく故校主・金光攝胤君、初代校長佐藤範雄君をはじめ、わが金光学園に縁深き学校法人役員、教職員、卒業生並びに生徒等四千六百二十八柱の霊神達、更には、こたび新たに合はせ齋き祀る、故学校法人理事長・旧三十七回卒業生・金光護佑大人、故金光図書館長・高十六回卒業生・金光和



道大人、故学校法人評議員・高四回卒業生・坂本忠次様、故金光学園ほつま同窓会副会長・高二回卒業生・村上昇様をはじめ、教職員、卒業生合はせて四百七十三柱の霊神達の御前に、今日の祭主、謹みて告り白さく。

あはれ、汝霊神達はや、あるいは畏き神御旨を受けて道のためにと学園の基を開き給ひ、あるいは教職員として学園教育にその一生を捧げ給ひ、あるいは学園を出でて母校の心を心としてそれぞれに世のお役に立つ働きを進め給ひ、あるいは志半ばにして口惜しくも幽世に赴き給ふなど、汝霊神達には、それぞれに生涯の限り、わが金光学園の教育にかかはりて尽くし給ひし御功績は高く尊く、仰ぎ奉るも由々し畏し。

かくて、こたびの創立百二十年記念式に当たりにて、改めて慰霊の真を捧げ奉らむと、心尽くしの味物を供へ奉り、それが慰霊の御祭仕へ奉りて捧み奉ることの状を、吹く笛の音も懇ろに、御心穏ひに相嘗めに聞こし召し受け諾ひ給ひて、更に引き続きて執り行ふ記念の式典をも、いとも厳かに仕へ竟へしめ給へと、謹み敬ひて告り白す。

会から「学校用材五百石船一隻積み出した玉島上がり」との電報が入り、明治三十六年から建設がはじまったのであります。そして多くの方々の協力を得て、明治三十七年には、十室余りの教室をはじめ、教員室や講堂まで二十室近くある立派な建物が、次々に完成したのであります。

明治三十七年と言えば創立十年後のことで、今から百十年前のことです。その時建てられた建物で、現在唯一残っているのが、グラント南の川沿いに建っている「記念講堂」で、今も様々な学校行事や部活動に有効に活用しています。その「記念講堂」は奇しくも今年三月には、国の登録有形文化財に選定され、先月正式に登録されたのですが、実はつい先程、その記念講堂において栗山浅口市長様から、その国からの有形文化財としての登録証の伝達をいただいたのであります。

次の大事業はそれから半世紀たった戦後のことでもあります。もともと本校の校舍は金光教境内地に隣接していましたが、学校の発展に伴い、この占見野への学校移転に伴う新校舎建築が求められて

式辞

金光学園中学・高等学校校長
金光 道晴



ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。平素から金光学園教育にお祈り添えをいただいておりますことも合わせ、心から御礼申し上げます。

今朝ほどは、創立記念式に先立ち、全生徒・全教職員が、そろって金光教本部に御礼の参拝をさせていただき、さらに木綿崎山の歴代教主奥城や初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰宅してこの記念式典に臨んでおります。

本校では、創立記念式は学校の誕生日

おりましたが。その事業は昭和二十三年（1948）から始まり、六年間もの歳月を要して行われました。

その当時の建物として今も残っているのが、グラント北側の木造校舎や、本日も来賓の皆様が控え室にさせてくださいました木造の「小体育館」であります。特に「小体育館」については、今から六十三年前に建てられた体育館なのですが、当時は中国地方と言われ、バスケットボールの中国大会や県大会も開催されていますし、昭和三十七年に開催された岡山国体ではウエイトリフティングの会場にもなりました。当時業者の手を煩わせず立てた体育館としては極めて稀であり、現在でも専門家から高い評価を受けている建物でもあります。

ここに、当時の工事の様子を伝える次のような文章があります。「工事の進み具合は素晴らしく、昼夜分かつた燃え続ける心の炎は、占見野を照らし、遙照山に映え、やがて人々の心に燃え移っていった」「学園建設の大事業に、全教員奉者の熱い協賛が起り、それは幾百幾千の奉仕活動の輪になって広がり、学園教職員生徒は勿論のこと、卒業生・PTA・

として、毎年挙行させていただいておりますが、今年には百二十年という大きな節目の年として、多くのご来賓の方々にお出でいただき、このように盛大かつ厳粛に記念式を挙行できますことは、誠に嬉しく有り難いことでもあります。

さて、式辞ではいつも学園の歴史についての話をさせていただいておりますが、本日は本校の建設事業の歴史に絞ってのお話をさせていただきたいと思っております。

金光学園は、明治二十七年（1894）に創立されて以来、百二十年の間に、命運をかけた大事業を何度か行なってきました。創立当初は金光教本部の一室や、民家を借りての教育活動が行われていましたし、明治三十年になって、教室がつけられたものの、決して十分とは言えませんでした。

当時岡山県知事の設立認可を受ける際、校舎を速やかに改築することが義務づけられており、それは差し迫った問題となっていました。多額の経費を要することから、校舎改築は困難を極めていました。

そのような中、福岡県の金光教小倉教

地域在住の人を挙げて、この大事業に参加し、六年余りの年月をかけて、新校舎は竣工したのである」と伝えられています。

その後昭和五十四年（1979）から十年の間に現在の中学棟や高校棟、本館特別教室棟やほつま体育館が建設されましたが、これも大変な事業でありました。今年には念願の「120記念館」が新たに建設されましたが、この度も多くの卒業生・保護者・金光教の教会・近隣の自治体のご支援やご協力によって完成したのであります。

ここまで、建築のことをお話ししましたが、生徒の皆さんには、金光学園の全ての建物は、多くの方々の熱い願いと真心がこもったものであることを改めて知っていただきたかったのであります。そして一層大切にしていきたいのであります。

しかし、大切なものは建物ばかりではありません。初代校長は創立当初の本校の教育を「豚小屋から人を出す」という言葉で表現されています。この言葉の含んでいる意味は大変深いものであります。創立当初は校舎も小さく、立派でな

かつただけのことから言われたのではなく、人を教え、育て、有徳な人材にしたという、熱い願いのこもった言葉であると思うのであります。

校舎や設備が必要なことはいうまでもありません。しかし最も大切なものは目に見える形にあるのではなく、その精神であり、願いであり、母校の心であります。「豚小屋から人を出す」という精神こそ、私たち金光学園の生徒教職員が忘れてはならない心だと思っています。生徒の皆さんは自ら求め、自ら学び成長していくことをしっかりと心に刻んで、日々の学園生活を送っていかなければなりません。また私達教職員は人を育てたい、教育したいという溢れる心を持って、にちにちの教育にあたることを忘れてはなりません。共に主体的に学ぶことや、教育への熱意を忘れてはならないのであります。

最初にお話しした記念講堂の正面の左右に二つの書が掲げられています。一つは創立して間もないころの、和泉乙三という卒業生の書かれた「克信光学」という言葉ですが、「克」は克服の克で、「信」は信じるの信、「光(こう)」は光(ひかり)、

「学」は学校の学で、「克信光学」とは頑張つて困難を乗り越え、まっすぐ伸び、学校を輝かせ、発展させるという意味であります。

もう一つは九年前に亡くなられましたが、五歳になる前に列車事故で両腕と片足を失った中山亀太郎という卒業生の方が、口に筆をくわえて書かれた「求道俱行」という文字であります。これは、生徒も教職員も、共に手を携え、真の道を求めて行こうという意味であります。私達在校生や教職員には、このような先人の精神を大切にし、歴史と伝統を受け継ぎ、ますます学園を発展させていく責務があると思います。

今日の百二十年の記念式を新たなスタートとし、一層力をあわせ、心一つにして、共に頑張つて、学園を輝かせていくこと、そして、金光学園の合言葉「人をたいせつに」自分をたいせつに、物をたいせつに」することを一層大切に、実践していくことを決意し式辞といたします。

にとりましても、まことに感慨深いものがございます。

現代社会の状況に目を向けますと、地球的規模で進む環境問題、宗教や民族の対立による武力紛争、国家間の摩擦、さらに国内では、人命を軽視した実に痛ましい事件や事故も、度々ニュースなどで報じられております。

そうした問題の根底には「自分さえ良ければ」といった利己的、自己中心的な考え方があり、一人ひとりが天地の中に生かされて生きているという命の基本が見失われているのではないかと思わずにおれません。

金光教の教祖様は、「人の身が大事か、わが身が大事か。人もわが身もみな人」とみ教えくださっております。

誰しもが、自分の都合のよいようになつてほしいと思うのですが、このみ教えは、果たしてそれでよいのか、ということを私たちに静かに問いかけており、例えば、人間関係に苦しんだ時には、自分と相手との関係を冷静に見つめ直す機会を与えてくれるものであると思えます。

私たち一人ひとり、天地のお働きの

中で、生かされて生きております。あいよかけよで共に世話になり合い、共に生きています。喜びも悲しみも、楽しみも苦しみも、共にして生きております。そこには、目には見えませんが、神様のお働きがあります。「人間が助からなければ、神も助からない」と言われるほどに深い思いをかけてくださる神様が、私たちの生命と生活を支えてくださっており、私たちと共に生きてくださっているものであります。

教祖様は、「人が人を助けるのが人間である」とも仰せられています。お互いが、すべてを生かしてやまない天地のお働きの中に生かされている、神様のいと子同士であるとの思いを胸に、それぞれの存在を認め、共に助かっていること、するこそが、混迷する現代にあつて、いよいよ大切であると感じております。

この「人の身が大事か、わが身が大事か。人もわが身もみな人」という教えは、「人をたいせつに」自分をたいせつに、物をたいせつに」という学園の合言葉とつながっております。

学園創立120年という大きな記念の年を迎えられ、今日のこの記念式を機に、生

来賓祝辞

金光教務総長 岡成 敏正

本日は、創立百二十年記念式を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本学園の創立を振り返りますと、初代校長の佐藤範雄先生が、金光教の教祖である金光大神様にまみえられたことに始まります。先生が初めて教祖様のもとに参拝された時に「人を助ける身になれ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖様のもとに参拝されるようになり、次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じられるようになりました。

そのような願いの中で、明治二十七年十一月二十九日、本学園の前身である神道金光教会学問所が創設され、金光教の教えをもとに「学・徳・体」一体の全人教育を目指すこととなり、以来、今日まで、生徒一人ひとりの個性を大切にしつつ、「心の教育を土台にした人間教育」という教育方針のもとに学校教育が進められ、本日ここに、創立から百二十年の記念式を迎えられましたことは、私ども

徒、職員の皆様的心を一つにされて、ここからの金光学園の輝かしい歴史をさらに築いていかれますことを期待してやみません。

最後になりますが、本日、永年勤続で表彰をお受けになられました方々には、それぞれの持ち場にあつて、真摯に職務に尽くしてこられたことと存じます。そのご努力に対し、心から敬意を表しますとともに、これからもご健康に留意され、一層のご精進をお祈り申し上げます。また、法人関係の方々をはじめ、校長先生、教職員の皆さまには、今日まで学校運営、学校教育の上に、ひとかたならぬご尽力をいただいておりますことをあらためて厚く御礼申し上げます。お祝いの言葉といたします。

祝辞

岡山県知事 伊原木隆太

本日ここに、金光学園創立一二〇周年記念式典が盛大に挙行されますことを、心からお喜び申し上げます。

金光学園は、明治二十七年、金光教教内の年少者の教育と金光教教師の育成をめ

ざす神道金光教会学問所として創設されました。

その後、教外からも多くの年少者を受け入れ、地域における中等教育を担う学校として着実に歩み続けてこられた貴学園は、明治、大正、昭和、平成と移り変わる中で、時代の要請を的確にとらえ、特色ある教育を提供しながら、長い歴史と輝かしい伝統を築くとともに、有為な人材を数多く輩出し、地域社会の発展と文化の向上に大きく貢献してこられました。

これも、ひとえに歴代の理事長、校長先生、教職員の方々の教育に対するひたむきな熱意と献身的なご努力、保護者、卒業生、関係の皆様方の真摯なご支援のたまものと深く敬意を表する次第であります。

人口減少、超高齢社会の到来や厳しい経済情勢など、さまざまな課題が山積する中、これからの岡山を担っていく「人づくり」はあらゆる施策の基本です。

県では、現在、全ての県民の皆様が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現に向け、「教育県岡山の復活」を県政の最重点課題とし、全庁を挙げてさまざま

な取り組みを進めているところです。

金光学園におかれましては、スーパーサイエンスハイスクール研究指定校としての理数教育の充実や、海外の高等学校との姉妹校提携、語学研修、英語によるプレゼンテーションの実践といった国際理解教育の推進など、社会のニーズに応じた教育活動に取り組みされており、教育再生をめざす本県にとって誠に心強い限りです。

今後とも、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」を合い言葉として、独自の建学の精神と特色ある校風のもと、国際社会で活躍できる知性と人間性豊かな人材の教育に努められ、岡山はもとより日本、そして世界を担っていく唯一無二の人材を育成いただきますよう期待しております。

終わりに、貴学のさらなるご発展と、関係各位のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

浅口市長 栗山 康彦

創立百二十周年を迎えられました金光

学園と佐藤金光学園理事長、そして金光学園中学・高等学校校長先生はじめ諸先生方、生徒の皆さんに心からお祝いのご挨拶を申し上げます。

明治二十七年に金光教師育成の目的で創設された神道金光教会学問所が、時代の要請に応えながら過去数度の校名改称を経て、昭和二十九年には現在の場所に位置を換えられました。

以来、鉄筋校舎の建築、ほつま体育館、そして二〇記念館などの教育環境の整備が整い、中高一貫教育として勉強やスポーツに励む中で、自らの将来をじっくり見据えることができる学校としての地位を築かれました。

また、地域を大切にして交流を深められ、ともに歩んでこられる中で、社会に貢献できる多くの人材を育成され、輩出されてきました。

私自身もここ金光学園で中学、高校時代を過ごしました。こうして百二十年の節目に、市長としてお祝いの言葉を述べさせていただきます。大変うれしく思います。

「人をたいせつに、自分をたいせつに物をたいせつに」の合言葉は、人として

社会で過ごしていく中で、どのように生きていくべきかととても大切なことを教えてくれました。

未来に向かって目標を持ち勉強とスポーツにがんばる生徒たちが、一人の人間として成長し、将来は多方面で活躍することのできる機会を与えてくれる金光学園の百二十年の輝かしい歴史がさらに意義あるものとなりますことを期待しています。

最後に、伝統ある金光学園の今後ますますのご発展と皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます、祝辞といたします。

所願表明「挑戦し続ける心」

生徒代表 3年 尾崎 晃士

金光学園は今年で創立120年を迎えま

した。120年前の日本は日清戦争の戦時下でありました。教科書など書物でしか知りえない遠い昔の時代から、先輩方が母校の歴史を築いてきてくださったことに改めて感謝の気持ちで湧いてきます。明治、大正、昭和、平成という激動の時代を通して、多くの先輩方が紡いできてくだ



さったこの学園の伝統を自分たちが受け継ぎ、さらに良い学園となるよう後輩達に伝えていこうと思います。

私は高校3年間、硬式野球部に所属していました。野球部では、挨拶など礼儀について厳しく指導されてきました。応援して下さる地域の人への感謝の気持ちを込めて清掃活動を行い、将来社会に出て必要とされる奉仕の精神を学びました。また冬の厳しい体力トレーニングをやり遂げたことで忍耐力を学び、諦めないことの大切さを知りました。

パナソニックの創業者である松下幸之助さんは「失敗しない人は成功しない。何故ならチャレンジしないからである」という言葉を残しています。

私は野球を続ける上で、常にこのことを念頭に置いていました。野球に限らず、人生には2つの道があると思います。リスクを負わずに進むことのできる平坦な道と、リスクがあっても乗り越えた先に大きな成功が待っている険しい道の2つです。私は自分が進む道が2つに分かれていたら、その時は必ず険しい方の道を選ぼうと決めていきます。険しい道を選択しようとするチャレンジ精神が、不測の事態に対処できる原動力になります。だから、常に「挑戦する心」を持ち続けたいと思います。

10月10日にノーベル平和賞の受賞者が発表されました。今年、17歳のパキスタン人マララ・ユサフザイさんが受賞しました。マララさんはパキスタン国内においてイスラム原理主義者による女性弾圧に抗議し、女性が教育を受ける権利を訴え続けてきました。これに反発したイスラム武装勢力タリバンは中学校から帰る途中のスクールバスを襲撃し、マララさんを銃撃しました。マララさんは頭と首を撃たれたにも関わらず、奇跡的に命を取り留めました。そして「マララデー」と名付けられた翌年の誕生日に、国連で

演説をしました。その内容を一部紹介したいと思います。

2012年10月9日、タリバンは私の額を銃で撃ちました。彼らは銃弾で私たちの主張を抑え込もうと考えたのです。でもその試みは失敗しました。私たちが沈黙させられたとき、世界中から救えきれないほど多くの非難の声が上がったのです。テロリストたちは私たちの夢を打ち砕き、願いを葬り去ろうとしました。しかし、彼らの思い通りにはなりません。私に撃たれたとき、私の中で弱さ、恐怖、絶望が死にました。そして、強さ、力、勇気が生まれたのです。

マララさんは訴えます。「無学、貧困、そしてテロリズムと闘いましょう。本を手に取り、ペンを握りましょう。それが私たちにとって、最も強力な武器なのです」マララさんは自分を撃ったタリバンの兵士に対してさえ、「憎しみの感情を抱いていない」と言います。テロリストがテロ活動に走る背景には、十分な教育を受ける機会がなかったという事情があり、世界中のどの地域の人も、平等に教育を受ける機会さえあれば、問題を暴力で解決しようとするような考えを持たな

いはずです。

私たちは、世界一安全といわれる日本という国で、希望すれば大学までの高等教育を受けることが出来る環境にあります。さらに私たちは、金光学園という歴史と伝統のある学校で、充実した毎日を送っています。世界中で起きているテロや紛争が、今、同じ地球上で起こっている出来事であるという実感さえ持てないほど、毎日を楽しく過ごしています。その一方でマララさん達のように、「一冊の本と一本のペンを子ども達に与えてほしい」と訴え続けている人もいます。私は自分が世界でも稀なほど恵まれた環境にあり、それがゆえに「学び」に対して挑戦する気持ちを見失っているのではないかということに、今さらながら気づかされました。世界平和のため、世界がより豊かに繁栄するために、大きなことは出来なくても、私に出来ること、金光学園の仲間と共に出来ること、あります。私は、このことを学園の仲間にも訴えたいと思います。

最後に、次の言葉はマララさんが国連での演説で、一番強調して訴えた言葉です。そのまま引用させていただきます。

会報

諸会

- 浅口里庄P連総会 5月10日(土) 寄島公民館 往田副会長・横山教頭出席
- 県青少年育成県民会議総会 5月28日(水) 県天神山プラザ 金光校長出席
- 備西地区高P連総会 5月29日(木) 浅口市健康福祉センター 往田副会長・横山教頭出席
- 県私中高保護者会等会長会議 5月29日(木) メルパルク岡山 中谷会長出席
- 浅口市青少年育成活動協議会金光支部研修会・総会 6月14日(土) 金光公民館 金光町地区役員9名出席
- 県高P連・安全互助会総会・研修会 6月18日(水) ピュアリティまきび小川副会長・金光校長出席
- 県広域特別補導協議会笠岡支部総会 6月18日(水) 笠岡市役所 中嶋副会長・横山教頭出席

- 玉島警察署管内子どもを守る母の会総会 6月20日(金) 玉島警察署 三木(玉島警察署管内子どもを守る会) 出席
- 浅口里庄第1回母親委員会研修会 6月25日(水) 寄島公民館 宮口副会長・安原監事出席
- 幼少中P指導者人権研修会 6月25日(水) 浅口市中央公民館 指導部4名出席
- 「社会を明るくする運動」浅口推進大会 7月5日(土) 浅口市健康福祉センター 浅口市評議員出席
- 中四国高P連高知大会 7月11日(金) 高知県民文化ホール 三役・佐藤事務局長出席
- 幼少中P指導者研修会(備南地区) 7月15日(火) ライフパーク倉敷 教養部6名出席
- 金光町夏の地区会 7月中下旬 町内各地区 金光町地区役員出席
- 全国高P連福井大会 8月22日・23日(金土) サンドーム福井 三役出席
- 施設研修 9月19日(金) 三木(玉島警察署管内子どもを守る会) 出席
- 浅口里庄P連母親研修会 10月18日



One child, one teacher, one book and one pen can change the world. Education is the only solution. Education first.
120年の歴史と伝統を持つ金光学園で学ぶ私達が、世界の平和と繁栄に少しでも貢献できることを、そしてその夢を実現するために挑戦し続けることを決意して、私の所願表明とさせていただきます。

- (土) 山陽高校 宮口副会長、安原監事出席
 - や保会歴代幹部会 10月31日(金) 土佐家 中嶋・宮口副会長、松本監事出席
 - 第2回県私学秋季研修会 11月4日(火) 福祉会館 中谷会長、評議員4名、有馬・佐藤洋生活課長出席
 - 県高P連指導者研修会 11月5日(水) ピュアリティまきび 中嶋・宮口副会長、松本・安原監事出席
 - 創立120年記念式 11月13日(木) 校内 中谷会長、小川・中嶋・宮口副会長、松本・安原監事、評議員24名出席
 - 備西地区高P連秋季総会 11月20日(木) 14・20ヶ鴨方 往田副会長、金光校長出席
- やつなみ保護者会の全役員会・評議員会については、3月発刊の241号にまとめて掲載いたします。



9/10(水)
~15(月)

韓国・春川女子高等学校 第5回姉妹校交流

ココロの通い合う交流ができました!!

2009年に姉妹校縁組を結び、2010年から毎年交互に相手校を訪問してきた韓国・春川女子高等学校との姉妹校交流。第5回目の今年は、9月10日(水)から5泊6日の日程で金光学園に滞在し、16名の生徒と3名の引率の先生方が、学園生活と日本文化を満喫しました。

9月10日(水)

岡山到着

一行を乗せた飛行機は、午後8時過ぎに岡山空港に着陸。出迎えの教職員と岡山空港で対面するホストファミリーの皆様とで、到着ロビーで春川女子高校の皆様を待ちました。大きなスーツケースを持った生徒と先生方が出てくると、

思わず拍手。期待と不安の入り交じった表情の皆さんをバスへと案内し、金光学園へ向かいました。学園には、午後10時前に到着。ホストファミリーの待つ食堂へ入ると、大きな拍手と歓声が響きました。学校代表が簡単な挨拶を交わした後、各家庭へと向かいました。

9月11日(木)

歓迎式・学園生活体験

この日は1日かけて以下のような日程で学園生活を体験しました。ホスト生徒と過ごした昼休みも楽しそうでした。

- 1限 歓迎式
- 2限 校内案内・授業見学
- 3限 授業体験(高3体育)
- 4限 授業体験(高1国語)

- 5限 授業体験(高1数学)
- 6限 授業体験(高1英語)
- 7限 ペンパル交流or書道体験or部活動見学



9月12日(金)

倉敷研修・ほつま祭準備

1限にホスト生徒のクラスで授業体験をし、2限からホスト生徒とともに倉敷研修に出かけました。倉敷まで電車で行き、歩いて美観地区へ。大原美術館入館

後は、各ペアで美観地区を散策しました。白壁の街並みを楽しみ、お土産屋さんを見る人、ソフトクリームを食べる人など、それぞれが楽しく過ごしました。昼食後、学園バスで帰校。春川女子高校の皆様もほつま祭に展示する模造紙を制作しました。オーバリーブリッジに展示した作品はとても好評でした。



9月13日(土)

広島研修

春川女子高校の皆さんが楽しみにしていた広島研修。ほつま祭1日目で、参加が難しいホスト生徒の代わりに、高3生徒の有志がホスト役を務めてくれました

た。広島城、平和記念公園、宮島を観光し、昼食はお好み村でお好み焼きを食べ、広島を満喫しました。バスの車内では、ホスト生徒も高3生徒も、パートナーと仲良く話をしたりおやつを食べたりして、楽しく過ごしていました。

9月14日(日)

ほつま祭体験・送別式

春川女子高校の皆さんが楽しみにしていたもう一つのイベントが、ほつま祭。茶道体験などの日本文化、模擬店や食堂での食事など、ホスト生徒や他の学園生とともに文化祭を心ゆくまで楽しんでいました。また、ほつま体育館での舞台にも立ち、K-POPのダンスも披露してくれ、ほつま祭に華を添えてくれました。会場から大きな拍手が送られました。

閉会式後、ホストファミリーの皆さんと生徒会・教職員代表での送別式を行い、春川女子高校の皆さんとホスト生徒がそれぞれ一言ずつ感想を語りました。多くの生徒が涙ながらにこの間の交流を語り、別れを惜しみました。ホストファミリーと過ごす最後の夜も、思い出に残るものでした。

9月15日(月)

日本出発、韓国へ

学園午前7時出発。見送りを希望するホストファミリーもバスに乗って、岡山空港へ向かいました。空港では、残りの時間を惜しむように話をしたりハグし合ったりしていました。いよいよ搭乗時刻が迫り、出国審査場に入るときは、またまた涙、涙。6日間で本当の兄弟姉妹のようになった生徒の皆さんを見て、私たち教職員も胸が熱くなりました。手続き後は見送りメンバーは、屋上の見学デッキに上がって、一行を乗せた飛行機が見えなくなるまで、みんな手で手を振り続けました。

こうして韓国・春川女子高校との5回目の姉妹校交流が無事終わりました。ホストファミリーの皆様をはじめ、交流に協力して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。金光学園で過ごした5泊6日は、春川女子高校の皆さんにとっても、私たちにしても、お互いに学び、心の通じ合った、素晴らしい交流となりました。

一人でも多くの皆さんに触れ合えるよ

うに計画しましたが、授業やほつま祭の準備などのために、あまり関われなかった人もいました。また、ほつま祭直前に準備を抜けさせてもらったり、高3の皆さんが模擬店の代わりに広島研修に参加してくれたりしました。多くの皆さんの協力なしではこの成功はありませんでした。本当にありがとうございました。来年は、私たちが春川女子高校を訪問する番です。



イギリス・仁川英語村海外研修

歴史と文化の国・英国を肌で感じた16日間

2014年イギリス短期語学研修

|| 3月19日(水) ~ 4月3日(木) ||

中3 ~ 高2の生徒47名と引率教員3名(森谷・守分・亀田)が、16日間のイギリス短期語学研修に出かけました。ロンドン近郊のエンフィールドとブロックスボーンという町でホームステイをしながら、スタディセンターでの授業や現地の学校訪問、ロンドンやケンブリッジへの観光などの研修を行いました。参加生徒は、ホストファミリーとコミュニケーションを図るべく、知っている英語を駆使して毎日奮闘しました。最初は相手の言うことが聞き取れず戸惑った人も多かったようですが、日に日にリスニングやスピーキングの力をつけていき、2週目にはファミリーとの会話も弾み、楽し

く過ごしている様子がうかがえました。ステイ最終日のフェアウェルパーティーでは、ホストファミリーや現地の先生を招いて、歌や日本文化紹介などの出し物を披露し、楽しいひとときを過ごしました。あつという間の2週間のイギリス滞在。「まだイギリスにいたい」と別れを惜しむ声も多く聞かえてきました。

イギリスでの経験

高1 西原 以湖

私は2週間、イギリスに語学研修に行きました。イギリス研修には中2の頃から大きな憧れを抱いていて、参加できる

中3になってからは、やっと行ける！という気持ちでいっぱいでした。

そしてやっと出発日。ホストファミリーのことや食事、自分の英語力や文化の違いなどのたくさんの不安と、会ったらず何や言うおう、イギリスってどんなところ、におい、気温、雰囲気のような期待を混ぜ合わせながら家を出ました。

長い長い飛行機での移動を終え、やっと自分があの憧れのイギリスに着いたことを実感しました。いよいよホストファミリーとの対面。会う直前まで、怖かったらとか、あまり話せなかったらどうしようとか、たくさん心配していましたが、いざ会ってみるとそんな心配をしていた自分がバカバカしく思えるくらい、優しそうで陽気なホストファミリーでした。あいさつでハグを交わした時、ああ、外国だなあと実感しました。

ホームステイは心配していたほど困ることはなく、特に一番心配していた食事に関しては全くと言っていいほど違和感を感じず、快適なホームステイができました。

学校での授業は、所々理解に苦しむことはあったけど、自分で電子辞書を使っ

て分からない単語を調べたり、友達と一緒に考えたりして、自力で理解をするということが習慣になりました。ジョンとアリスはとてもいい先生で、私たちの片言のつたない英語を聞き取ってくれて、私たちに分かりやすいように返してくれました。

終日観光では、たくさんの有名な建物を見ていききましたが、その中でも私はフィッシュアンドチップスの味が忘れ



れません。サクサクでふわふわのあの味はびっくりするくらいおいしかったです。お店の人や地元の人達と触れ合っよく分かったのが、イギリスには本当にフレンドリーですごく優しい人がたくさんいるということです。レジでお会計をするときに、'Where are you from?'と聞かれて'Japan.'とこたえると、'コンニチハやアリガトウゴザイマス'などと言ってくれることがたくさんあったので、とて

も幸せな気分でした。

イギリスでの文化の違い、言語やいろんなことに戸惑いながらも、たくさんの刺激を受け、たくさんの人と出会い、たくさんの成長をして、あつという間に楽しい2週間が過ぎてしまいました。

今もこの作文を書きながら、最高の2週間を思い出すと楽しすぎて、とてもさみしい気持ちになっていきます。今すぐにもイギリスに、第二の自分の家に帰りたいです。そのためにも、次に会ったときのために、英語の勉強を今まで以上に頑張つて、あの時よりもっといろいろな話ができるようにしたいと思います。

イギリス海外研修

高1 池野 未夢

私のイギリス研修での目標は、英語を少しでも話せるようになること、英語を聞く力を上げること、自分の弱い部分を変えること、イギリスの食や建物などの文化を学ぶこと、の4つだった。初めての海外は壁にぶつかることばかりだった。

1日目、ホストファミリーと対面した。すごく緊張した。日本からのお土産を渡

したり自己紹介をしたりした。たくさん話してくれたが、1日目は聞くことに一杯だった。言葉の壁にぶつかった。思ったことを英語で話せないという悔しさで一杯だった。

イギリスでは、たくさんの日本とは違う食に出会った。フォークとナイフで食べるのは慣れなくて、食べにくかった。フィッシュ&チップスも体験できた。どの料理もとてもおいしかった。一番心に残っているのは、Pieというプリンだった。プリンの中にお米がたくさん入っていて、本当に驚いた。初めての触感と味で、正直あまり美味しいものではなかった。日本の野菜は味が濃くて、野菜という味がするが、イギリスの野菜は味が薄いと感じた。私はイギリスの野菜の方が好きだった。

イギリスの建物もたくさん見ることができた。イギリスの食べ物はどこを撮っても絵になる風景ばかりだった。レンガ造りの建物と少し雲のある青空というコントラストが私の一番好きな風景だった。私が一番印象に残っているのは、バッキンガム宮殿だ。大きすぎて部屋数の多さにただ驚くばかりだった。そして



本当に衛兵はいるんだなと思い、見れてうれしかった。

何よりもホストファミリーとの思い出がたくさんできた。集合場所までの行き方を何回も一緒に歩いて教えてくれた。休みの日には、毎回大きなお店があるところに連れて行ってくれた。バーベキューやバドミントンにも連れて行ってくれた。とても仲の良い家族で、初めは緊張していたが、すぐに仲良くなれた気がした。話を通じたときはとても嬉しくて、自分の自信となった。通じなかった時は落ち込んでいた最初とは変わって、もっと勉強して話せるようになりたいと思うようになった。別れの日はとてもさみしかった。ホストマザーに「良かった。すごく良かった」と英語で言われて涙があふれた。すごくうれしかったのと同じに、少し後悔がわいてきた。もっとたくさんさんの単語を覚えておけば、もっと話すことができたのだろうか。もっと勉強してくれば良かったなとすごく感じた。

今回のイギリス研修は、私にとつての素晴らしい体験と最高の思い出、勉強になった。日本とイギリスのそれぞれの長所、短所も見つかった。何より全然好き

ではなかった英語のリスニングが行く前よりも聞けるようになったこと、好きになったことがうれしかった。言葉を伝えるというのは難しいことだなと思い、もっと英語に興味を持ち、聞いてみる、話してみることは大事だなと感じた。イギリスで感じたこと、体験したこと、学んだことは私の中で一生の宝物になった。これからは英語のCDを聞いたり映画を見たりと、今までしなかったことに挑戦してみるようにしたい。そして、もっと単語を覚えて英語を聞けるように、話せるように頑張りたい。

イギリス海外研修、最高に楽しかった。



仁川英語村の思い出

中2 橋高 光哉

僕がこの研修に参加した理由は、英語を活発に話せるようになることと、中1の時のスピーチコンテストでもっと英語を学びたいと思ったからでした。

行きの飛行機とバスの中で僕は仁川英語村でどのような授業を受け、どのように成長するのかとドキドキしていました。

到着すると、建物も宿泊場所も想像以上にキレイで、この場所で8日間英語漬けの毎日が始まるのかと思い、とてもワクワクしました。早速授業があったので、教室へと向かいました。始めはスピーキングと筆記のテストがありました。とても緊張したので、終わった後はホッとしました。



英語村の授業はたくさんあり、チーム戦のクイズをしたり、料理や音楽やスポーツといったことをしました。始めはさっぱりわからなかったけど、先生の手助

けなどがあつたおかげで、だんだんと英語がわかるようになってきました。英語の意味も分かって、自信を持って手を挙げる回数が多くなりました。僕はこの時、自分の英語力が伸びていった気がしました。

他にもチョコレート工場の見学、Bingo Worldというミニチュア広場、ロッテワールドなどに行き、注文や質問を英語ですることができました。

今回のこの研修のおかげで英語への関心も強くなり、たくさんの人とコミュニケーションをとりたいと思いました。

最後に、このすばらしい経験ができたのも多くの人の支えがあつたからです。引率をしてくださった先生、優しく接してくださった英語村の先生方、そしてこのチャンスをくださった学園の先生と両親。本当に感謝しています。

この研修にあつたことを活かして次のステップを踏みたいです。

仁川英語村研修に参加して

中2 金光美千世

私がこの研修を通して一番感じたことは、英語の必要性です。学校の英語の授

業と違って一切日本語で話してくれない先生の授業を受けているときもそうだけれど、それ以上に、見知らぬ人とコミュニケーションをとるときに英語が話せる便利さを知りました。

私が一番はじめに仲良くなったのは、寮で向かいの部屋だった韓国人の女の子たちです。1日目の夜、「明日は友達を作りたい」と日記を書いてみると、開いていたドアからその子たちが話しかけてくれたのがきっかけでした。連絡先を交換し合い、お互い持ってきたお菓子も交換し合い、名前や年齢を教えあい、緊張もあまりせずに、とても楽しい時間を過ごしました。

それからその子達が帰る日まで、一緒に写真を撮ったり、折り紙で鶴を作ったりして遊びました。折り紙を教えてあげるのとても難しかったけれど、知っている単語を最大限に使って頑張りました。みんなで作れたことで楽しい思い出になったし、今までの英語の勉強を活かした気がして嬉しかったです。

それからいろんな人に出会い、台風が近づいていると聞いて、携帯をいじっている人にその台風の動きを聞

いたり、フロアで踊っている人と一緒に
なつて踊ったりしました。みんなとても
優しくしてくれました。

また、そういう生徒だけでなく、先生
もとても笑顔の人ばかりでした。アメリ
カやニュージーランドなど様々な国の先
生がいましたが、その全員と『英語』と
いう言語でつながれることの不思議さと
すごさを感じました。

英語村の中では色々な授業を受けまし
た。世界の国々についてのクイズをし
たり、積み木で家を作ったり、自分の国に
ついて韓国人とロシア人の生徒の前で発
表したりしました。私は音楽の授業が心
に残っています。



その他に、英
語村以外での活
動も楽しかった
です。買い物も
はじめは緊張し
たけど、だんだ
ん慣れました。
本当にさまざま
な経験を通し
て、英語ができ
ると友達も増え

した。正直、私は韓国に行くのは気が進
まなかつた。しかし、実際行ってみると、
楽しい授業をしながら英語が学べる、一
石二鳥の研修だった。最終日には、まだ
英語村に残りたい、日本に帰りたくない
と言っていたくらい、私にとって貴重な
体験をさせてもらった、思い出深い場所
となっていた。だから、研修期間お世話
になった先生方とお別れするのはすごく
辛かった。しかし、最後にありがたうの
気持ちをたくさん伝える事ができたので
悔いは無い。また、韓国という国が大好
きになった。もう一度、今度は英語を上
手く話せるようになってから、韓国を訪
れたい。

英語村研修を終えて

中3 植田七菜子

私がこの英語村研修に参加しようと思
ったのは、昨年私の友達に参加し、楽し
かったと話を聞いたからです。だから興
味がわいて、参加することになりました。
正直不安なことが多く心配でした。けれ
ど、実際に現地に行くと、不安がすく
なくなり楽しく1週間を過ごせました。
ただし、時々日本が恋しくなり帰りたい

て活動範囲が広がることを実感できまし
た。これからさらに、英語の学習をがん
ばりたいです。

韓国での貴重な体験

中3 若狭ひとみ

わたしはこの夏、貴重な経験をしました。
一週間短期研修生として仁川英語村を訪
れた。私にとって何もかもが初めてだっ
たので、特に初日は、どんな施設なのか、
どんな授業なのかと少し緊張したので覚
えている。

今、あの1週間のことを思い出すと楽
しい記憶しかない。例えば、授業。どの
授業も別の面白みがあり、とても楽しか
った。すべてが英語オンリーの授業で、
よく先生の話聞かないと分からないの
で、自然と英語を聞き取るようになった。
最初は何となくしか聞き取れなかった
が、日が経つにつれて正確に聞き取れる
ようになった。少しはリスニングの力が
上達しているのかな、と私は思った。ま
た、先生と対話する機会も多く、最初は
片言だったが、だんだん文章化して話せ
るようになった。先生方と英語で話が通
じた時の喜びは今も忘れない。最終日に

と思うこともありました。けれども楽し
いという気持ちの方が大きく、帰国する
日には帰りたくないと思っていました。
そして、たくさんさんのことを学び、これか
らの英語の勉強をもっとがんばりたいと
いう気持ちが強くなりました。私が最も
印象に残った出来事は2つあります。

1つ目は毎日の授業です。学校の授業
とは全く違うスタイルで、毎回新鮮でし
た。中には飛行機の機内の模型や車があ
る部屋もありました。1日9コマ、オー
ルイングリッシュの授業は始めのうちは
戸惑いました。けれど、どの先生もやさ
しく、フレンドリーでボディーランゲ
ージをしてくださったので、わかりやす
く面白かったです。クイズをしたり、チ
ヂミやピザを作ったり、スポーツをしたり、
どの授業も飽きることはありませんでし
た。何日かすると、大体のことが聞き取
れるようになりました。大きく成長でき
たと思えました。

2つ目はフィールドトリップです。実
際に韓国の街に出て英語を使えることが
できました。特に買い物では始めは戸惑
って、意味が分かりませんでした。友達
と協力して、勇気を出して店員さんに質



プレゼンをした時には、韓国の学生とも
英会話を楽しめた。私は何となくだが、
英語に自信がついた気がした。しかし、
完璧な英語には程遠く、今後もっと英語
を勉強し流暢に話せるようになりたいと
思った。

毎晩、英語で日記を書くことになっ
ていた。その日記は、後から引率の先生が
添削してくれるのだが、不思議と日を
過ごしていく内に、修正する部分がなく
なっていった。時には直す部分がなく、
上達していることにとても嬉しさを感じ
た。

私は今回この研修に参加して本当に良
かったと感じている。全てがプラスにな
り、たった1週間生の英語に触れるだけ
でこんなにも英語力が違うのか、と実感

問すると、優しく丁寧に答えてくださ
いました。自分の英語が海外のまったく知
らない人に通じたので、とてもうれし
かったです。それからは何のためらいもな
く店員さんに質問することができまし
た。研修前の私は、絶対に外国人に話し
かけることはできませんでしたが、この
研修で自分の英語が通じたので、前より
話しかけやすくなりました。

1週間という時間は長くも短くも感じ
ました。普段は絶対に体験できないこと
を体験でき、たくさんさんのことを学べま
した。この1週間は私にとって宝物です。
先生方のことは絶対に忘れません。そし
てこれからの英語の勉強をもっとがんば
り、英語がペラペラに話せるようにな
りたいです。



SSH 宿泊研修記

〔東京大学研修とSSH生徒課題研究発表会見学会〕

研究発表会見学会

8月5日(火)～7日(木)にかけて、科学系部活動生徒と高1探究クラスの生徒等11名が、東京大学で研修を行い、パシフィコ横浜を会場に行われるSSH生徒課題研究発表会に参加した。また、発表会では高2の生徒5名が「オガ炭で燃料電池の道が開けた」と題して研究成果を燃料電池の実物や動画を有効に活用しながら、ポスター発表した。

初日の東京大学研修では東京大学大学院金子成彦教授の研究室で発電技術とマイクログスタービンの組み立てを行った。

2日目はパシフィコ横浜で行われたSSH生徒課題研究発表会を見学した。全国から210校以上の高校が参加し、さらに海外の高校も招へいされていた。

この全国大会で発表した5名の生徒は見事「ポスター発表賞」を受賞した。

(生徒アンケートより)

〈東京大学研修感想〉

・今回の研修で東大がとても身近に感じられた。英語での説明の際は分からないところも多かったが、英語を学ぶことが、グローバル化を意識する大切さがわかった。物理や工学には今まで関心がなかったが、今回の研修でも興味があわいた。

・東大研修ではガスタービンの分解、再構築や教授の貴重な講義を聞くことで工学に興味があわいた。

・初めての東京、横浜で戸惑うことがあったが、多くのものを見て感動した。東大は歴史ある外観と違い、中は最新設備が設置されていた。



・大学の研究室などを見学させていただき、大学の雰囲気を感じることができたと同時に、東京大学の研究レベルの高さを感じた。

・日本語だけでは今後、世界に立ち向かえないので英語もがんばっていきたいと思った。

〈SSH生徒課題研究発表会感想〉

・多くの知識等の新たな武器を手に入れたと思う。英語の勉強や研究の仕方など何度も考えさせられた。

・研究には強い忍耐力を持ち続けることでより良いデータを取得できるということがポスター発表を聞いてよくわかった。

・研究発表は中学生でもわかりやすく聞きやすかった。

・僕と少ししか年齢が変わらないのに、難しいことを研究しポスターにして発表しているのはすごいことだった。先輩たちのようにもっと勉強して理解できるようにになりたい。

・発表会では聴衆を引き付けるための多くの工夫があり、とても関心を持っていた。話し方に個性がでていて、相手に

伝える難しさが分かった。

・日本全国にはすごい発見をする高校生がたくさんいて、刺激を受けた。多くの学校のポスター発表を見て、自分では思いつかないような疑問を物事に抱き、様々な仮説をたて実験し、考察していて、レベルの高さを感じた。

ほかにも多くの学びや気づきがあったというアンケート内容だった。東京大学という最高学府のレベルに感動し、SSHの全国レベルの研究発表に刺激を受けた大変素晴らしい研修となった。



〔一日医療体験@大田記念病院〕

7月29日(火)に福山にある脳神経センター大田記念病院で中3から高3までの30人が一日医療体験を行いました。同病院を運営する社会医療法人祥和会理事長である、本校高37回卒・大田泰正先生より、これから医療の世界を目指す高校生に伝えたいこととして、講演をいただきました。「少子高齢化」が社会問題として叫ばれていますが、これから増大していくであろう高齢者医療と、それを担う医療人の確保は大きな課題であり、外国人看護師等の話題と深く関わりがあることを知りました。

病院の統計や、大田記念病院が主に扱っている脳疾患にまつわる統計データ等を説明していただきました。若手医師とのミーティングでは、医師を志した理由や、その歩み等現在医療人を目指している生徒に大変刺激をいただきました。

午後からは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリ療法士・検査技師の6グループに分かれて研修を行いました。

医師コースは実際に手術をしている手術室を見学させていただきました。モニ

タリングという最新の手術の見学は、とても興味深いものでした。手術室で、手の動きでモニター映像を動かすシステムに驚いたり医療の現場を体験することができました。薬剤師コースでは、院外薬局と院内薬局の両方を見学させていただきました。1本40万円もする薬を見せていただいて驚かされました。他のコースも実際に体を動かす等、医療の現場を実感できる研修となりました。研修の最後には、大田先生の他、研修でお世話になった方との懇談会をもち、様々な疑問に丁寧に答えていただきました。



〔岡山大学医学部研究室訪問〕

7月30日(水)・31日(木)に、岡山大学医学部細胞生理学・病原細菌学教室にて、香川県立観音寺第一高等学校と一緒に研修を受けてきました。この研修では、本校高30回卒の岡山大学大学院医歯



薬学総合研究科・病原細菌学教授松下治先生をはじめ、同細胞生理学教授・松井秀樹先生・尾崎敏文先生などにお世話になりました。大学院生にほぼ、マンツーマン状態で指導していただきながら、カエルの解剖をしたり、手についている細菌を培養したりし、最後は、実験の結果を考察し、パワーポイントを用いて、プレゼン発表を行いました。

施設見学では、手術室やヘリポートを見学したり、実際の手術用の針と糸を用いた縫合体験をしました。

これまでに、2つの研修に参加した生徒もいれば、一方だけに参加した生徒もいます。「現場」の病院と、医療を支える基礎医学の「研究」。そのどちらもが、医療を支えるために必要なことであり、「医学部」を卒業した者の進路となります。自らの将来を考える上で、貴重な体験をさせていただきました。

だき、緊張した様子ではあったが、徐々に英語での質疑にも慣れ、留学生の方々から多くのことを学ぶ機会となりました。

2日目は、朝から工学部の西嶋茂宏教授（高23回卒）の研究室のお世話になりました。まず、工学部についての講義及び福島の除染問題に関する講義を西嶋先



【SSH大阪大学夏季宿泊研修】
今年度は8月1日（金）～3日（日）までの2泊3日の日程で、中1～高2までの31名が大阪大学薬学部・工学部及び大阪市立科学館への夏季研修に参加しました。



初日は、金光学園を午前八時に出発し、昼食後大阪大学構内を散策のした後、薬学部の平田収正教授（高28回卒）による薬学部・薬学研究についての講義を受けました。内容は高度でしたが、特に薬学研究に関する部分には多くの生徒が強い興味関心を持った様子でした。その後、留学生の方々と交流の機会を設けていた



生より受けましたが、講義中に西嶋先生から講義内容に関する発問があり、教員を含め参加者全員が緊張感を持って講義に臨むことができました。その後、西嶋研修室の皆さんの英語でのプレゼンテーションを聞き、その英語力と研究内容に生徒は強いあこがれを抱いたようです。昼食後、西嶋研究室の皆さんに多くの実験及び体験を用意していただき、科学の面白さを体験する良い機会になりました。

2日目の最後の研修として、留学生の方々と交え、福島の除染の必要性についてディスカッションを行いました。当初、英語でのディスカッションに対して生徒達は、「ちゃんとした英語の文章で話さないといけない。」意識が強く、なかなか留学生の方々に自身の意見を伝えることはできませんでしたが、西嶋先生のアドバイスや研究室の方々の補助を受け、徐々に自己の意見を伝えることができるようになっていきました。最後にグループの意見を代表が皆の前で発表し質疑応

答を行いました。発表者の堂々とした様子に生徒の成長を感じることができました。終了後の記念撮影の際には、留学生の方々と研究室の方々と楽しそうに話す様子や、一緒に写真撮影を行っている様子を見て、本日の研修が生徒にとって大変有意義なものであったことが感じられました。

最終日は、午前中に大阪市立科学館の見学に向かいました。ここには有名なプラネタリウムや前日の研修内容にあった渦電流等の展示物、またエネルギー関係の展示物にも体験できるものも多く、皆が楽しそうに自身の興味ある分野の見学や体験を行っていました。各自で昼食をとった後に帰路につき、ほぼ予定通りに金光学園に到着しました。

探究

授業報告



中三探究

○発想力育成実習

ストロー斜塔コンテスト

中学3年生の全クラスで行われている探究授業。導入として「パターンブロック」を実施しました。表現力、読解力、チームワークの育成を目的にグループで得点を競いました。他教科とは異なる内容に新鮮さを覚えたようです。

1学期は発想力、発表力、チームワークを育成すること
を目的に、「ストロー斜塔コンテスト」を実施しました。ストロー40本を使い斜塔を組み立て、最高100gまでのおもりに耐えられるかを競いま



す。生徒たちは、柔軟な発想力で様々な装置を製作し、コンセプトを発表しあいました。

○探究講演会

5月12日にK. I. T虎ノ門大学院教授 三谷宏治先生をお招きし、中3「言葉とカタチのフシギ」と題して講演して頂きました。

目の錯覚を利用した錯視のクイズや世界の言語について発音練習など多種にとんだ内容で生徒からも驚きや笑いが起こる楽しい講演となりました。



○原子力発電プレゼンテーション

二期期には「原子力発電プレゼンテーション」へ向けて夏休み課題から準備を進めました。

9月4日には、大ホールにおいて北九州産業技術保存継承センター館長 金氏顯（かねうじあきら）先生が来校され、「これからの電気と原子力のことを考えよう」原子力のメリットとデメリットとは」と題して講演してくださいました。

原子力のリスクとベネフィット（利益）が紹介され、さらに、福島原子力事故の原因を分析し、今後の安全強化対策を具体的に教えて下さり、生徒たちは様々な視点でものごとを見つめることに興味を持つことができました。

メモリーツリーで原子力発電の大きな流れをつかみ、パワーポイントでデータをまとめ、さらに要約を英語で発表しました。またプレゼンの効果的な方法を



川崎医療福祉大学の荒谷眞由美先生より学び、自分たちの発表の糧としました。12月20日には中3探究全体発表会を実施予定です。



高一探究

○プレゼミ

研究の基礎となる方法を身につけるため、ローテーションでいくつかの取組みを経験しました。大テーマI「新興国・発展途上国地域との多文化共生をめざして」と大テーマII「地域を理解し、ロマンを発信する」地域へ人を呼び込むためには「」の小テーマを設定しました。さ



らに数学、物理、生物の理系分野を順番に受講することで来年度の文理選択につながる経験ができました。

○探究講演会

5月12日にK.

I. T虎ノ門大学院教授 三谷宏治先生をお招きし、高1「紙コップとペットボトルのカタチのフシギ」と題して講演して頂きました。紙コップを題材に「なぜ上部が丸く硬いのか」「逆円錐に近い形状である理由」、「底上げがある理由」などをグループごとに発表し、身近なものに多くの工夫が施されている点に気付く視点を身につけました。



高一探究

昨年度に引き続き、文系は5ゼミ（日本語・日本文学、英語・英文学、法律、経済、歴史）、理系は8ゼミ（天文、物理、化学、生物、川、数学、情報、スポーツ科学）に分かれて、個人またはグループで研究を進めました。さらに、多くの発表会を通して、コミュニケーション能力を養うことができました。



○ゼミ活動
9月から所属するゼミが決まり、今後自分達が行う研究テーマを探しました。11月からは、本格的にゼミ活動がスタートし、研究が開始されました。12月1日

○中間発表会

理系は6月4日に、文系は6月12日に中間発表会を実施しました。ゼミ毎に助言者の先生に研究内容をプレゼンし、研究のまとめ方について貴重なアドバイスをいただきました。



○校内研究交流会

7月25日、文系ゼミはゼミの代表者がステージ発表を実施し、理系ゼミは全員によるポスター発表を行いました。それぞれ質疑応答することでの発表の中にはなかった調査内容を発表できたり、質問を受けることで研究内容を深めたりすることができました。参加者の感想に



「文系ゼミのプレゼンは図など多くの動きが取り入れられていて素晴らしいかった。同じ理系ゼミの人たちも皆、論理的で人を納得させる力が高かった」など好評で、発表者の感想には「学んだことをこれからの発表に生かしていきたい」とあり、学び多き発表会になったことがうかがえました。

○校内課題研究合同発表会

11月19日、文系ゼミは日本語のポスターを発表し、英語・英文学ゼミと理系ゼミは英語ポスターでの発表を行いました。当日は多数の留学生が参加し、英語での質疑応答はレベルの高いものとなっていました。文系ゼミ生徒にとっては最後の発表会となり、「最後に助言者の先生



に褒められて嬉しかった」、「大学・社会でもこの経験を活かしていきたい」という感想がありました。理系ゼミ生徒にとっては、3月の国際化発表会で飛躍した発表が期待できる会となりました。

○受賞

化学ゼミが7月31日に岡山大学で行われた「高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」において、「オガ炭で燃料電池の道が開けた」と題して発表し、「ポスター優秀賞」を受賞しました。また、8月6、7日に行われたSSH生徒研究発表会においても全国のSSH校が集まる中で堂々と発表し「ポスター優秀賞」を受賞しました。



中学生になって

中学生になって

1組 永原 凜弥

「キター!!!」やっとこの日がやってきました。新しい制服、新しいカバン、新しい靴、様々な新しい物を身に付け、両親と正門をぐぐりました。ほくほくは、その時、待ちに待った学園生活が始まるという『期待』に胸を膨らませていました。でも、その反面、「友達ができるだろうか」「勉強についていけるだろうか」「担任の先生は厳しいのかな」などの『不安』もありました。

学級編成の発表がありました。1年5組15番。僕がどうしてもなりたかった金光学園の生徒にとうとうなれました。僕には、たくさん目標があります。

その内1つは、健康を保ち、毎日学校に通うことです。小学校では6年間、欠席を一度もありませんでした。校長先生からは皆勤賞の賞状をいただきました。周囲からもたくさんほめられ、嬉しかったので、中学校3年間さらには、高校3年間も皆勤賞をねらいたいとおもいます。

また、僕には夢がありません。今のみんなのように、何かになりたいという夢はないけれど、この金光学園で夢を見つけ目指すという目標があります。そのためには、できるだけ多くの知識を身につけ、日々の学習をコツコツとがんばっていきこうと思っています。そうすれば、急に輝く物を見つけ、なにが起きても、対応できるはずですよ。

さらに、部活動がんばることも目標の一つです。バスケットボール部に入ろうと思っています。そしてチームの中で活躍できる選手になりたいです。そのためは、3食しっかりとり、体を大きくし、一生懸命に練習し、技をみがこうと思っています。僕はよくばりなのか、あれもこれもやってみたいと思っています。ここでも、色々な事にチャレンジできそうな気がしています。

中学生になって

4組 小林 礼佳

私が中学生になって身に付けたい力は、3つあります。1つ目は、「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」を常

に心にとめ、思いやりの心を持つことです。金光学園では、「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」を合言葉として心に持ち続けお互いをきづかうことを大切にしています。そのような心を持ちながら友達と協力し、勉強や部活動を頑張っていく予定です。

2つ目は、何事にも積極的に取り組むことです。その中で、特にあいさつをすすんでいきたいと思っています。ろう下ですれちがった先生や地域の方々にも進んで元気な声であいさつをしていくことを心がけていきたいです。あいさつを通してコミュニケーションも同時に身に付けることができます。コミュニケーションをとることによっていい関係が築かれます。そのためには、しっかり行動していきます。

3つ目は、計画的に行動することです。何でも自分1人で行動するからそのことを頭に入れて考える必要があります。そのため、1日の計画を立て、時間におくれないように時間もしっかり見て行動していきます。また、周りのみんなに迷わくがわからないような人のことも考えて行動していきます。

私の夢は、医療関係の仕事につくことです。この夢をかなえるために中学校でたくさんのお話を聞いたり学んだりして将来のためにも頑張っていきたいです。そのためにも、今できることをしっかりと行動に表し、あたりまえのことはきちんとこなしていきたいと思います。また、先輩の姿を見て良いところを見つけてまねをしていきたいです。

やりきれぬ自分になる

5組 有馬 愛佳

桜が散り始めた昨日、私も192名の一人として入学しました。友達を作れるのかなとか、明日もちゃんと電車に乗れるのかなとかぞえきれない不安とそして楽しみが今でもあります。でも、その気持ちはみんな一緒です。友達だつて、家族だつてみんなそうだと思います。そんな新しくできた友達や家族と歩幅を合わせ、支え合い、はげまし合える自分になりたいです。どうしても損や得を考えてしまう自分にはかなり難しい事だけど自分なりががんばっていきたいです。

そして、私には夢があります。かなえる事は出来るかどうか分かりませんが、

一生懸命がんばります。その夢とは、『小学校の教師』です。わけは、1年生、3年生の時の担当の先生です。その先生はすごく優しく、時にはすごく厳しい先生です。その先生が一番良い所は、「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」の金光の合言葉を大切にしているからです。私は、そんな先生にあこがれ、小学校の教師になりたいと思いました。この夢をかなえるには苦しいこと、つらいことがあつて、自分で自分を支えられなくなくても、自分には心強い友達や先生そして家族がいます。大変な時もあきらめずやりとげる自分になりたいです。1人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに！これが6年間の目標です。

新入生歓迎会

新入生歓迎会を終えて

3組 光畑 沙香

天気もよく暖かい日差しの中、無事に私たちは新入生歓迎会を終えた。今日の日



のために、先輩達が一生懸命出し物を考へたりしてくれたのが伝わった。入学して1週間がたった。でも、その一方で不安もあった。例えば、「部活、どれが1

番私に向いているかな」や、授業がはじまり「勉強についていけないかな」等の不安があつた。が、今はもう大丈夫。だつて、今日の新歓で先輩達が私の不安は大丈夫という内容をしっかり教えてくれたから。部活も、一つ一つ中1向けに丁寧に教えてくれた。だから、私に合いそうな部活を見つけることができ、これからの毎日の生活がさらに楽しみとなり、胸がワクワクと期待でいっぱい。

今週末には、待ちに待った合宿もある。今日の新歓で先輩達が教えてくれた学園生活の中で必要となる言葉をもとに、まずは合宿で友達と助け合い、生活するのが第一歩だ。先輩達が受けついで、学園の良い伝統を残していくために、日々の生活を大切に、そして思いやりの心をもつてこれからの学園生活にかかしたい。尊敬するべき人、この学園の先輩達のような、強くて優しい人を目標に私もそんなカッコいい尊敬される先輩になりたい。だから、まずは合言葉を守って思いやりの心をもつ。そんな、基本的なことだから、きちんと守って生活しようと思う。そう、当たり前前することを当たり前前という言葉を胸に…

新入生歓迎会

3組 田中茉莉子

吹奏楽部の先輩達の演奏と、拍手に迎えられる新入生歓迎会が始まった。中学生になると先生と生徒はもろろんだが、先輩と後輩といった関係ができるので、



先輩たちとうまくやっていけるか、少し心配だつた。だけど、だんだん不安はなくなつていった。なぜなら、とても優しくておもしろい先輩ばかりだつたから。 会が始まる前に、中学3年生の先輩が教室まで来てくださった。花がつけられなくて困っていると、「こうやるんだよ」と優しく教えてくださり、とても嬉しかった。部活動の紹介では、1分から1分半という短い時間の中で、楽しく、おもしろく、でも詳しく教えてくださった。そして、この会を企画してくださった先輩、準備してくださった先輩、片付けをしてくださった先輩にお礼を言おうと思う。

この新入生歓迎会のおかげで、もともと楽しんでいた学園生活がもっともっと楽しくなった。勉強、部活も楽しみだし、学校行事もとても楽しみだ。あのよくな先輩達の後輩になれたことをとても嬉しく、また誇りに思う。私もあんな、楽しくておもしろくて優しいフレンドリーな先輩になりたい。そして来年、新入生たちの学園生活がとても楽しみなような新入生歓迎会がしたい。



新入生歓迎会ありがとう

5組 山本 幸歩

今日、ありがとうが10回以上言えました。1〜6回目は授業の終わり、7回目はお弁当を作ってくれたお母さんへ、8回目からは新入生歓迎会のありがとうでした。

中学2年生と、明後日から修学旅行までであるという中学3年生が、こんなに忙しい時に春休みの頃から企画や練習、片付けまでしてくださって本当に嬉しかったです。そこまで新入生を温かく笑顔で迎えてくださったので目の奥が熱くなりました。中学2年生の出し物の「ひとり残らず幸せになれるはず」という言葉が心に残りました。歌も呼びかけもステキで、来年、私達もこんな先輩になれるのかなと思うと楽しみです。部活動紹介では、入りたい部活が決まりました。それは放送部です。金光学園に入学する前から思っていたのですが今日、早口言葉や司会（進行）の声を聴いて、改めて放送部に入りたいという気持ちが強くなりました。入場の時にシューズが脱げてしまったというハプニングがありました。が、不安や恥ずかしさが、先輩方の出し

物、野球部や女子バスケット部などがおもしろくて、そういう気持ちがふき飛びました。

今日の新入生歓迎会を通して、先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。私達192名はこんなに多くの方に囲まれて、祝福されました。これは、とてもいい学校に、そしていい先輩に出会えたからだと思います。私は今日の感謝の気持ちをできるだけ多くの人に伝えるために明日も、明後日も、ずっとずっと「ありがとう」と言おうと思います。新入生歓迎会、ありがとう。



入校時合宿

入校時合宿で学んだこと

2組 遠山 友紀奈

私が、入校時合宿で学んだことは2つあります。1つ目は、規律を守ることです。私は、キャンドルサービスの時に友達と話をしてしまいました。厳肅な雰囲気ですはずだったのが自分たちでこわしてしまいました。しかし、終わって先生の話の聞くと、なんで簡単なことができなかつたのかなと後悔しました。楽しいところは楽しく、静かにしないといけ

ないところは静かにすることを学びました。

2つ目は、知らない人に話しかけると友達になれることです。入学式の日や始業式の日にも、クラスの友達に話しかけて友達になりました。しかし、他のクラスの人には知らない人ばかりでした。そこで私は、「入校時合宿で話しかけてみよう」と思いました。実際に話しかけると、友達になりました。うれしかったです。

入校時合宿は、私の宝物になりました。友達との仲も深めることができたし、他の人のおもしろいところも見つけることができました。しゃべってしまったこと、友達と笑い合って喉がいたくなったこと、班のみんなと協力したこと、男子とも仲良くなったことなどたくさん思い出ができました。これからの学園生活が楽しくなりました。そして、たくさんの人に感謝をしてがんばっていききたいと思います。本当に楽しい2日間でした。

入校時合宿

4組 平松 大河

やっとクラスの人となじめてきた。そ

んな時に、今回の入校時合宿がありました。僕は、この入校時合宿で学んだ事が2つあります。1つは、けじめをつける事です。僕は、合宿の途中にちよつとした事で、気がゆるんでしまっていました。そんな時、先生に「けじめをつけろ」と言われて、「このままじゃあダメだ。」と思いました。何事にも、メリハリが大切だと実感しました。

2つ目は、友達のいる事のすばらしさとコミュニケーションの大切さです。僕は、班の仲間と2日間過ごしてわかった事があります。一人で出来ない事も、みんななら出来た。一人でいるより、ずっと楽しかった。おたがいに助け合う事も出来た。僕はいつしか、「こんな仲間に来てよかった」と思いました。

入校時合宿を終えて、色々な変化がありました。これからの学校生活に「希望」が持て



ました。そして、少しずつ「勇気」も出てきました。僕は、先生や友達に本当に大切なものは何かという事を教えてもらいました。これから先も、ずっとこんな学校生活を送れたらいいなと、僕は思います。

『団結する』ということ

5組 安部 真歩

4月18日と19日の入校時合宿は、学年または、クラスでの団結力が深まった、とてもいい合宿になったと思います。私が、合宿中にそう思ったわけは3つあります。

1つ目は、クラス対抗の集団ゲームです。クラス全員が、協力して競技にはげむことができました。その中でも特に、つな引きです。男女問わず、『勝つ』という1つの目標に向かい、クラス全員が団結して頑



張れました。だから、優勝することができました。

2つ目は、クリーンオリエンテーリングです。班全員で地図を見ながら、クイズに答えていきました。それだけではありませんでした。『ありがとう』という言葉が、多く飛び交っていたからです。それは、だれかが大きなゴミを見つけてくれたときや、何かを頼んだら、してくれたときなどです。『ありがとう』以外で、相手をほめる言葉もたくさんありました。このような言葉は、言われると嬉しくないはずはないと思うので、このような言葉がパツと出るような習慣を身に付けたいです。

3つ目はおもしろい心の心が持てたということです。これは、学年全体に共通することです。調子が悪い人がいたら、「大丈夫」と一言かけて、その人の調子が少しでも良くなるような環境にしてあげました。また、これまでにあげたことも、おもしろいやり方的一种かもしれない、と思います。団結することで人が嫌になることは、ほとんどないと思います。また、学園の合言葉である「人を大切に 自分

を大切に 物を大切に」に、一歩近づけた合宿だったと思います。だから、これからも合言葉を目指し、前進できるように頑張りたいです。



大佐山 中2 教育キャンプ



大佐山教育キャンプ

1組 紺藤 舞子

大佐山教育キャンプを終えて変わったことは、日に焼けたこと、クラスの仲が深まったことです。3日間ずっと一緒にいる経験はとても貴重だと思いました。でもそのおかげで忘れられない思い出がたくさん残りました。

一番印象深い出来事は、キャンプファイヤーです。練習ではふざけていたけれ

ど、本番でハプニングもあったけど、皆が助け合って楽しいスタンプになりました。長谷川先生への言葉のサプライズも大成功で大喜びしました。本当に心から楽しめました。1組が一番完成度が高かったと思います。でも他の組のスタンプも面白くて、楽しい夜でした。

2日目の大山登山は、いろんな意味で心に残りました。大山は思ったより険しくてつらかったです。リタイアする人もいて、とても心配になりました。私の班の班長は、いつもの笑顔が消えていて、しんどそうな表情で登っていました。それでも元気に登っている友達を見て、私も頑張ろうと思いました。途中で、友達や水岡先生が手を引っ張ってくれて自分も頑張れました。助けてくれた友達に感謝！頂上に着くと、まるで地球ではないような幻想的な世界が広がっていました。太陽が近くにあり、大自然の中で雲を見下ろすと、思わず叫びたい気持ちになりました。ここまで友達と来れたことを振り返ると、感動して涙が出そうになりました。

そして、昼間と変わって格別印象に残ったのは、星空です。私の班の班長と見

る星空は最高です。今回のキャンプのころ、クラスの良いところ、自分が思っていることを話しました。テント前の道に2人で寝そべって見た星空は、まるでプラネタリウムみたいでした。いつもよりきれいな星空が見えて、流れ星も見えました。きちんと願い事もしました。



今回の大佐山キャンプ前は、一人ひとりがバラバラだったのが、一つにまとまったと思います。185人全員が一つの目標に向かって協力する事が出来たのは、大きな一歩だと思います。この先もバラバラにならず、一人ひとりを大切にしているかと思えました。

3日間で学んだこと

2組 川本 遥

私は、このキャンプでたくさんのお話を学んだ。そして、いろんなことを身に付けることができた。忍耐力、協力する力、時間を守ること。一番は、大自然の素晴らしさや美しさ、厳しさを身をもって体験できたことだ。

大山登山、野外活動では、『忍耐力』が身についた。一木一石運動でみんなより何倍もある岩を数人で助け合いながら頂上へ持つて行くことが出来た。何度もやめようと思ったが、あと少し、あと少し、と最終的には無事登頂することが出来た。野外活動でも、初めはそこまで過酷なものとは思っていなかった。自分の体がやると通るぐらいの隙間しかない所や、這っていかねければならない箇所な

どが多々あった。服がドロドロになるのも、だんだん抵抗がなくなってきた、夢中で前に進んだ。そして、ゴールの「大ホール」に着いたときは、なんとも言いえない達成感があった。

用具返納や晩ご飯づくり、BBQなどでは、『協力する力』が身についた。班のみんなで協力して1つのことをやり遂げることはそう簡単ではない。でも、1人それた人がいればお互い注意し合えた。みんなで協力したことで、クラスや班の絆もより一層深まったと思う。

そして、このキャンプ全体では、『時間を守る力』が身についた。各係ごとの集合、クラスごとの集合、全体での集合、初めのうちは、遅れたり、忘



れたりして時間を過ぎることがあった。でも、回数を重ねていくうちに、5分、10分前集合ができるようになってきた。それは、一人ひとりの意識が高まったからだと思う。

この3日間で、私はたくさんのお話を学べた。自然の素晴らしさや美しさ、厳しさを身を持って体験でき、自分たちは、この大自然の中で生かされていることを、改めて実感できた。けがなく、無事に3日間を過ごせたことは、とてもよかったと思う。お互いに協力し、助け合え、たくさんのお話を体験でき、学べた3日間になった。このことをこれからの学校生活にも生かしていこうと思う。そして、もっとクラス、学年の絆を深めていこうと思う。

大佐山教育キャンプ

3組 北古賀 慈

2泊3日の大佐山キャンプで心に残ったことが4つあります。

まず1つ目は、キャンプファイヤーです。3組はほとんど練習ができていない状態だったけれど、何とか本番で盛り上がったところが良かったなと思います。

た。クラスが1つになれたと思います。そしてほかのクラスもギャグやダンス、劇などをやっていてすごく楽しめました。

つぎに2つ目は大山登山です。登る時は、とてもしんどかったです。7合目、8合目はとても険しくて、登り切れるかどうか心配でしたが登りきれてよかったです。下山時は、他校の生徒にあいさつをしていました。その時ちよつとウケ狙いで僕が、「こんにちは」を「お茶(おちゃー)」や「紅茶(こうちやー)」などと言っていました。それが案外他校の生徒の皆さんが笑ってくださって、握手したりハイタッチをしたりしました。こうやって他校の人とコミュニケーションがとれて良かったです。

3つ目はバーベキューです。友達とやるバーベキューも初めてだったので変わった感じでも楽しめました。野菜もお肉も美味しく食べてとても満足でした。このバーベキューで友達ともっと親しくなった気がしました。もう一度このバーベキューをしてみたいです。

4つ目は、野外活動です。野外活動では、僕はロッククライミングをしました。

最初は上まで登れるかどうか心配だったけれど意外と登れてよかったです。でも難しい岩では、さすがに無理でした。その岩では、インストラクターさんは、懸垂をしながら上に登りました。自分もしてみたいけれど手がとても痛くて、途中でリタイアしました。でもこのような貴重な経験ができてとても良かったです。また、やってみみたいです。

この大佐山教育キャンプでいろいろなことを学びました。それは、コミュニケーションや生活能力などです。自分は、また新しい友達もできました。このようにクラスが1つに、学年が1つになれた良いキャンプになったと思います。そしてとても楽しかったです。

今回ついた力

4組 山下 朋紀

2年生の大きな行事、大山キャンプが21日から2泊3日で行われた。僕はこのキャンプによってたくさんさんの力がついたと思う。

一番ついたと思うのは協力の力だ。主にこのキャンプでは班での行動が多く、登山する時、朝食昼食などご飯を食べる

時、男子と女子分かれて就寝する時、ほとんどの時一緒にいた。それにより仲間も良くなったし、みんなの意見で決めるので決断力もついたと思う。

そして僕は1日目の夜、歯磨きの時、バーベキューをするためのドラム缶に足を持って行ってしまい、足をけがしてしまった。そしてテント内で足を見ると、膝の辺りが掘ったようになっていて、班の人にも心配させて本部テントに行くように言われた。先生は軽い処置をしてくれ、夜遅いのに救急の病院にまで連れて行ってく



れました。僕は口には恥ずかしくて言えなかつたのですが、ものすごく感謝しています。本部テントで班会議の途中、休憩をしている先生方、また救急車が来るまでに待ち時間を使って治療をしてくださった医者の方、先生方、本当に感謝しています。

2日目は登山で、足をけがしていたけれど母にも登山することを許可してもらい、先生から登山用の杖を借りて見事1700メートルの大山を登頂できました。登りも下りも友達や先生に心配され、「大丈夫？」「山下が来るまで待とう。」など、気を遣ってもらいました。

3日目、野外活動ではロッククライミングを選んでいて、足のけがなど気にならないほど夢中に頑張つて「ほんまに怪我人か。」と先生に言われるほど楽しい時間を過ごしました。

この2泊3日の大佐山キャンプ、笑い、喜び、苦しみなどいろんなことがあったと思う。このキャンプでついた力をもっと伸ばしていこうと思う。



また思い出ひとつ・・・

5組 横藤田麻結

大きな不安を抱いて私は家を出発しました。アリの刺されないか、大きな事故にあわないか、そして無事に大山に登頂できるのか。たくさんの心配を抱えて

の出発でした。

約3時間後、目的地の大佐山キャンプ場に到着しました。そこには、辺り一面に緑の山が連なっていました。これから3日間、この大自然の中で過ごすと思うと楽しみで仕方ありませんでした。昼食の時にはこれから少しの間、母の手作りご飯を食べないので一口一口を大切に味わいました。夕食準備では、班での活動が早速ありました。男子と女子が一緒に話して会話することは減多になかったけれど協力してできたので良かったです。

さあ、次はみんなで楽しみにしていたあのキャンプファイヤーです。クラスそれぞれ火を灯してスタートしました。その中でも一番楽しかったのは、やはりスタンツです。我ら5組風の「GUTS」に合わせてダンスをしました。ダンスはスタンツ係、エールマスター、ダンス部で意見を出し合って考えました。練習のときは男子の1部の人があぶけて全然やってくれなくてイライラしたこともあったけど、本番が近くなると段々真面目にしてくれるようになって本当にクラスの団結力が深まった気がしました。本番も

心から楽しめたのでよかったです。みんなの笑顔が輝いて見えました。その他のクラスのスタンツも一人ひとりが頑張つて、本当によい学年だと感じました。

テントでの就寝は少し寒かったけど自然の秘密を知ることができました。翌日の登山に控えてぐっすり眠ることができました。

翌朝。大山登山がやってきました。バスに乗って移動し、大山に着きました。いよいよ目当ての大山登山の始まりです。

初めは、ただの道で面白くなかつたけど登っていくうちに段々きつくなりました。きつくなると共に寒くなつたので、改めて山は不思議だと思いました。途中でリタイア者も出ていたけど、安全に登れたのでよかったです。頂上で食べるおにぎりやサンドイッチは絶品でした。あの時の味は忘れられません。下山の時では、友達の意外な一面を見ることができてよかったです。全員無事に登頂し、絶景を見ることができました。これも、先生方や家族、友達のおかげだと思います。本当にありがとうございます。

その日の夜の肉をたくさん食べて体

中二大佐山

教育キャンプ短歌

力が回復しました。すっごくおいしかったです。夜は、テントで爆睡し体力を温存しました。

3日目の野外活動は大佐山の自然について知り、改めて自然の素晴らしさや雄

大さを実感しました。

この3日間は最高で最強の思い出です。また良い思い出が増えました。みんな、ありがとう。

【佳作】

鳴り響くラッパの音で目が覚める

自然がいっぱいカミナギる

すき焼きで僕の仕事は火の番人
極上枯れ葉で火を守り抜く

大佐山母の育った町を見て
豊かな自然に心が躍る

大山の頂から見る風景は
雲海に乗る神様の気分

大山が光り輝くそのために
僕も入れたよ笑顔の募金

バーベキュー登山のあとでしてみたら
ひざまも心も大爆笑

夜テント人の個性があふれ出す
話するやついびきかくやつ

一組 鈴木 弥深
二組 児玉 竜一
三組 杉 瑠菜
四組 長岡 桃香
五組 橋高 光哉
六組 岩川裕美子
七組 安東 大輔

【第一席】
トーチの火 輝く炎 見つめると
自分の悩み ちっぼけなよう

【第二席】
友達と笑って見上げた星空は
入場無料のプラネタリウム

【第三席】
楽しみにしていたお肉宙に舞う
お肉とともにテンション落下

「中3沖縄修学旅行感想文」



「戦争の痛み」

1組 中田美菜子

「ババババーン」
と、ちょうど朝食を作っていたとき安里さんは艦砲射撃を受けた。その語り部の迫力に一瞬私たちのホールは静まりかえった。自分も息を殺しながら安里さんの話を聞いていた。自分の住んでいる広島は原爆を落とされた県であるため、小さい頃から親に戦争の悲惨さを聞かされ、よく原爆資料館に連れていかれたのを覚えている。だが、よく知っていたのは原爆のことだけで、沖縄の地上戦については知らなかった。2年生の時にあった学年集会で沖縄について調べたとき、一番に興味を持ったのは、やはり「戦争」だった。修学旅行の前日、「戦争の悲惨さ」をあじわって帰ってきなさい」そう親は言い、私はその言葉を心にとめて、沖縄に向かった。

沖縄の地上戦は私が思う悲惨さを超え

るものだった。平和祈念資料館と一緒にまわった友達が、「原爆よりも地上戦のほうが写真があるから怖い」と言っていた。私はそれでも原爆のほうが恐ろしいと思っていた。だけど、糸数壕に入った時、その考えは逆になった。「まだ、皆さんの歩いている土の中にはここで亡くなった遺骨があるでしょう」とガマのガイドさんは静かに言った。自分の体で戦争当時に使われていた所に触れられるのは、たぶんここだけだろうと体が拒否反応をおこそうとした。しかし、親に言われた言葉を噛みしめ、一步、一步、ガマの中を歩いていった。冷たい空気のガマを出ると、蒸し暑い空気が心を少し和らげてくれた。それは、恐ろしく悲惨な過去から穏やかで平和な今に戻ってきたような感じがした。ガマに入る前日の夜に見たエイサー鑑賞が、今の穏やかな沖縄の雰囲気を出しているように思えた。だが忘れてはいけない。戦争の残酷さ、沖縄の人々の悲しみ、一度傷ついたつらい過去はそう簡単にはとれない。そのことを学び実生活でも活用し、また戦争の痛みを次の世代にも伝えていきたいと思った。

「ありがとう」

僕はこの修学旅行で新クラスになって友情がとてもしっかりともいい思い出になりました。

2組になって最初の頃、違うクラスの友達が「2組、いいなあ」



2組 塩谷 紀和

などと言ってくれていましたが、僕はその友達のクラスの方がいいと思うしていました。おまけに教室の位置も悪いし。でも今はこの修学旅行を通して6クラス、どのクラスの中でも、2組が一番楽しい、2組でよかった、と自信を持って言えます。

特に友情が深まったと思うのはバスの時間もありますが、ホテルでの自由時間です。風呂を終わらせたらずぐ一つの部屋に集まって就寝時間までずっとふざけあったり、語ったりしました。都ホテルでは朝から戦隊ものを見て笑ったりしま

した。またしゃべりすぎて周りが見えなくなつて怒られたりしました。けれど、それもいい思い出になりました。

しかし、楽しいことだけではなく、修学旅行では戦争の苦しみとその当時の状態を知ることができました。テレビや映画では、『ホテルの墓』や『GAMA―月桃の花―』など映像で見たことはありますが、資料館ではリアルな人の死体などの映像が映されていて、これが戦争の実態なんだと思いました。また実際にガマに入ってみて、あんなに暗いところで一カ月も暮らすなんて考えられませんでした。一番心に残ったことは石で積まれた上の医療室で麻酔なしで足を切断していたことです。骨まで切断するなんて考えただけで心が痛いです。でもそんな真つ暗なガマにたくさんの方が命をかけて逃げこんで来るなんて、地上がどれほどひどいのかと思いました。また僕達ぐらいの年齢の男子は戦争へ行かなくてはなりません。それも命をかけて。ここで僕は1つ思いました。今までの自分の人生に命をかけた事がないと。野球だって命をかけてやっているけど負けても死ぬことはありません。しかし、戦争は負けたら

死、勝つても今の自分は達成感もないと思います。むしろかわいそうだと思います。僕と同じ年のころから、そんなことを昔の人たちがしなければならなかったというのとはとてもつらいことです。でもその人達のおかげで戦争の悲惨さが伝わり、くり返されていません。だからその人達にありがとう、を言いたいです。この平和な日本を作ってくださり本当にありがとうございます。



「今の自分があつたころの思い出」

3組 浅野日向子

中学3年間の中で最大のイベントといえば「修学旅行」だろう。今回の沖縄修学旅行で学んだもの、得たものは本当にたくさんあった。

まず最初に、平和の大切さだ。初日は安里要江さんのお話を聞いた。安里さんは、とても94歳には見えないほどお元気で、ハキハキと話されていた。安里さんのお話は私が想像していたものよりもずっと残酷で、戦争がいかに悲惨で恐ろしいものかということがグサグサと胸に突き刺さった。

2日目には糸数塚、沖縄の言葉で「アブチラガマ」という防空壕に入った。事前学習で調べたり、話して聞いたりしたことはあった。実際にガマに入ると足下は滑りやすく、懐中電灯を消すと真っ暗で本当に人が生活していたとは思えないほどだった。案内してくださった方のしゃべり方は感情に訴えるものがあり、当時の景色を見ているようだった。

ひめゆり資料館では、ひめゆり学徒隊の人たちの写真と一緒に一人ひとりのプロフィールを見た。そうすると、私と同

い年や私よりも小さい子たちもいた。今の私自身を振り返ってみると、私もちゃんとしなければならぬ、と思った。安保の丘では米軍基地を見た。間近で見ると、本当に格納庫や核シェルターなどがあり、基地問題の現状を知った。

そんな沖縄の自然はとても美しかった。海は青く、空は澄み渡り、日差しはキラキラと輝いていた。グラスボートに乗って海の中の魚たちを見たし、美ら海水族館では、大きな魚や美しい魚を間近で見ることができた。

国際通り自主研修や部屋では、友達と生活を共にし、親睦を深めることができた。

平和学習デーで私たちが学んだことを生かし、後世に伝えていかなくてはならない。そして何より平和な世界にするためにできることから始めようと強く思った。戦争で亡くなられた方々には哀悼の意を示すこと、戦争を生き抜いてくれた人たちがいてくれたからこそ、今の自分があるということを認識する、二度と戦争を起こさないと気持ちを持つて、平和な世の中を築いていきたいと思う。



「たいせつなこと」

4組 遠藤 稚子

3泊4日の修学旅行が終わり、振り返ってみると4日間がとても充実していたあつという間でした。

1日目、いつもとは違う朝に気分も高まり、バスに乗りました。そして沖縄に到着して2日間の平和学習が始まりました。平和の礎、平和資料館では沖縄戦の悲惨さを目の当たりにしました。安里さんのお話を聞かせて頂けたことは私たちにとても貴重なことでした。やはり教科書や後に作られた映画で学ぶより

ずっと重みがあり、戦争の苦しみが伝わってきました。また戦争の辛い記憶は思い出したくないはずなのに、たくさんの方所で戦争のことを伝えて平和を訴えている安里さんは、本当にすごい方だと思いました。

1日目の夕食後はエイサー鑑賞をしました。初めて見るエイサーはとても迫力があり、想像していたものとは全く違いました。沖縄の文化に触れられて良い思い出ができました。

2日目は4日間の中で一番短く感じた一日でした。午前中だけで四カ所を回りました。グラスボートに乗れた「みーばるびーち」は、天気も良く、たくさんのお魚やサンゴが見えました。きれいな海やサンゴを見ることで環境問題についても考えることができました。次に行った糸数



壕は正直入りたくありませんでした。しかし、ガイドさんの話はとても深く心に響きました。出口の近くで光が見えた時の気持ちは忘れられません。壕に入ることで沖縄の暗い歴史を感じました。平和学習最後の見学場所だったひめゆり資料館では私と同じくらいの歳の女子生徒の写真があって、見るのが辛かったです。

2日間の平和学習を終えて、なぜあんなにたくさんの方が命を落とさなければいけなかったのかという疑問とともに、事前学習で学んだことから自分ができることは何かと考えることができました。とても大切なことを学べたと思います。戦争中心から生きたいと願っても生きることはできなかつた人々がたくさんいたことを忘れずにいようと思いました。

3日目からは沖縄の文化をたくさん感じることができました。一番楽しかった国際通りやそれぞれ分かれての体験学習など、とても楽しく過ごしました。ホテルに戻った後の夜の集いではとても盛り上がりあって、協力して準備をがんばった甲斐がありました。あと1日で帰らなければいけないという寂しさも少しだけ感じながら、修学旅行の3日目が終わります。

最終日は天気が曇りでしたが、美ら海水族館のジンベイザメを見てみると、曇り空のことも忘れていました。海に潜ったような気分になり、とてもきれいでした。急いでお土産を買った後、残り少ない時間だったけど、海に入ることができました。裸足で歩く砂浜や透き通った海にとっても癒されました。そしてホテルに帰るとすぐ空港へ行きました。「もう終わりに着いてしまいました。行きも帰りも来てくださった那覇教会の林先生のお話を聞いてから飛行機に乗ると、岡山に帰るといふ実感が湧いてきました。

この4日間、沖縄でとてもたくさんの方のことを学びました。沖縄戦のこと、文化のこと、自然や人々の温かさなど、私にとつてすごく貴重な4日間でした。また、私たちはたくさんの方にお世話になりました。その感動と学んだことを忘れずに、これからの学校生活に役立てたいです。沖縄の空気、音楽、ゆったりとした時間の流れ、人々の温かさなど、いいところがたくさんあります。今からでも行きたいです。

『生きたい』という気持ち」

5組 中藤 駿

僕がまず、沖縄で感じたことは気候の違いです。日中は半袖で過ごしやすい沖縄ですが、岡山では肌寒くストーブを使っていました。

また、生活や文化の面でも違いを感じました。市場ではアオブダイなど色鮮やかな魚をはじめ、イセエビやシヤコガイ、ヤシガニなどの普段、水族館で見ているようなものばかりが目につきました。文化の面では沖縄独特の方言に驚かされました。

そして、今回の修学旅行のメインともいえるのが、2日間の平和学習デーです。平和祈



念資料館では戦争体験者である安里さんの話を聞きました。僕の祖母も戦争を体験していますが、祖母の話とは大きく違っていました。目の前で死んでいく母や弟。そして、自分の息子までもが戦争によって奪われました。「ただ美しいというだけではないこの沖縄の大地には二十五万人という人々の血が染みついているのだ」と考えると、とても信じられませんでした。しかし、それを実感できたのはやはり「ガマ」ではないでしょうか。ほとんど当時のままになっていて、その中に僕は天井に刺さった変わったものを見つけた。それは爆発によって飛ばされた鉄板だったのです。年に何度も見つかるといふ人骨は今道路の下になり見つけられないという話を聞きました。僕には、「ガマ」の天井から落ちてくる水滴が、まるで真つ暗な中で死んでいった人々の「生きたい」という気持ちの涙のように思えました。また、4日間毎日沖縄の人の中には約70年前のあの日の悲劇を思い出す人がいるのだと感じました。そして、あの日のことを安里さんはじめ、多くの人が「言葉では表すことが

を考えると、比べ、経済や世界の状況から判断しました。僕は沖縄にはアメリカ軍基地がある方がよいと思いました。理由は、アメリカ軍の基地があるからこそ今の平和な日本があるし、もっとアメリカとの友好関係を結べると言うからです。

次に自然です。沖縄には、他府県とは違う、珍しく、豊富な食材、色鮮やかな魚や青い海に数少ない貴重な生き物が沢山います。その豊富な食材を使つての伝統料理がとてもおいしくて感動しました。さらに、地元で作った果物や野菜、肉などを地元で消費する地産地消が良いと思いました。

小さいころに一度沖縄に行ったことがあります。安里さんの話やガマの話、エイサー鑑賞、ニライカナイでの体験などから、沖縄の人は今を一生懸命生きていると感じたことが理由です。戦争で自分の将来の道を失ったりしても、壁を乗り越えて、自分のため、周りの人のため、世界のために頑張っていると思う

と、とても勇気づけられました。また、この世に生まれてきてよかったということ。ガマに入った時に聞いた話がとても印象に残りました。戦争で辛い体験をした人から話を聞けるのは、僕たちの世代で最後かもしれないし、こんなに平和な日本でいられるのは今だけかもしれない。貴重な時に僕たちは生まれてきました。今まで見たことの無いような素晴らしい風景や生物、食材に触れることができ、とても幸いです。こんなにも良い体験ができるのは、僕を産んでくれた、お父さん、お母さんのおかげです。僕を産んでくれたことにとても感謝しています。この世に生



できないような地獄であった」と話していました。

2日間の平和学習デーを終えて、残りの2日間とても楽しむことができました。今回の修学旅行で学んだことは自分たちだけでなく、これから先の人々に語り伝えられ、誰もが戦争の悲劇を知っている、二度と戦争を起こさない、という世の中が続いてほしいと思います。

「生まれてきてよかった」

6組 高垣 絢

僕は、この4日間の修学旅行で沖縄の様々なことを学びました。

平和学習では、安里さんの生の体験談を聞いたり、平和資料館の見学、魂魄の塔やひめゆりの塔、ひめゆり資料館へ行ったりしました。唯一地上戦が行われた沖縄戦での生々しく、とても現実とは思えない話でした。戦争からは何も良いことは生まれない、このことを改めて学びました。

基地問題では、安保の丘から見る基地が本当に必要なか必要ないのかを考えました。必要と不必要の良い点、悪い点

をくれた父と母にいつか大きな恩返しをしたいです。今回の修学旅行はとても思い出に残るものとなりました。

沖縄修学旅行短歌 コンクール

【第一席】 一組 妹尾 謙大
戦場の大地に生える
さとうきび

天までとどけ平和と共に

【第二席】 三組 浅野日向子
沖縄は赤青緑
あざやかに
キラキラ輝く自然のパレット

【第三席】 六組 洋田夕珠姫
ニライカナイいいシーサーを
作ろうと
完成したのは「あれ？」母の顔

高2修学旅行 北海道コース



紀行文 1日目

6組 川原 俊一

梅雨の晴れ間に水田にたつぷりの水が張られ、夏の始まりを感じることできる岡山県。そんな時分に北の大地、北海道へと我々は出発した。

北海道への道程は数多の交通機関を駆使して行った。そして気付けばすぐに北海道に到着した。空港から一歩踏み出すと、皆の涼しさへの喜びの歓声が上がった。

た。岡山の暑さとはまるで違う、気持ちの良い気温であった。早速、北の大地を感じる事ができた。

バスに乗り込み観光地へ出発した。バスの車窓からまず見えたのは北の大地を物語る雄大な緑の景色だ。車窓のすき間から聞こえる風のささやきとガイドさんの心地よい声が旅の始まりの合図であった。

1日目は網走監獄、流水博物館といった北海道を体中で感じることできるものであった。時はあつという間に過ぎ、夕刻となった。宿は知床のすてきなホテルで、夕食までに時間があつたので、散歩に出かけた。夕日がきれいに見えるスポットがあるということを楽しみにしていたが、あいにくの曇り空で夕日を見ることはできなかった。しかし、二重の玄関や平たい屋根など今まで教科書の中だけでは見たことのない風景を知識と照らし合わせながら見る事ができ、北海道を感じる事ができた。

夕食や入浴も過ぎ、就寝の時間となった。

た。今日はワールドカップだ。バスの中でもその話題で持ちきりで皆楽しみにしていたが、あたりを見れば、皆、夢の違った。北の大地に感激したり、岡山との違いに刺激を受けたりして疲れてしまったのだらう。僕も疲れてしまった。もう一度旅のしおりを見て眠ることにしよう。明日も北海道を満喫できることを期待して。

2日目

1組 荒尾 真衣

初めての北海道の朝を迎えた2日目。天気は曇りで気温も涼しくすがすがしい朝を迎える事ができた。

まず最初に「知床五湖」に向かった。行きバスの中では一日目と比べ少しみんなの表情に疲れが見られたが、岡山では見ることのできない雄大な自然とバズガイドさんのガイドにみんなくぎ付けだった。そしてバスの中から野生のシカと北キツネを見ることができた。知床五湖に到着し、山々の雄大さや綺麗な湖に鳥肌が立った。風も涼しく本当に気持ち良かった。

次にネイチャーガイドの方から説明

を受けながらフレペの滝に向かったフレペの滝に向かう道中、野生のシカを間近で見ることができた。しかし、野生のクマを見ることができず少し残念だった。フレペの滝は雄大で素晴らしい。

そして、次にこの日一番楽しみにしていた渡辺体験牧場に向かった。広大な牧場ではたくさん牛が放牧されていた。昼食の本場のジンギスカンや食後のソフトクリームは絶品だった。その後、牛の乳搾りや餌やりを体験することができた。牛と直接触れ合うことができてとても新鮮で、貴重な体験をすることができた。

最後に摩周湖を訪れた。霧がかかっ



ていたが青色でとても美しかった。今まで見たことのないような絶景で自然の素晴らしさを感じる事ができた。そしてこの日の宿泊先の層雲峡のホテルに向かった。

2日目は北海道の雄大な自然を一番感じる事ができた一日でも充実したものだ。

3日目

3組 原田 多笑

3日目は、多くの人が楽しみにしていた日だと思う。バスに揺られて疲れも溜まっていたが、それを忘れられる楽しさがあった。

まず、午前中は旭山動物園へと向かった。心配していた天気は全く問題なく、少し暑いくらいだった。自由散策の時間は十分にあり、ほぼすべての動物を見てまわれた。一番印象に残っているのは、ホッキョクグマだ。間近で見ることができたし、とても大きかった。その他にもペンギンやアライグマなどもいて、とてもかわいらしかった。

そして、夕方からは待ちに待った札幌研修。午前中の疲れもあって少し眠かつ

たが、とてもわくわくしていた。私たちの班は、「白い恋人パーク」という所へ行った。予想以上に、きれいな場所でお城みたいだった。見学が終わって札幌駅に向かった。駅は広くて、人も多く、すごいところだった。普段地下鉄に乗ることもあまりないので、それも良い経験になった。札幌研修は思ったよりも早く時間が過ぎて、あつという間だったので、もう少し時間が欲しかったなと思う。でも、短時間でとても濃い経験ができて楽しかった。

4日目

1組 神原 佑奈

日差しが遮られた曇り空の中、4日目は始まった。初めこそ肌寒く感じていたが、それもだんだんと和らぎ過ぎしやすなものとなった。

この日は自主研修で小樽をまわる。様々な店が軒を連ねる道を班の皆と時間を気にしながら歩くのはなかなか楽しい。地図を片手に目当ての店はまだかと会話を弾んだ。三号館という、綺麗な色や細工を施されたガラス製品を主に扱う店や、そこよりも品質はやや劣るが魅力

的な製品を手頃な値段で売るアウトレット、所狭しと並べられたボックスが奏でる穏やかな音で満ちた小樽オルゴール堂。これらの場所を見てまわりながら、ついあれもこれもと手が伸びてしまうのを抑えた。いつもよりも早めの昼は北の漁場という所をとった。親子丼を頼んだが、そこは海辺の市。鮭といくらの親子である。普段はあまり食べられないそれには大変満足できた。土産屋の多い小樽はいくら時間があっても足りないと思わせるには十分で、見るのが叶わなかった店が数多くある。それを残念にも感じるが、また次の機会に預けておこうと思う。

場所を変えた午後は晴れて青空も覗いていた。ニセコでの体験学習は釣りを選択している。バスで移動した先で、胴付長靴を渡された時はさすがに驚いた。川辺に立って釣るものだと思っていたからだ。針にミミズを付けて川の中にぶぶぶぶと入っていく、水平に竿を振る。簡単に見えて遠くに飛ばすのは存外に難しい。結果から言えば、私は魚を釣ることは出来なかった。だが、冷たい水が足にぶつかり押し流されそうになる感覚や、

波間に透ける川底の様子を見るだけでも面白く、時間を忘れて没頭してしまった。この日の夜はペンションに泊まった。オーナー夫妻は親切な方で、夕食や食後のデザートはどれも美味しかった。一日多くの体験をし、心地よい疲れと共に4日目を終えた。

5日目

5組 高橋 和希

5日目の朝は皆、最終日で疲れていたこともあり、大半の人がペンションのオーナーさんに起こされました。朝食をとり、出発時間の少しの時間を使って、お世話になったオーナーさんと写真を撮りました。

最初に僕達は昭和新山に行きました。僕はその山の名前しか知らず、普通の山を想像していました。だから最初にその山を見た時は何か煙みたいなのが出ており、驚きました。

次に白老ポロトコタンに行きました。ここではアイヌ民族の文化を知ることができました。まずアイヌの歴史についての説明を聞き、次に伝統の歌や踊りを観賞しました。歌がとても面白く、印象に

残りました。僕はそこでアイヌの説明をしてくれたお兄さんがサケの燻製がオススメだと言われていたので、買いました。とにかく匂いが凄かったです。バスでの移動中ではほとんどの人が寝ており、とても疲れているように感じられました。

最後にノーザンホースパークに行きました。そこでは、前々からテニスができると聞いていたので、とても楽しみにしていました。だから全体写真を撮っている時にもテニスがしたいとうずうずしていました。いざ行ってみるとレンタル料がかなり高くて財布にかなりのダメージを与えましたが、とても楽しかったです。途中で成田先生や岡崎先生、そのほか大勢の人も加わってめちゃくちゃでした。

新千歳空港ではまだ買っていないお土産を買ったり、夕食のラーメンを食べたりしました。帰りの飛行機では皆、疲れて眠るかと思っていたけれどかなり賑やかでした。

北海道ではたくさんの人たちのお世話があって行けたと思うので、その人たちに全員に感謝したいと思います。

高2修学旅行

シンガポール・マレーシアコース

紀行文

1日目

藤原 大葉

朝早くからの集合でも眠かったですが、電車を乗り過ごすこともなく集合できて良かったです。飛行機は何度か乗ったことがあったので慣れていましたが、金属探知機に友達がひっかかっているのを見て少しびびりました。シンガポールには初めて行ったのでビルの高さや建造物の多さにとても驚かされました。夕ご飯の前には中国銀行の小野さんの講演がありました。とてもいろいろなことを教えていただき、そしてアドバイスもいただきました。小野さんの講演は探究にもからんで



いたのでとてもためになりました。夜ごはんはシーフード料理でした。シンガポール流の料理のつぎ方も学べたり、おしぼりがラベンダーみたいな香りがしました。ホテルはともいいういホテルに泊めさせていただきました。とてもよく眠れました。

2日目

岡田 郷

マライオン公園にて本物のマライオンを見た。マリーナベイサンズホテルというシンガポールで最高級のホテルを見学できた。

ブラザーアンドシスタープログラムにて、現地の学生達と行動を共にした。昼食も一緒でした。また、昼食にて私達は英語を用いて店員とのやり取りを行った。これまでの英語での学習を存分に生かせたのだろうか。地下鉄やバスを用いて、中国圏のエリアやアラブ圏のエリアを広

範囲に渡り案内してもらいました。各国の文化の違いを少しでも多く吸収できたなら幸いです。

このプログラムを通して感じた事は、シンガポールはどの建物にもどの通路にも多くの人々が忙しく歩き回っていたことです。活気がある国だと感じました。得られた経験がとても多い2日目の修学旅行でした。



3日目

岡本 瑞希

修学旅行3日目、6月18日水曜日。何日経ってもこの暑さに慣れそうにない。

ホテルで朝食をとり、私達は9時にマレーシアに向けて発った。マレーシア入国手続きは想像していたものよりも呆気なく終わった。その後はジョホールバル市内観光やモスク・マレー文化村でロウケツ染め体験などをした。

昼になり私達は「ソルト&ペッパー」、日本語で塩コショウという店で昼食を食

べた。ケーキなどは甘く、とてもたくさん食べられるものはなかったが、食事はおいしかった。

この後はホームステイ先に向かう。ホストファミリーときちんとお話ができるだろうか。でも、この悩みは杞憂に終わった。とても優しい人達ばかりでチョンカのルールを教えてくださいたり、一緒にジャランジャラン(マレー語で散歩という意味)をしてくれたりした。マレーシアの民族衣装を着て模擬結婚式を見るのも楽しかった。この一日は楽しかったが、左手でご飯が食べられない大変な日でもあった。



4日目

上川 真奈

シンガポールから海を渡って見える国、マレーシアでのホームステイから再びシンガポールに入国した。セントーサ島へ。

マライオン公園のマライオンの10倍くらい大きいマライオンを目にした

5日目

藤本 峻介

時の驚きは忘れられないだろう。そのマライオンの前で記念撮影をし、各グループ自主行動に移った。女子のグループはほとんどがユニバーサルに行った。昼食を注文する時も、写真も撮ってもらった時も、値段を聞く時も英語だった。伝えることの難しさを知り、でも諦めず自分達なりに英語を話す努力をした。海に行ったりロプウェイに乗ったり、様々なことをして各グループ有意義に過ごすことができた。修学旅行での最後の行事であったナイトサファリ。迫力あるライオンなどの大型動物からフラミンゴなどの小型動物まで多くの動物を間近で見ることが出来た。聞いたこともない動物も目にし、なかなか味わえない経験をした。

シンガポール・マレーシアの5日目は空港の自由時間から始まります。

4日目の夜10時30分から12時30分まで自由時間でした。とても暇だったのでうみんで今までの日程を振り返って、「これはおもしろかった」「これは微妙



だった」と言い、盛り上がり過ぎて飛行機に乗りました。飛行機の中ではみんな疲れていたのですぐ寝ていました。そして朝になり日本に帰って来てしまいました。振り返ると、あつという間に過ぎて、帰って来たくありませんでした。そして空港を出てバスに乗って途中の三木のサービシアに寄り駐車場に着いて解散しました。バスの中はほとんどの人が寝ていました。三木のサービシアで昼ごはんを食べたとき日本食のおいしさに感動しました。

高2修学旅行 オーストラリアコース

「今回の旅行で変化したこと」

1組 池田 吉隆

僕は今回の修学旅行で日本がいかに贅沢で安全な国であるかを実感することができた。日本と海外の違いをいろいろと体験することができた。例えば、オーストラリアの男性用のトイレは仕切りがなかったり、同じ物でも日本とは少し味が違う食事であったり、雨が少ない土地なので節水をする必要があったり、生水を飲むことができないなど、日本と比べて不自由な点をさまざまな場面で見ることができた。僕はこれらの様子を見て、日本の贅沢さや安全面での充実を再認識することができたし、それは日本が世界に対して胸を張れる点であると思った。それと同時に、僕たちは当たり前になっているこの充実感謝しなければいけない。これは日本を離れた旅行だったからこそ気づけたことだと思う。

僕のファームステイ先の家庭では、新聞紙や郵便物が家まで届かなかった。町まで出て郵便局に取りに行くというシス

テムだった。僕は不便だと思ったが、彼らはまったくそのように思っていないかった。僕は実際、そのくらいの方が丁度いいかもしれないと思えてきたし、むしろ日本が恵まれすぎているのではないかという思いが強くなった。

日本との違いがいろいろあったが、オーストラリアは世界から見れば恵まれている国だ。それに日本とは比べることができないくらい広大で美しい自然とさまざまな種類の動物が生息している。そしていろいろな人種の人々が生活して平和で素晴らしい国だ。世界には貧しい国や豊かな国、美しい自然等、僕が知らない世界が



たくさんあるということを思い知らされた。僕はその知らない世界を、さらに自分の目で実際に見てみたいと感じた。

今回の旅行は間違いなく一生の思い出になる素晴らしい旅行だった。旅行に行かせてくれた親や引率の先生方、友人、JTBの方、そしてオーストラリアに感謝している。



さる9月13日、14日の2日間に亘り開催されました本年度のほつま祭の友愛セールに際しては、皆様の多大なご協力とそして絶好の好天にも恵まれ、校長先生のお話ではおそらく史上最大規模の来場者をお迎えすることができ、大成功を収めることが出来ました。保護者の皆様の温かいご支援に対して心からのお礼を申し上げます。

特に手作り品の作製等については多くの方々が何度も学園に足を運んでいただき、準備に奔走していただきました。更には役員の方々の中には受験生のお子様をお持ちでありながら、連日夜遅くまで準備に励んでいただいた方もおられました。皆さんのご努力には本当に頭が下がると思いがたしますし、またご理解をいただいたご家族の皆様にも感謝を申し上げます。

私は保護者会長として2度目のほつま祭でありました。昨年の反省をふまえてリサイクル制服の配布を中止した他、様々なお願いをさせていただきますました。そのために色々とお願いをさせて皆様にはご迷惑をお掛けしたこともございまして、最終的には皆様ご趣旨をご理解され、こ

友愛セールご協力の御礼

協力をいただきましたことについてお礼申し上げます。ただ、まだまだ友愛セールについてはもっと素晴らしいやり方や、進め方があるかもしれないと、ご意見等がございましたら、今後も積極的に寄せいただければ幸いです。

本学園の友愛セールの取組みは県内他校の文化祭等でのバザー等を見ると、比較にならないぐらいの規模で実施されています。それを可能にしているのは、保護者の皆様の少しでも先生や生徒達のためになれば、という愚直なお気持ちだ、と感じております。私はこのことは皆様に誇りに思っていたきたいし、また生徒達が卒業してから、在学時に生徒達のために汗を流していた保護者の方々の姿を思い出してもらえたら、と願っておりますし、もしその子達のお子様もが学園へ入学することがあれば、同じように汗を流してもらえたら、と願っております。

金光学園やつなみ保護者会

会長 中谷 庄吾

2014, 6, 15 (Sun.) Yuujirou Ishii

I had delicious dinner in the plane. I carried a heavy suitcase. I am indeed an unlucky person because I lost my glasses.

The way to Kansai International Airport is very long. I lost the power of speech.

2014, 6, 16 (Mon.) Kansuke Yamanaka

The plane arrived at Cairns Airport. It was dark outside. It was chilly.

First I went to the sea. A strong sea breeze blew.

Next I rode on the sky rail. I saw the beautiful rain forest from the sky. It was very good.

And I went to the Kuranda Market. I ate macadamia nut ice cream. It tasted very good. I also bought candy there.

After I went to the Rain Forest Station Nature Park. It was interesting. I rode on an Army Duck vehicle.

Finally I went to Atherton, to meet my host family. Before meeting my host family, my heart was beating. Riding in my host family's car I arrived at the house. I helped my host family to pick papaya in the vegetable garden.

2014, 6, 17 (Tue.) Yuka Uneyama

The Goodrich family, Rebecca, Luke and Ava really love animal! We took care of their pretty animals, watched a movie "Harry Potter" and made boomerangs. I think we spent a quality time. When we were playing with Ava, we realized we were good toys for her! She was very polite in front of David and Beckey, but she was a wicked girl in front of us! And, Luke and Ava looked like close friends.

2014, 6, 18 (Wed.) Sae Okamoto

We went to a jewel museum. The building looked like a cave. We put on a helmet. There were a great many jewels in the cave! There was a very big amethyst. We were very excited. My friend bought a necklace made of opal. It was very beautiful and expensive. She looked very happy. After that, we went on a picnic. I fed a lot of wallabies. When we were eating sandwiches, they jumped onto our table. It was fun. After eating lunch, we looked around the park. There were a very huge stone, a big fall and a beautiful pond. There were turtles and a platypus. After we went home, we played cards with my host family. I lost and won. I played a video game with host sisters.

My host mother gave me a letter for my family. I felt very sad because I had to say good-by to my host family the next morning.

2014, 6, 19 (Thu.)

We said good-by to our host family. My friends and I cried. We hugged each other.

After that, we went to Green Island. I talked a lot to the person next to me. I was very happy to communicate with her in English. But I got seasick. It panicked me very much. I felt sad. However after I reached Green Island, I went snorkeling. It was very exciting. I dived for a long time. I swam with colorful fish. The fish were very beautiful. I came to want to snorkel more in the future.

After we reached Cairns, we went shopping. I bought a lot of presents for my family, friends and my boyfriend! It was exciting. I ate the mango ice cream which my teacher recommended. It was the most delicious kind of ice cream I have ever eaten.

高1学習合宿



1組 工藤 知恵

16日と17日の2日間、私達は勉強合宿をしました。高校生になって初めての行事を楽しむことが出来ました。

合宿では友達と協力する機会が多かったので前よりも仲が深まったり、新たに友達が作れたりしました。みんなでパーベキューをしたことが特に印象に残っています。

また、授業もありました。国語では印象に残る自己紹介をしました。私はおもしろい紹介が出来ませんでした。授業が終わってから読書ではなくぬいぐるみのことを言えば良かったと思います、少し後悔しました。生物では広場に生えていた植物のスケッチをし、英語では辞書を使った授業をしました。私は以前、先輩から高校での授業は大変だと教えていただいていたので、正直授業を理解できるか不安です。しかし、どの授業も楽しかったので少し安心しました。

クラスが出来てまだ日がたっていないまますぐに合宿だったのでクラスの人と話せるか不安でしたが、合宿のおかげでクラスの人を少し知ることが出来ました。

合宿を通して私は周りの人のありがたさや勉強の大切さを感じました。とても有意義な合宿をすることが出来て良かったです。今後の高校生活では感じたことを忘れずに楽しく過ごしたいと思います。本当に合宿でたくさんの方が経験できました。また合宿をしたいと思います。

2組 浅野 光軌

僕は高校生活のスタートにあたってすごく不安でした。同じクラスの友達や新しく入ってきた人と仲良くできるかなどが不安でした。その中でも特に学習面が不安でした。家での家庭学習がちゃんとできるか、宿題などの提出物をちゃんと出せるか、授業についていけるか、などいろいろとありました。

しかし、この入校時合宿を終えていろいろなこと気がつくことができたように思います。それは、学習に取り込み、学力を向上させるために、また学習と部活動とを両立させるためには、主体性と自主性が一番大事ということです。中学の時は部活は続いているのに、なぜ、家庭学習など勉強はなかなか続かないのだろうか、と思い悩んでいました。中学

の時は、結局、なぜかは分かりませんでした。しかし、今ならわかるような気がします。中学の時は「学習をしなければならぬ」と考えていました。だから、なかなか続けられず、成績もよくならなかったのだと思います。なので、学習は「しなければならぬ」ものではなく、「したい」というものであって、そう考えるからこそ、やる気になり、学力向上にもつながるのだと思います。

つまり学習は主体的、自主的に取り組まないと身につかないし、長続きもせず、集中できない、そして次へのステップへもつながらないのだと思いました。

授業で習うことを自分のものにしてしまうと積極的に取り組めば、苦痛にもならず、理解も深まり、勉強のおもしろさを感じることができ、さらには学力アップにもつながるということを入校時合宿で気づけたことにより、不安が少なくなったように思います。

3組 福田 智章

この合宿が始まる前、すこし僕は不安でした。ぼくはまだクラスに話す人が少なく、なじめていなかったと思います。

また、授業もついていけるかどうかかわからず、いろんな意味ですこし浮いた存在だったかもしれません。しかし、この合宿を通してぼくはこの不安を一気に拭い去ることができました。クラスみんなが明るく話しかけてくれ、友達もたくさんでき、クラスにもなじむことができました。

また、勉強の方もゼミで苦手教科をしっかり学び、すこしずつ安心して授業を受けられるようになっていきました。このクラスでよかった、まだまだこれから長いですが、一年後にそう言っていることができるように、明るいみんなと一緒に頑張っていきたいと感じた2日間でした。

この2日間では、パーベキューや人権教育、レクリエーションのゲームなど、様々な催しがありました。なかでもパーベキューは、おいしくいただけたとともに、他のクラスの人や班員など色々な人と楽しく交流ができ、とてもよいものだったと感じています。しかし、僕の中で一番印象に残っているのは、人権教育です。ビデオのテーマは、「ハンセン病」ぼくたちにはあまりなじみのない病気で



この合宿によって、僕の高校生活はスタートしました。「初心忘るべからず」今のこの気持ちを大切に、高校3年間で駆け抜けていきたいです。

4組 八田 敦司

僕はこの学習合宿で多くのことを学ぶことができました。1つ目は、やっぱり勉強です。中学校の時とは本当にレベルが違うなと思いました。中学校のやり方のままではだめだと思いました。中学校の時はテスト週間の1週間前からしか勉強していませんでした。でも、高校では毎日朝に小テストがあるので毎日の勉強が必要だと思いました。僕は予習よりも復習を大切にしていきたいと思いました。あとはユメタンです。毎週100単語覚えなといけなので前日だけではだめだと思います。だから、毎日少しずつでも覚えていきたいと思いました。もちろん、定期考査でも点がとれるようにふだんの授業から大切にしていきたいと思っています。部活で時間がない分、みんなと平等にある授業の時間を本当に大切にしていきたいと思っています。2つ目は人間関係です。高校から入ってきた人と話せた方だと自分は思います。春休みに野球部は部活に来ていたのである程度は仲良かったです。あと、初めて同じクラスになった人や今までは苦手だと思っていた人とも話すことが出来ました。これから

高校が始まっていくうえで勉強や部活をがんばりたいと思ってるのもそうですが、人との関わりも深めていって、よりよい関係をお互いに作っていき、良い高校生活のスタートをきりたいと思います。

5組 金嶋 菜摘

私はこの2日間の合宿で5組のみんなと、とても親睦を深めることができました。勉強面では、1日40分、2コマという短い時間でしたが、集中して楽しく受けることができました。この合宿を通して私が学んだことは2つあります。1つ目は集団行動をするうえで、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えながら行動するということです。例えば、パーベキューや食堂での食事で周りの人の分も用意することです。家では自分の分だけよかったけど、合宿では友達のことも考えなくては行けません。2つ目はクラスの団結が深まったことです。班行動やレクレーションを通して、普段話さない友達とも仲よくなれて、友達の外なことや、性格を知ることができました。本当にこの2日間、内容の濃い合宿になってとても満足です。これからもいっぱい行事があると思うので、もっとクラスの団結を深めていきたいです。この合宿で学んだことは、社会に出ても大切なことだと思うので、礼儀や、当たり前のことや当たり前にできるような、これからの学校生活も気をつけて、生活して



いきたいです。5組のみんなとも、学年のみんなとも、もともっと親睦を深めていきたいと思っています。1年間悔いのない高校生活にしたいです。

6組 細川 典子

がなかなか勝ち負けが決まらず3分ほど経ち私が負けました。終わった時にはお互い顔が真っ赤で手汗もすごかったです。がとても楽しかったので自然と笑顔になりました。これからはこの合宿で経験したことを生かして充実した高校生活を送りたいです。



私は学習合宿で得た3つの思い出があります。まず1つ目は1日目の夕食のパーベキューです。広い海や美しい自然の中で食べるご飯はとてもおいしかったです。また、裏返すのを忘れた野菜や肉が黒こげになっていたのも印象的でした。2つ目の思い出は人権学習のハンセン病についてのDVDでした。ハンセン病という病気があり、その症状のせいでひどい差別を受けたことや県内に療養施設があったということはニュースや授業で知っていました。ですが私はまだまだきちんと理解できていなかったと痛感しました。終戦後で食べ物が少ない時代だからといって、あくまでも療養施設にいる患者を働かせたり農作業をさせるなんて信じられなかったし、ろくに治療されていない時期があったなんて知りませんでした。私はこのDVDでの学習を通してハンセン病についてだけでなく、人を人として見る大切さや人としての権利を守ることの重要性を知りました。最後に3つ目の思い出はノルウェーからの留学生であるハンナさんと腕相撲をしたことです。腕相撲は得意な方なのです。



2014 音楽会

私の憧れになった演奏会

中1 金光 琴音

誰もが目を離せなかったのではないかな。ふつうの和太鼓の音が違うものに見える。何かトリックでもあるのかと思いがまじまじと見たが何も無い。感激した。特に印象的だったのが「腹筋太鼓」だった。全身を少し足で支え、あとは腹筋で支える構えなのだが、何といてもレベルが違う。滝沢歌舞伎でも腹筋太鼓をするのを見たことがあるが、やはりレベルの違いが見えた。

観客を圧倒させるまでには様々な苦労があったと思うが、何百回、何千回と練習を積んで、ここまで素晴らしいものを作り上げているのを見て私も習い事での反省点などが見えた。一回一回に心を込めて練習したい。そして、いつかは観客が開いた口がふさがらなくなるようなものになりたい。



夢に向かって

中2 久山 明穂

自分の夢に向かって精一杯努力することとは、とても格好いいと思った。今日の「鼓童」の公演で特にそう思った。

簡単そうに見えて、とても難しいのであろう技の数々。「やりたい」と思ったからこそ努力してそれを身に付けたのだろう。話を聞くと、2年間の研修生活があり、とてもきつそうな内容だった。それでも夢に向かって歩くために、がんばっているのだ。

彼らの太鼓の音は、会場全体に共鳴していた。もしかするとその名の通り、私の鼓動にも共鳴していたのかもしれない。彼らの音の中に吸い込まれていた。それだけ力のある音だった。

私がいちばん魅かれたのは、「屋台囃子」だ。本当に祭りの時のような迫力があつた。また、「伊織」も、広がったり縮んだりしていく音が良かった。

私も彼らのように、自分の夢に向かって努力していきたい。

高まった部活動への意識

中3 白石 理子

今日「鼓童」を見て一番印象に残ったのは、ひとりひとりの動きが全く同じことでもとてもそろっていたところだ。

私が所属している吹奏楽部では曲の間に「スタンド」という動いたり、立ったりする動きがあります。いつもそろっていないかったり間違えたりすることがあるので練習量がやはり足りないんだなと「鼓童」の方々を観て思いました。

それと篠笛の音がとても綺麗で興味を持つことができました。篠笛は日本の横笛といわれていますが、私の吹いているフルートは西洋の横笛なので、形もよく似ているなと思いました。

「鼓童」の方々の笑顔、演奏、動きとすべて部活動に生かせることなので、これからの自分たちの演奏が今までよりもさらに良いものになるようみんなで意識を高めていきたいです。

情熱と感動の「鼓童」

高1 目黒 達之

「鼓童」の方々の力強い太鼓の音を聴いて、大変感動しました。息の合った音、



リズムカルで面白い演技。どれをとっても最高でした。

特に僕は「鼓童」の人たちの努力があの力強く息の合った音を創り出していると感じました。途中のトークでメンバーの方が「僕たちは毎日10kmのランニングや厳しい稽古を乗り越えてここに立っている」と言われてました。僕は納得しました。何でもそうだと思います。やっぱり



り、一流の人になってあのようになんかを楽しませることが出来るのは、努力の証です。だから僕も、「鼓童」を聴いて終わりではなく、彼らのような情熱をもって、一つずつ物事をしっかりとこなしていきたいです。そして、彼らのように自信を持って、好きなことを一生懸命でできるような人になりたいです。



「鼓童」パフォーマンズ

高2 神原 佑奈

今日の芸術鑑賞で「鼓童」を見た。実際に聞いて、太鼓以外にも存外多くの楽器を使用していたので驚いた。また、くくりり太鼓といえども、その大きさはまちまちで、ばちで叩くものや手で叩くものがあった。

太鼓の音は心地良く感じる。花火の音にも言えることなのだが、心臓に響くような音が非常に好ましいと思う。

仏具を楽器として使用していることには、さらに驚かされた。なかなか出来る発想ではないと思うと共に、楽器としてちゃんと成り立っているのだと感じた。鼓童の方々は演奏もさることながら、パフォーマンスにも気を配られている。身体全体を使っている演奏は耳で聞いても目で見ても楽しく、より魅せられると思った。

演奏をされている姿を見ると、鼓童の方々自身、楽しんでいらっしやるのがよく分かる。奏者観客共々、とても素晴らしい時を過ごせたことを喜ばしく思う。



腹に響く轟音に感動

高3 金山 智哉

まず第一に感じたことは、太鼓の会場全体に響く轟音でした。会場が揺れているかのように振動が腹に届き、私は心身ともに震えていました。音の驚きが一段落したときに、私は鼓童の方々の技術に注目しました。動きにメリハリをつけてたとえ叩くのを待っている時にも、全く動かないところが凄いと感じました。また少し視線を横にすると、会場の空席に落ちた影が目に入りました。それは、鼓童の方々の動きをダイナミックに映し出し、楽しませてくれました。

腹に響く轟音は、ときに主役から脇役となり、他の楽器が出す独特の音色に花を添えていました。その繊細な音に私は感心してしまいました。

太鼓や笛などの日本らしい音色は、聞いてみると心を和やかにし、また祭りなどの日本の伝統の雰囲気なども思い出させてくれました。太鼓という楽器で日本の心に触れる機会はあまりないですが、だからこそ、今回のような日本の文化を誇りに思う瞬間は大事だと私は感じました。



迫力に圧倒

高3 山本 翔子

私は「鼓童」を見て、迫力に圧倒されました。和楽器のすばらしさを改めて感じる事ができました。あんなに広い金光教の祭場が一体となっていくのを感じました。また、「鼓童」のみさんの練習量にも驚かされました。2年間の練習を経て選ばれた者が、ステージに立てるといふことを聞くと、その練習があつてこそ素晴らしいステージができるということを感じたし、その練習を経て世界各国でご活躍されているのだと思うと、日本人としてとても誇らしかったです。また、受け継がれてきた和太鼓の素晴らしさを世界の人たちに知ってもらうのはとても嬉しかったです。これからも日本を代表して世界で活躍してほしいし、まだ「鼓童」のことを知らない人たちに和太鼓の素晴らしさを改めて感じてほしいと思います。本当に、私にとって良い思い出になりました。

中学 体育会

1年3組 小池 悠太

ぼくが、体育会で思ったことが4つあります。

1つ目は、先輩が一生懸命優勝を狙っている姿です。ぼくは、体育会で優勝できなくていいやと思っていましたが、3年生は、中学最後の体育会で「優勝したい」という気持ちが伝わってきたので、ぼくも優勝したいと思うようになったので、これが「以心伝心」というのかなと思いました。

2つ目は、開会式と閉会式です。開会式では、行進がそろっていて、とてもすごいなと思いました。しかも、3年生は、手は肩の位置まで上がっていて、足も高く上がっていたので、とてもびっくりしたし感激しました。そして、人が話し出したら、だまって人の目を見て話を聞いていたので、とてもまねできないなと思

いました。ここでやっぱり3年生はすごいなと思いました。

3つ目は、閉会式が終わったあとの掃除をしていて、とても素早く掃除ができたし、とてもきれいにできました。もし、3年生が僕たちに指示を与えていなかったら、ここまできれいにできなかったと思うし、やっぱりここでも3年生はすごいなと思いました。

4つ目は応援合戦です。みんな一生懸



命楽しく踊りができたので、とてもよかったです。これは練習よりもすごく上手にできたので、最高の応援合戦になったと思います。

この体育会で学んだことは、一生懸命に楽しく最後まで頑張ることです。例え負けていても、一生懸命頑張れば楽しくできるということです。3年にとっては最後の体育会だったけど、同じ兄弟学級として楽しくできたし、これからも力を合わせてがんばりたいです。

1年4組 中島 壮太郎

今日、10月4日は金光学園に入って初めての体育会でした。僕はこの体育会に向けて、毎日授業の準備や放課後にある練習を頑張ってきました。家に帰って、1,000メートル走の練習もしました。最初はぜんぜん踊れなかったらじやの踊りも、体育館や運動場で何回も練習して踊れるようになりました。入場門から

する入場行進の練習は皆と息を合わせることでよりよいものができると思ったので、皆に合わせようと頑張りました。

そして、僕が特に頑張ったのは応援合戦の練習です。皆で大きな声を出して、皆で踊るといことで絆が深まる、とてもいい競技だからです。うらじやの踊りより難しかった応援合戦の踊りを一生懸命にしました。団長に笑顔で踊ろうと言

われたので、そのことも気にしながら練習しました。

そして、体育会当日。前日は雨が降っていて、晴れるかとても心配でしたが体育会びよりとなったので嬉しかったです。最初の行進もうまくできました。とてもきちょうしていた1,000メートル走は、最初は最下位でスタートしましたが、自分のペースを保ちながら頑張った結果、1年生の中で1位だったのでとても嬉しかったです。

そして、今まで頑張って練習してきた応援合戦は練習した通りに踊ったり、大きな声をだしたりしたので、とてもいいものだったと思います。皆が見ているなかでするのはとてもきちょうしたけれど大きな達成感が得られました。

だんだんと種目が終わっていき、最後の閉会式になりました。学年順位では4組は2位でとてもよかったです。けれど、この体育会は順位を競い合うのではなく、友情や絆を深める体育会だと思だったので、体育会がおわった時、とても晴れ晴れした気持ちでした。来年の体育会も頑張ろうと思います。



「体育会で学んだこと」

2年3組 西部 鈴花

私は3組のメンバーで体育会が出来て良かった。体育会が始まる前は勝つことと優勝することだけを思っていた。でも体育会を通して私は学んだ。今思うと3組は最下位だったけど楽しかったし嬉しかったし、私は3組で良かったと思っ



ている。3組の先輩、後輩、クラスメート、それに私はこのメンバーでなければここまで来れなかったと思う。もちろん悔しい思いもしたけど、体育会は優勝だけじゃないこと。兄弟学級で力を合わせてがんばること、あきらめないこと、応援、私が一番に感じたのは応援の大切さだった。私が出た種目は400mリレーで走る前すごく緊張していた。でもその緊張をほぐしてくれたのは3組のみんなの応援だった。その時、私はとにかく全力で走ること誓った。結果、1位にはなれなかったけど私は本当に応援は大切だなと思った。

そして不安と緊張でいっぱいだった応援合戦。今回、私は副チアリーダーとして出させてもらった。チアリーダーや団長の先輩を中心にみんなで一生懸命頑張った。途中でバラバラになって気持ちが悪く、本番は今まで一番良い演技ができた。1番嬉しかったのは、チアリーダーの先輩が「今まで本当にありがとう。心強かったよ。」って言ってくれたことが本当にうれしかった。先輩みたいな人になりたいと思った。



大満足。みんなに感謝。

2年5組 光畑 慶亮

体育会が終わって最後に団長やチアリーダーがあいさつを言いに来たとき。この数分間のあいさつの時間で、僕はこの体育会の練習期間のすべての達成感と感動を味わったのだと思う。ほつま祭が終わってすぐ、組体操の練

習が始まり、応援合戦の練習が始まり、毎日が嫌になっていた。でも、自分が嫌だからといってみんなに協力しないのは良くないと思って、家では愚痴を言いたいがらも学校では必死で先輩やみんなに追いついていった。

あつというまに体育会当日がやってきた。自分のでる種目の一つ一つをこなし、行き着く間もなく自分の係仕事をやり、テントにかえると今度は応援で忙しくて、気づくと時間がすごく進んでいる。去年はこんなに短かったかなと思うぐらい時間が早く過ぎていく。そんなバタバタした中でも一生懸命応援したし、組体操も自分で満足できるくらいの出

来だったと思う。

はあー、終わった。閉会式。1位は1組。悔しさのあまり泣いている先輩もいた。でも「応援の部 1位 5組」みんなの流した悔し涙がうれし泣きが変わった瞬間だったと思う。5組のみんなが一番ほしかった賞をと

ることができた。

そして最後に団長、チアリーダー、幹部のあいさつするとき、面白いことをしてみんなを笑わす人、号泣して何を言っているのかわからない人、そんなみんなの姿を見ていると、なんだか胸の奥というか、頭の中が熱く熱くなっていった。涙が出そうになってくるのを必死でこらえた。でも最後のあいさつで泣きそうになるということはすべてを一生懸命やれた証拠かな。また、練習や準備と一緒に頑張った仲間たちにも感謝します。来年は3年生、後輩たちにも僕と同じ感動や達成感を味わわせることができるように頑張らないと！

体育会

3年3組 伊藤 晴香

体育会が終わって、これまでやり遂げた達成感ともう二度と3組の兄弟学級みんな毎日のように応援合戦の練習ができない悲しさでいっぱいです。

私は今年3組のチアリーダーを務めさせていただきました。初めて100人をこえる組織の先頭に立つことで、責任の重さと本当に自分ができるのかという不安が



こみ上げてきました。けれど、クラスメートの女子が

「はるちゃんについていくよー!」
と言ってくれて、その言葉はいつしか自分を励ます、お守りみたいな言葉になりました。

そして、決まってから毎日が体育会の練習でした。体育会当日まであまり日がなく毎日、時間との戦いのように思いました。それで焦りやいらだちもあって、どこかに当たりたい時もありました。しかし、そんな気持ちをリフレッシュしてくれた仲間がいました。だから、私は一歩ずつ前に進むことができたと思います。

応援合戦の練習では、後輩を指導するときに言えばわかってくれるか、と思っていました。そして、今まで中1、中2の時の先輩もこんなに分かりやすく、かつこんなに苦勞して指導していただいたんだなと思いました。そして、人数が多い分、そう簡単には言うことを素直に聞いてくれない子もいて、方向性が合わなくなることもありました。そこで団の思いを伝え、絶対に優勝したいという気持ちを受け取ってもらい、そこから



5組が大好き

3年5組 宮崎 有沙

「ありさ先輩、次がんばってくださいー!」
「がんばってくださいねー! 宮崎さん!」
「ありさ、がんばれ!」

皆が応援してくれたから、競技は絶対一番がよかった。しかし、結果は一番ではなかった。だから、悔し涙は多かったが、それより多かったのは、うれし涙だった。それとさみしいと思う涙もあった。その涙の理由は、おもに応援合戦だった。うれし涙の大きな理由は、応援の部で優勝できたことだ。中3の誰もが思っていただろうけれど、中学最後の体育会だから絶対優勝しなかった。その夢が叶っ

どんどん3組は一つになっていきまし
た。それを感じられた時、とても幸せな
気持ちになりました。本番では、練習で
よく失敗していた所を決めてくれたり、
今まで言ってきたことを出し切ってくれ
たり、ということをやちゃんとしてくれま
した。最後の「ありがとうございました」
のセリフでは観衆だけでなく3組に対す
る感謝の気持ちがあふれました。

閉会式の結果発表、3組はひとつも賞
が取れませんでした。特に応援合戦の部
で取れなかったのが悔しかったです。な
ぜ応援合戦で順位を決めないといけない
のか、頑張っても恵まれることはないの



か、という気持ちで悔しさがこみ上げ涙
があふれました。本当に悔しかったです。
けれど、
「ほんとにがんばったよ!」
と言ってくれる友達がいまいました。その頑
張りを感じ、分かってくれた友達がい
てくれることをとても幸せに感じました。
今、体育会が終わって思うことは、感
謝です。素直に私たちについて来てくれ
た3組、適切なアドバイスをくれた先生
方、私の頑張りをわかってくれた友達た
ち。多くの人に私は支えられていたんだ
なと感じられた体育会でした。

てうれしかった。よくよく考えると、私
は中1、中2の時も応援の部で優勝して
いて、3年間同じクラスの人もいないの
で、3年連続応援の部で優勝という貴重
な経験を得ることができた。応援合戦は、
練習から本番まで、全てがとっても楽し
かった。それは5組の皆だったからだ。
2年5組の皆を初めて見た時、とても大
人しそうだなと思った。しかし、練習が
始まってから、話しかけてくれたり、目
が合ったらニコツとしてくれたり、挨拶
してくれたり、とてもフレンドリーで
親しみやすかった。体育会中も声かけに
来てくれてかわいかったし、本当にうれ
しかった。よい後輩をもったと思えた。

3年5組の皆は一緒にいて居心地がよ
い。優しくて、面白くて、テンションが
高く、仲がいい。そんな皆だったから
5組は優勝できたんだと思う。5組は兄
弟学級の仲の良さも1位だなどと思った。
練習の間の休憩も2年生と3年生でワイ
ワイしたり、ダンスも一緒に確認したり
していた。その仲の良さも演技に出てい
たのかなと思った。

さみしいと思う涙は、これまでのこと
をひっくり返して思うことだ。もうこのよ

うに一緒に演技することがないんだと思
うと、涙があふれ出てきた。そして、こ
のように応援合戦自体することがなくな
るんだと思った。けれど、先輩と話すこ
とはまだまだできるから、これからも仲
良くしたいと思った。

いろいろな涙があったが、すべてが良
い思い出になった。中学最後の体育会が
こんな風に終えられて、最高だと思っ
た。何より一緒に戦った5組の皆に出会
えてよかった。本当に離れたくない、家
族みたいな存在。そんなキズナをこれか
らもつないでいきたい。



ほつま祭



協力

中1 5組 原田 将樹

「本当にほつま祭が成功するのかなあ」と初め思いました。理由は、違うクラスは模造紙とかを使うのに、僕たちは模造紙を使わずに、ペットボトルだけで巨大な物が出来るのか不安だったからです。

2学期が始まって少しずつ作っていたけど、壊したりする人がいて大変でした。僕はすぐに出来るだろうと思ったけど、遊んだりさぼったりする人がいたのでなかなか進みませんでした。2日前にはトンネルができたけど、学校に来た時に崩れていたのでも悲しくてもうほつま祭が成功しないと思いました。帰っている時に友達が「あと2日間あるから絶対にトンネルを完成させよう」と言って、ぼくはまだあきらめちゃいけないと思いましたが、みんなで協力してやったら2日間で出来てとても嬉しかったです。もうだめだと思ったけど協力したらすぐにできる事が分かりました。そして当日、全部完成してよかったです。見に来てくれた人が「すごいね」と言ってくれた時はみんなで協力したか良かったなと思いました。他のクラスを見たら、色々と



工夫がしてあつてすごいと思いました。

僕はこのほつま祭でたくさんのお話を学びました。1つ目はあきらめないことです。作ったものが壊れてもそこであきらめ

ず最後まですると何でもできるし、やっつけてよかったと思えるからです。2つ目は協力です。大きなものを作るのに一人だけじゃできないから友達と協力するとすぐにできることが分かりました。あと本番前に壊れたけどみんなと協力したらすぐに直ったから、体育会でもみんなと協力して悔いのない体育会にしたいです。これからたくさん行事があるから、みんなと協力していい思い出が出来るようにしたいです。高3までの間、たくさんの人達と協力して最高の学園生活を送りたいと思います。

一人ひとりの努力

中2 4組 細川 未希

今年のほつま祭では、去年よりも役割が多く、とても忙しかった。しかし、とてもやりがいのあるほつま祭だったように思う。

クラスの展示の準備をしている時、どのクラスよりも遅れていると聞いて、最初は間に合わないかも知れないという不安と焦りでいっぱいだったけど、最終的には本番直前までに全て準備を終えることができたので、クラスの絆が感じられ

た。

ほつま祭の本番、私が見て回った他のクラスの展示はどれもすごかったのですが、どのクラスも同じように全員で創り上げたからこそできたものなのだと思います。

そして、閉会式で、中学展示の部で3位に選ばれたのを知った時、本当に嬉しかった。今まで放課後に少しずつでも頑張った成果が現れたからだ。一人ひとりが頑張って、大きなものを作っていくのはとても大変だからこそ、素晴らしいものになるのだと気づいた。

嬉しい気持ち共有した

高1 3組 赤澤 茉祐

2日間のほつま祭が終わりました。この2日間のための準備期間も含め、ほつま祭は長いようで短く、あっという間でした。本当に楽しくていい思い出になった行事でした。3組は展示「Disney's Magic・デイズニーの魔法にかかるとき」をしました。私はこの展示をして本当に良かったと思います。

理由は2つあります。1つ目は、デイズニーの展示は老若男女問わず多くの人が楽しめることです。デイズニーのキャラクターは人気なので、誰が来ても楽しむことができるからです。興味を持って来てくれた人も多かったと思います。

2つ目は、来た人を笑顔にできること



高3人権講演
岡山盲学校 竹内 昌彦先生
「私の歩んだ道」を聞いて



人生楽しくいこう

4組 浅井 光

私は、まず今回の講演を聞いて、人生楽しくいこうと思いました。竹内先生も言っておられたように、周りの人のことを考えず自ら死を選んだ人に腹が立ちました。是非、色々な人に障害を持つ人の話を聞いてみて欲しいと思いました。

より多くの人の人生が変わると思うからです。また、自分の人生を見つめ直す

ことが出来るからです。何の障害も持たず健康な私は、元気に産んでくれて育ててくれた親に感謝したいです。そして、私自身も人の役に立つことをして、感謝されながら楽しく生きていこうと思いましたが。

当たり前に思える事の有り難さ

3組 堀 雄太

今回の話を聞いて自分が今まで当たり前のように不自由のない生活を送れていること、そしてそう感じさせてくれている親に感謝している。

その中でこれまで自分が簡単に諦めてしまったことについても一度考えなければいけないと感じた。この気持ちや考え方は人として絶対忘れてはいけないことだと思う。

私は元気に生きている

3組 宮口 真衣

竹内先生の話を聞いて、凄く負けん気が強くて、プラス思考でカッコいいなあと思いました。消火器をぶちまけた話は、胸がすく思いがしました。どんな困難にぶつかっても、その時やれる精一杯のこ

とをやりとげる竹内先生のような人になりたいと思いました。

今健康で元気に通学して、生きていられることが、当たり前ではないということとを、この先ずっと忘れないようにし、親や先生や出会う人達を大切に生きていきたいと思えます。

人の役に立つために勉強する

1組 田邊 恭子

竹内先生の講演を受験の年に聞けて、本当に良かったと思います。なぜ勉強するのか？自分のためだけにするのはなく、人の役に立つためにすることで、めぐりめぐってより良い自分を作り上げていくことにつながるということがわかりました。

とにかく今は、将来人の役に立てる人間になるために、精一杯やり切ろうと思います。思うようにいかなくても、全力で取り組むことで、物事の光の部分を見つければ、その経験をまた他の人に伝えていくことが出来たら良いなと思います。生活面でも、困っている人を助けること、少しでも力になるうとすること、考えるだけでなく行動で示したいと思えます。

親の想いを知った

7組 水船 大悟

今回の竹内先生の話を聞いてから心のゆとりを持つことが大切だと感じました。また、目が不自由な人をサポートするときの方法を聞くとなるほどと思えました。竹内先生はとても辛いことをたくさん経験され、それを乗り越えてきておられるので、諦めずに頑張ることが大切だと思いました。また、話を聞くと自分の両親が今までどんな思いで自分を育ててくれたのかを感じる事が出来ました。今回の講演は、自分にとって本当にためになりました。

自分にできることを実践したい

5組 出原 裕記

自分の命は自分だけのものではないということがよく分かりました。両親や祖父母にも感謝することが大切だと思いました。生きたくても生きられない人が死んでいき、生きられるはずの人が自ら命を絶っていく。これはおかしな話だと思えました。自分も障害を持つ人のためにできる事があれば率先して行動し、役に立ちたいと思う。

人に幸せを分けられる人間に

2組 嶋村 達也

話を聞いて自分はどれだけ現状に甘えているのだろうと思った。親のおかげで、今は何不自由なく暮らしている環境があるのに、その中で自分は何ができていないのだろうと深く反省させられた。今日の講演をきっかけにして、何か小さなことでもいいから、一つ一つ自分を変えていきたい。今日の講演を自分の幸せばかりを考えるのではなく、人に幸せを分け与えられる人間になるためのきっかけにしたい。

自分一人の命に非ず

7組 田頭 雅也

今日の竹内先生の人権講演を聞いて感じたことは、自分の命は自分だけの命だと思わないということです。両親が大切に育ててくれたので、自分だけの命だと思わず、両親や家族に感謝して生きていきたいです。そのためには、勉強して自分を犠牲にしてまでも周りの人を助ける「立派な人」になりたいと思いました。今日の講演はそのことを気付かせてくれました。

表紙の言葉

中1 末吉 里奈

私がこの俳句を詠んで頭に浮かんだのは、秋を告げる柿と山に沈むオレンジの夕日を見ながら柿を食べる画でした。少し肌寒く柿の木の間葉がほとんど落ち、しんみりした霧囲いで、もうすぐ冬がくるんだなあと思いました。葉脈を彫るのが少し難しかったですが、立派な柿の木を彫ることができて良かったです。もうすぐ冬ですが、寒さに負けず、部活や勉強を頑張っていきたいです。

地区会報告

地区会へ多くの方にご参加いただき有難うございました。また、学園教育に対して多くのご意見・ご質問など有難うございました。その一部ですがご報告させていただきます。

【学習面】

- ・周りの生徒の成績が良いので、よい具合に勉強する方向へ引っ張られている。
- ・部活動と勉強の両立は大変だが、授業は頑張っ受けている。
- ・なかだるみになっていかなと思うので、もっとお尻をたたいて欲しい。
- ・中学の時、三者面談で通知表を渡され、あまりにもひどい結果に悔し泣き。それをきっかけに少しずつスイッチが入っていったように思う。
- ・学園に入学して一番良かったことは英語が話せるようになったこと。中1で英語キャンプ、中3でイギリス研修、

学園に来ている留学生との交流など、いろいろな機会を通じて経験を積み重ねてもらった。

- ・高2になって、やっと勉強しなければと思った様子。先生に質問をしに行くことが好きなので、テストの成績にも現れてきた。
- ・やる気をもって勉強をやり始めたが結果がでない。時間が足りないので工夫が必要。
- ・居残りや再提出など先生がフォローしてくれて助かっている。
- ・家庭学習をやっていない。いつ勉強しているのか不安。
- ・部活動を引退して気持ちが切れたが、

【生活面】

徐々に将来のことに目が向けられるようになった。

- ・中1の時には早起きがきつかったが、きちんとサイクルができて安定してきた。
- ・昨今の今頃は塾通いに忙しくしていた。同じ小学校からの入学者がいないので親子共々不安だったが、今は学校での出来事を毎日話してくれ、親もそれが楽しみ。

- ・携帯電話・スマートフォンを使いたい放題で、ライン・メール・ゲームをずっとしていている。寝る時まで手放さない状態で困っている。
- ・スマートフォンを代表に、インターネット関係の誘惑で子供たちは大変。オンラインゲームをやるとうと誘われたら断れないので困っている。
- ・反抗期を抜けて家でも会話が增えたが、もっと学校の情報が欲しいので地区会は貴重な機会になっている。

平成26年度 やつなみ保護者会 地区会

No.	地区	日時	会場	出席教員
1	岡山以东	7/12(土) 14:30～	岡山県生涯教育センター	内村 吉森 久野 岡崎
2	倉敷第1	7/12(土) 18:30～20:30	ライフパーク倉敷	内田 妹尾 亀田 榎平
3	倉敷第2	7/12(土) 14:00～16:00	倉敷市民会館第4会議室	岡部男 天野 久保田 土井
4	倉敷第3	7/19(土) 14:00～	倉敷市民会館第4会議室	垣内 守分 吉永 小林
5	玉島東	7/13(日) 10:00～12:00	玉島市民交流センター第1会議室	宰相裕 平田 佐藤徑 久繁
6	玉島西 黒崎	7/13(日) 10:00～	玉島市民交流センター	岡辺子 原田 道廣
7	富田 長尾 船穂 真備	7/12(土) 19:00～21:00	玉島市民交流センター第3会議室	服部 平川
8	竹 八重 占見 占見新田 地頭下	7/12(土) 13:30～15:30	ほつま記念ホール(中ホール)	小野 有馬 鳥越
9	大 谷	7/9(水) 19:00～21:00	大谷消防機庫 2 F	山下真 鈴木
10	須恵 佐方	6/28(土) 19:00～	佐方コミュニティーハウス	定金 園田
11	鴨 方	7/9(水) 19:00～	浅口市中央公民館2F大講義室	山本澄 水岡 亀山
12	六条院	7/11(金) 19:00～	浅口市中央公民館第3和室	山下幸 水野
13	寄 島	7/23(水) 19:00～	浅口市ふれあい交流館(交流サロン)	藤原 高司
14	里 庄	7/5(土) 17:00～18:45	里庄町立図書館2階会議室	宰相夕 堤 友田
15	笠岡東	7/19(土) 19:00～	笠岡市民会館第3会議室	田中誠 田中鈴
16	笠岡西	7/11(金) 19:00～	笠岡中央ふれあい会館 集会室	平岡 高田
17	笠岡北	7/7(月) 19:00～	北川公民館	長谷川 森下 平賀
18	井 原	7/5(土) 18:30～	アクティブライフ井原 5F多目的学習室	森谷 中村 石井
19	福山第1	7/18(金) 19:00～	福山市生涯学習プラザ(ローズコム内)	坂口 籠崎 村山
20	福山第2	7/12(土) 19:00～	福山市市民参画センター 5階会議室	谷野 塚田 細川 瀬戸
21	福山第3	7/19(土) 19:00～21:00	福山市人権交流センター	藤井 石田 土谷
22	福山第4 A	7/6(日) 10:00～	緑丘公民館	岡田 佐藤洋 瀧澤 佐伯
23	福山第4 B	7/13(日) 10:00～	伊勢丘クラブ	西山龍 小橋 成田
24	福山第5	7/13(日) 14:00～	福山北部市民センター(第1学習室)	安田 松田 角南
25	松 永	7/6(日) 14:00～	松永公民館第1会議室	山路 戸田
26	尾道・三原以西	7/19(土) 19:00～	テアトロ・シェルネ	中島 大西
27	止 宿	アンケートにより個別に相談	個別に相談	新谷 高司 井上

平成25年度 収支決算

金光学園やつなみ保護者会

I. 一般会計

収入の部 (単位: 円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 会費	5,900,400	5,901,150	△ 750	月額 P@ 350、T@ 400
2 繰越金	2,130,681	2,130,681	0	
3 寄付金	20,000	20,000	0	大祭直会
4 雑収入	150,000	144,325	5,675	預金利息、やつなみ増刷補助、笠岡補導センター補助他
合計	8,201,081	8,196,156	4,925	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 指導部費	605,000	552,263	52,737	
A 地区会費	400,000	349,263	50,737	27 地区
B 生活指導費	5,000	3,000	2,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	0	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,545,000	3,545,740	△ 740	
A 機関誌費	2,800,000	2,799,850	150	やつなみ 236 号～ 238 号
B 教養費	745,000	745,890	△ 890	
(1) 研修費	400,000	406,050	△ 6,050	総会講演・研修旅行、他
(2) 教養費	255,000	249,840	5,160	教養シリーズ
(3) 講習会費	90,000	90,000	0	やつなみサークル補助
3 庶務部費	2,371,950	1,838,358	533,592	
A 負担金	450,000	397,550	52,450	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	271,950	271,950	0	学園名簿
C 慶弔費	500,000	335,000	165,000	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	250,000	170,051	79,949	総会、評議員会、役員会
E 旅費	150,000	80,340	69,660	私中高 P 連総会、大祭湯茶接待、他
F 事務費	150,000	85,263	64,737	諸消耗品代等
G 特別委員会費	500,000	433,297	66,703	全国・中国地区私中高父母の会等
H 雑費	100,000	64,907	35,093	文化祭プログラム、ポスター、他
4 予備費	1,679,131	0	1,679,131	
合計	8,201,081	5,936,361	2,264,720	

1. 一般会計

収入総額	8,196,156
支出総額	5,936,361
差引剰余金	2,259,795 円

◎剰余金処分 一般会計剰余金 2,259,795 円は、次年度一般会計に繰り越す。

平成25年度決算の概要

学校法人金光学園

平成25年度の決算が、5月23日に開かれた法人評議員会ならびに理事会で承認されました。
 学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財産状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4号に定められた規則に基づき作成したものが、以下の「財務三表」です。

資金収支計算書

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金収入	572,678	人件費支出	857,929
手数料収入	6,051	教育研究経費支出	92,757
寄付金収入	60,317	管理経費支出	34,092
補助金収入	357,449	借入金等利息支出	1,593
資産運用収入	5,441	借入金等返済支出	79,590
事業収入	1,790	施設関係支出	134,192
雑収入	44,430	設備関係支出	13,800
借入金等収入	280,000	資産運用支出	157,500
前受金収入	49,030	その他の支出	51,788
その他の収入	94,797	資金支出調整勘定	△ 4,568
資金収入調整勘定	△ 54,859	次年度繰越支払資金	60,688
前年度繰越支払資金	62,237		
収入の部合計	1,479,361	支出の部合計	1,479,361

消費収支計算書

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金	572,678	人件費	872,629
手数料	6,051	教育研究経費	147,575
寄付金	60,469	管理経費	35,934
補助金	357,449	借入金等利息	1,593
資産運用収入	5,441	資産処分差額	3,546
事業収入	1,790		
雑収入	44,430	消費支出の部合計	1,061,277
帰属収入合計	1,048,308	当年度消費支出超過額	△ 38,181
基本金組入額合計	△ 25,212	前年度繰越消費支出超過額	△ 1,571,862
消費収入の部合計	1,023,096	翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,610,043

貸借対照表

平成26年3月31日

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	1,851,789	固定負債	344,429
有形固定資産	1,578,709	流動負債	125,923
その他の固定資産	273,080	負債の部合計	470,352
流動資産	109,255	基本金の部合計	3,100,735
資産の部合計	1,961,044	消費収支差額の部	
		科目	本年度末
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,610,043
		消費収支差額の部合計	△ 1,610,043
		科目	本年度末
		負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	1,961,044

平成26年度 予算

金光学園やつなみ保護者会

I. 一般会計

収入の部 (単位:円)

科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
1 会費	5,095,200	5,900,400	5,901,150	月額 P@ 300、T@ 400
2 繰越金	2,259,795	2,130,681	2,130,681	
3 寄付金	20,000	20,000	20,000	大祭直会
4 雑収入	140,000	150,000	144,325	預金利息、やつなみ増刷補助、笠岡補導センター補助他
合計	7,514,995	8,201,081	8,196,156	

支出の部

科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
1 指導部費	605,000	605,000	552,263	
A 地区会費	400,000	400,000	349,263	27 地区
B 生活指導費	5,000	5,000	3,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	200,000	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,805,000	3,545,000	3,545,740	
A 機関誌費	2,800,000	2,800,000	2,799,850	やつなみ 239 号～241 号
B 教養費	1,005,000	745,000	745,890	
(1) 研修費	660,000	400,000	406,050	PTA 総会講演・研修旅行、他
(2) 教養費	255,000	255,000	249,840	教養シズ
(3) 講習会費	90,000	90,000	90,000	やつなみキック補助
科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
3 庶務部費	2,449,720	2,371,950	1,838,358	
A 負担金	450,000	450,000	397,550	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	279,720	271,950	271,950	学園名簿
C 慶弔費	500,000	500,000	335,000	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	220,000	250,000	170,051	総会、評議員会、役員会、食堂試食
E 旅費	150,000	150,000	80,340	私中高P連総会、他
F 事務費	150,000	150,000	85,263	諸消耗品代等
G 特別委員会費	600,000	500,000	433,297	全国・中国地区私中高父母の会等
H 雑費	100,000	100,000	64,907	文化祭プログラム・ポスター、他
4 予備費	655,275	1,679,131	0	
合計	7,514,995	8,201,081	5,936,361	

II. 特別会計

収入の部 (単位:円)

科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
1 特別会費	10,567,200	9,906,000	9,896,250	月額 @ 700
2 繰越金	526,480	2,107,774	2,107,774	
合計	11,093,680	12,013,774	12,004,024	

支出の部

科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
1 教育後援費	11,093,680	12,013,774	11,477,544	健康センター掛金、事業積立会計への積立、生徒用PC-機、生徒会派遣費補助等

III. 事業積立会計

収入の部 (単位:円)

科目	H26 予算額	H25 予算額	H25 決算額	摘要
1 積立金	5,000,000	4,000,000	5,000,000	事業積立会計への積立(特別会計より)
2 繰越金	12,000,000	7,000,000	7,000,000	
合計	17,000,000	11,000,000	12,000,000	

II. 特別会計

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 特別会費	9,906,000	9,896,250	9,750	月額 P@ 650
2 繰越金	2,107,774	2,107,774	0	
3 雑収入	0	0	0	
合計	12,013,774	12,004,024	9,750	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 教育後援費	12,013,774	11,477,544	536,230	健康センター掛金、事業積立会計への積立、生徒用PC-機、生徒会派遣費補助等

《教育後援費の内訳》

※日本スポーツ振興センター共済掛金	1,270,970	円
※高校図書室コピー機リース料	11,970	円
※補習手当補助	156,000	円
※中学野球全国大会出場寄付金	200,000	円
※竹内昌彦映画化実行委員会へ寄付	31,549	円
※私学ボランティア基金会費	13,640	円
※私学ボランティア基金特別会費	10,000	円
※高P連賠償責任補償制度加入掛金	380,400	円
※メールアドレス利用料(H26年度分)	132,300	円
※生徒会派遣費補助	4,270,715	円
※事業積立会計への積立	5,000,000	円
	11,477,544	円

◎ 剰余金処分 特別会計剰余金 526,480 円は、次年度特別会計に繰り越す。

III. 事業積立会計

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 積立金	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	事業積立会計への積立(特別会計より)
2 繰越金	7,000,000	7,000,000	0	
合計	11,000,000	12,000,000	△ 1,000,000	

◎ 剰余金処分

事業積立会計剰余金 12,000,000円は、次年度事業積立会計に繰り越す。

ある日のホームルーム



中学1年3組



今回は9月5日(金)の6限に中学1年3組がほつま祭に向けて取り組んでいる様子を紹介します。金光学園に入学し、真新しい制服に身を包み、これから始まる学園生活に目をキラキラ輝かせながら1学期がスタートしました。普段の授業や行事、部活動を通し次第に学校生活にも慣れ、学園生としての自覚が芽生えてきました。夏休みが終わって、初めてのほつま祭を目の前に、どんな文化祭になるのだろうかという期待と、自分たちで展示を完成させることができるのかという不安との両方の想いを胸にほつま祭の活動に取り組んでいました。

1年3組は『傘』について展示をすることにしました。この日は折り紙で飾り用の傘を作る予定でした。事前に、クラスの活動を中心となって引っ張って



る実行委員に有志のメンバーを加え、どのように説明すればみんなが上手に折り紙で傘を作ることができるかを考え、作り方を教えることができるようにみんなで作り方を確認しました。少し複雑な形や作り方に苦戦し、初めは「どうなっているのか分からん」という声が飛び交う中で作業を始めました。作り方が分かった生徒が他の生徒に教え、みんなで行錯誤しながら作り方を考えていきまし

た。次第に実行委員や有志のメンバーである自分たちが、班の他の生徒に教えて、作業をリードしていくんだというリーダーとしての自覚を持ち始めたように感じました。自分たちが口頭で教えるだけではなく、作り方も生徒が書き、それを見ながら作業ができるように準備して当日を待ちました。

9月5日のHRの時間がやってきました。おりがみの傘を見せると「自分たちに作ることができるのだろうか。」という不安な表情が生徒たちの顔に見うけられました。実行委員や有志メンバーが班員にお手本を作って見せながら、作り方を説明している姿は、先生になったようにいきいきと教えていました。初めのほうは、「絶対にこんな作れんわ〜」誰か代わりに作って〜と言ったような声があちこちから聞こえてきましたが、お互いに助け合いながら、次第に作業も進み、必死に作る姿が印象的でした。「そうじゃないよ、こうやるんだよ。」「ここはこうしたらもっときれいにみえるよ。」と、各班にいる実行委員や有志メンバーがアドバイスをしながら、作っていきま

きは、「できた!」という嬉しそうな声。手には個性あふれる傘が握られていました。それまでは、ほつま祭がどのようなのか、自分たちの展示がどのようなのか、実感が湧いていなかった生徒も、実行委員や有志のメンバーがクラスをリードし、自分たちの展示を成功させようと積極的に動いているのを見て、ほつま祭を自分たちの手で作り上げるんだという気持ちを持ち始めたように感じま

す。クラスの活動をリードしてくれた生徒は、初めは他の生徒に教えたり、自分たちで活動をリードしていくことに難しさを感じながらも、この時間を通して成長し、自信につながったように感じます。ほつま祭の活動を通して協力し、みんなの一つのものを作り上げる難しさと、その後の達成感を味わい、大きく成長しました。様々な経験をし、1年3組がクラスとしての絆を深め、その中で一人ひとりが輝いていくことを期待しています。



生徒入賞作品

▼第60回青少年読書感想文岡山県コンクール
課題図書 佳作

『生きること(こころ)』

高1 6組 細川 典子

この夏、この一冊との出会いによって、わたしは改めて生きるということについて考えさせられた。わたしは今まで十六年間「生きること」に対して別にこれといった特別な感情を抱いたことはなかった。そしてそれ故に「死ぬかと思った」「死にそう」などという言葉を簡単に口にしてきた。夏休み終盤で宿題に追われる夜、「もう死ぬ」と何度口にしてきただろう。だがこの作品は私にとって、それまでためらいなく発してきたその言葉の数々と向き合うための架け橋となってくれた。

この作品のテーマであるユダヤ人の大虐殺について、私にはあすかと同じ程度の知識しかなかった。小学校の図書館に置いてあったアンネ・フランクの学習漫画で知ったことくらいのものだ。その時以降、ユダヤ人の大虐殺について考える

ことはなかった。アンネの日記が破られる事件があった時も、あまり深く考えはしなかった。だからこそこの作品を読み、自分の認識の甘さを痛いほど感じた。そして私と同じ人間にこんなにもむごたらしい行為ができることに衝撃を受けた。

しかしそんな残酷な行為をしたナチスの人の中にも辛い気持ちを抱える人々がいたことに私は驚いた。この作品を読み始めた時の私は、ハンナ達を被害者、ナチスの人々を加害者と考えていた。そして加害者だと決めつけたナチスの人々は殺人を平気でできる悪者だとばかり思っていた。だが、彼らも人間らしい心を持っており、それをハンナは身を以て体験していた。ならばなぜ、彼らは人を殺せるのだろうか。不思議に思った私が母にそのことを話すと、母はこう言った。「逆らえば殺されるかもしれないからでしょ」と。当時、ナチスに反抗してユダヤ人を匿う人もいたらしい。だがそれが分かると強制収容所に連行され、殺され

る場合すらあったらしい。その話を聞くとナチスの側についた人々を悪者として責める気持ちにはどうしてもなれなくなっていた。ハンナ達に非はあるはずもないが、ナチス側の人々が全て等しく全面的に悪人だという単純な判断は間違っている。彼らもまた困難な時代の中で自らの命を守ること、生きることに必死だったのではないのか。

さて、今の私は、この作品の中に出てきた人々のように真剣に生きているだろうか。いや、そんなことはないと思う。私が戦争や命について真面目に考える時と言えば、原爆が投下された日や終戦記念日にテレビの特別番組を見る時くらいのものだ。そして戦争は恐ろしいものだと漠然と感じるものの、「生きること」という面から考えるなどということは私の頭には浮かばなかった。今、確かに私は「命は大切だ」と言える。しかし実際には、身近な人の死に直面したこともない。本当に命の大切さや生きることの素晴らしさについて理解しているとは言えない。結局のところ私はこの作品を読んでも何も分かっていないのかもしれない。

ではないか。多くの視点から物事を見つめることよって、少しでも人々の中に歴史についてきちんと見つけてくれる人が増える事を期待したい。そしてこれが実現すれば、ユダヤ人の大虐殺のような悲劇的な出来事も、世界各地で起こる紛争や戦争もなくなっていくだろう。

反面教師という言葉がある。人間が過去をおかした過去は変えられないが、その過去から学び、未来へ伝えていくべき事がわたし達にはたくさんある。来年は太平洋戦争が終結してから七十年になる。今こそ私たちは知るべきだ。私たちが今生きていくという事は自由のない時代の多くの人々の犠牲の上に成り立っていることを。そして過去から何を学ぶべきかを考えるべきだ。私は、夢の実現を目指しながらこの一歩を踏み出すつもりだ。

▼第60回青少年読書感想文岡山県コンクール
自由図書 佳作

「なんにもないけどやってみた」

を読んだ

高2 岡本 紗枝

は、大きく息を吸った。情景を思い浮かべながら読み進めていく訳だが、胸が痛くなる程すさまじい現実を、突き付けられている様だった。あまりに壮絶な内容に、フィクションではないのだろうか、そうであってほしいとさえ思った。

さやかさんは、ファッションビルにあるお店で働いていた。外見重視の仕事に没頭し、物事の考え方も、自己中心的になっていったようだ。私からすると、派手な外見や生活ではあるが、求められる事に全力で努力し、結果を出せているさやかさんは、すごいなあとも思えた。

しかし、さやかさんは幼い頃からの大切な親友の死を通し、自分の生き方と改めて向き合う。そして旅に出る。

旅先で訪れたアフリカ大陸。アフリカと言えば、自然豊かで、野生動物などが目に浮かぶ。しかし、もし生活するとなると、内戦や紛争が今だに起こっていること、死に直結するような感染症が多発していることなど、命の危険を感じてしまう。そんなイメージがある。

さやかさんは、アフリカの医療施設でボランティアを始める。そこで出会う人達の症状は、本当に悲惨なものだった。

しかしこの作品を読んで、ただ一つ私が変わったことがある。生きる事への興味がわいてきたのだ。恥ずかしい話だが、私は今まで特に生きる目的も持たず、夢といえるものもなかった。作品中のあすかには、自分のやってみようというだけ私よりましだ。私は高校生にもなると、中学生にも劣る、生きる目的を持たない人間だった。けれどもこの作品を読んで私には夢と言えるものができた。それは将来、ジャーナリストになることだ。世界には私の知らないことが山ほどある。知っているつもりでも見えていないこともたくさんある。私はそれらを一つでも多く知り、真実を見極めたい。そして私の目に映った様々な出来事を客観的に、また公平な態度で発信していきたいと考えるようになった。

私はこの作品から、命の大切さだけではなく、歴史のとらえ方というものも学んだように思う。歴史から目を背けず、一方からの見方だけでなく複数の視点から捉え直すこと、更に、自分の捉えた「真実」について発信し多くの人と意見を交わすことの必要性を知った。ナチス側につく人々の内面などは、今まで語られにくかったもの

HIVや奇病ガンの末期の人達。まさに最期に近い人達であった。医療施設と言えども、劣悪な衛生面。慢性的な人手不足、食糧不足、夜間の警備の不備など、とても過酷な状況であった。私なら、間違ひなく逃げ出してしまおう。治療できることも限られている中で、さやかさんが患者さんをお願い、寄り添いながら支え続けている姿に、心が震えた。

さやかさんが、伝えていくことの中で、胸を打たれるものが、いくつもあった。施設に来て、苦しんで苦しんで一生を終える患者さんに、「病気の苦しみから完全に救ってあげることが出来なくても、孤独からは救ってあげたい。」という思い。患者さんの中には、幼い頃から自分の体を売り、それで得た収入で生活をしてきた女性が、たくさんいた。そしてその事が原因で、HIVに感染し、ポロポロになって死んで行く。耐え難い痛み、苦しみと闘いながら、自分の命を捧げてまで支えていた家族と、会うことも出来ずに一人でこの世を去っていく。例えようもない絶望感と孤独ではないだろうか。

そんな患者さんに、愛情を注ぎ続ける

さやかさん。例えわずかしか生きられないと分かっているでも、丁寧に手当てをし向き合い支えていた。心を固く閉ざさざるを得ない患者さんにも、さやかさんの優しさは伝わった。そして、少しずつ心を開いていった。いつしか過酷な状況の中にいる患者さんでさえ、さやかさんのことを、反対に氣遣ってくれる人もたくさん現れた。さやかさんも、心から嬉しかったことだろう。

さやかさんにも、肉体的、精神的に限界はもろろある。罪悪感にさいなまれることもあったようだ。全てのことに対して、支援しきれぬことは、不可能だろう。だからといって諦めることをせず、少しずつでも山積みの問題を解決する方向へ突き進んで行くさやかさんは、やはり素晴らしい。現実を多くの人に伝え、助けを求めることも、とても大切なことだと思ふ。

今回この本を読んで、今の自分の置かれている環境と、初めのうちは考えて比べてしまった。しかし、途中からは、そんなことを思うことすらひどいことのように思えてならなかった。ただただ生まれて来た国や場所が違うだけで、こま

で大きな試練を背負わなくてはならない人達がいるのだ。生きること、その為だけに、たくさん犠牲、恐怖、苦しみを抱え日々暮らしていくのだ。それは、想像を絶する日々だろう。年月をかけて築かれた習慣や、人間性、宗教的なことなど過った方向へ向かっているものを軌道修正することは、大変なエネルギーがいるだろう。しかし同じ人間として、先進国にたまたま生まれ来て来た以上、あらゆる手段を駆使して、助けの手を、差し伸べるべきだ。

さやかさんが伝えていた「貧しいがゆえに、飢えに苦しんだり、病気になるたり、死を待つしかすがなく、生きていく上で、選択権を持ってない。」という人達がいるということ。今、この時もその厳しい現実と向き合い懸命に生き続ける人達がいるということ。さやかさんが、命掛けて発信してくれているこの現実を私達は、しっかりと受けとめ、何が出来るかを考え、行動を起こさなくてはならない。

当たり前のように生きられる私達。それがどんなに貴重でかけがえのないことなのか、深く胸に刻みたい。

入賞おめでとう

▼第60回青少年読書感想文岡山県コンクール結果

高等学校の部 佳作

〈自由図書〉 高2 岡本 紗枝

〈課題〉 高1 細川 典子

中学校の部 優秀 中2 荒木 佳苗

▼第27回ライオンズクラブ国際平和ポスター・コンテスト

最優秀賞

中1 永原 凜弥

中1 有馬 愛佳

福島 汐音

▼中学生の作文・習字

浅口市長賞

中2 中原 悠希

玉島納税貯蓄組合連合会会長賞

中3 中塚 心愛

▼第3回晴れの国おかやま映像コンテスト

岡山わが町自慢部門賞

中学放送部

▼平成26年度人権啓発標語

優秀賞

清水 美沙

思いやり みんなで広げる 明るい輪

入選

六原 侑哉

思いやり 優しい心が あなたを変える

永廣 空也

その行為 自分もまわりも 心が痛む

藤岡 幹久

差別なく すべての人に 人権を

荻野 理彩

広めよう 笑顔あふれる 仲間の輪

喜怒哀楽も はんぶんこ

竹谷 和真

勇気ある 行動ひとつが 平和な世界

橘高 光哉

人はみな 平等だから生きている
みんなを尊重しよう

藤田 沙彩

前を向け 卑劣な者に 負けぬよう
心の強さ 見せつける

知光 春奈

思いやり 本当の意味 考えよう

横藤田 麻結

やめようよ 言葉の暴力 お互いに
そしたら地球は 笑顔でいっぱい

▼第12回永瀬清子賞受賞

佳作

1年 藤田 恵

3年 大熊 峻平

2年 貞清 晋吾

奨励賞



部活動紹介

天文気象部

現在、中学生18人、高校生24人、計42名の部員がおり、日常的には太陽観測や毎月1回夜間観測を行っている。探究天文ゼミと連携して研究にも挑戦している。ここ最近では、岡大や岡山県主催の発表会、SSH全国生徒研究発表会で「科学技術振興機構理事長賞」などの賞をいただいた。

地域の人や小学生を対象に「星を見る会」を毎年実施している。今年は2回実施、5月に太陽観望、8月に月・土星の観望を企画した。夏休みには、弥高山で合宿を行ってきたが、今年は美星天文台で散開星団M11の色等級図の作成を目的に、2泊3日で研修合宿を行った。ほつまつ祭では、天体写真などの展示・プラネタリウム・天文台公開を実施している。今年は天文好きな新入部員も加わり、これからが楽しみです。



陸上競技部

部員数は中高合わせて約40名で「継続は力なり」「練習はウソをつかない」「東大・京大・インターハイ」の合言葉を胸に、放課後のグラウンドで活動しています。主な活動内容は中学校は生活習慣の確立と基礎体力の向上、高校ではインターハイで活躍を目的に頑張っています。

近年の活躍は、インターハイ、全国大会での入賞は勿論、中国大会にも多くの生徒が参加できるまでになりました。今年度も山梨県で行われた南関東インターハイに出場し、その予選会である中国高校陸上には総勢10名が参加しました。既に来年度の和歌山インターハイへ向けて取り組みをスタートしています。厳しい試合を勝ち抜かなければいけません、先輩たちが築き上げた伝統と経験を引き継ぎ、必ず予選会を突破したいと思います。



生徒会活動

ほつまつ祭 9月13・14日の二日間、統一テーマ「一等星〜輝ける青春となれ〜」を掲げて、日ごろの成果を発表した。文化部13団体、ダンス部、音楽部吹奏楽団、コーラス、軽音楽部、図書委員会、美術選択者有志、高3有志の模擬店、中高各クラスでは展示16団体、演技13団体が発表した。

高3有志の模擬店では生徒が生き生きと活動し、今年度も盛況であった。PTAはステンドグラス・ベネチアングラス・アクセサリーの展示・体験・販売をした。また、本年も友愛セールが行われ、盛況であった。

ほつまつ祭期間中には「一日入学PARA II」として、小学生を対象にスタンプレリーが行われ、併せて入試相談コーナーも設けられた。テーマにふさわしい、各クラスの個性が発揮された取り組みとなった。

なお、コンテストの結果は次のとおりである。

中学展示の部

- 第1位 1年4組
豆は友達
- 第2位 2年1組
温泉ウォッチー！〜身も心も癒し〜
しにおいでんしや〜い〜
- 第3位 2年4組
ほつけえ！ぶちすげえ!!岡山と広島!!!

中学演技の部

- 第1位 3年5組
謎の大捜査線
- 第2位 3年2組
Best Friend
- 第3位 3年1組
ユウタツチヨの中学生日記
- 同3位 2年3組
カラフル

高校展示の部

- 第1位 1年6組
Let's Fly!あの青空の向こうへ
—U1-6飛行機物語—
- 第2位 1年1組
おもちゃのチャチャチャ☆おも

チャワールドへようこそ!

第3位 1年2組

Sea BreezeZEE〜海の世界へ〜

高校演技の部

- 第1位 2年6組
八月の青空〜平和の願いはあな
たへの約束〜
- 第2位 2年4組
家族素描
- 第3位 2年1組
ファミリィ(仮)

走るメロスと暴虐の王

KOPの部

第1位 迷える子羊ちゃん

《高校生徒会》

4月19日(土)、生徒会役員選挙が行われ、生徒会長に2年1組の木下豪くんが承認され、副会長に2年1組の三宅怜奈さん、1年5組の橋本宜幸くんがそれぞれ当選した。4月25日(金)には、晴天の下、高校3年生、2年生の春季球技大会が開催された。ソフトボール、ドッジボール、フットサル、ティール大会の4種目でそれぞれ熱戦が繰り広げられた。4月26日(土)、中高三役・事務局

合同交流会を実施した。中高の枠を越え、生徒会活動の中心を担う執行部として親睦を深めた。

5月23日(金)、第一回生徒会総会が行われた。今年度の基本方針や予算について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台で発言した執行部、各種専門委員長、学年代表者会議議長らはいずれも堂々とした態度で発表を行った。

9月26(金)、体育会が行われた。直前には天候が心配されたが、当日は好天に恵まれ、様々な競技で熱戦が繰り広げられた。応援も盛り上がるなか、黄ブロック(2年1・3・5・7組)が優勝、青ブロック(2年2・4・6組)が準優勝と、高2の活躍が目立った。

10月23日(木)に予定していた秋季球技大会は、実行委員、事務局員を中心に精力的に企画・準備を進めていたが、生憎の雨によって中止になった。

生徒会事務局が数年に渡って関わってきた、金光駅前での薬物乱用防止キャンペーンの取り組みが評価され、備中保健所から感謝状を贈られた。

あった。

6月13日には夏季球技大会が行われた。みんな元気に声を掛け合い、それぞれのコートで熱戦を繰り広げた。総合優勝は、1年は1組、2年は1組、3年は1組が勝ち取った。クラスの団結や親睦も深まり、楽しく充実した一日となった。

8月1日に浅口支那生徒会交流会が金光中学校で開かれた。今年度は、各校の自校紹介をし、各校の生徒会活動について話し合った。その後、ミニゲームなどを行い親睦を深めた。

ほつま祭では、演劇部門には3年全6クラス、2年1クラス、展示部門には2年4クラスと1年5クラスが参加した。展示は、夏休み中に様々なところに取材に行くなど内容の濃い展示となった。演劇では各クラスの熱演が見られた。

体育会は前々日に雨が降ったが教員生徒による水抜き、当日朝早くからの準備で予定通り10月4日に開催された。ほつま祭以後、3週間程度しかないの取り組みの中、3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。マースゲームは今年から1年生の「うらじゃ」2、3年全員で「組体操」に取り組んだ。

《中学生徒会》

4月16日に新入生歓迎会をほつま体育館で開催した。1年は新入生あいさつと呼びかけで元気に入学後の決意を示した。2年は歌でエールを1年生に送った。3年は行事を紹介する演出で歓迎し最後に『虹』を歌った。恒例の部活動紹介では各部の工夫を凝らした勧誘に1年生は楽しみながら関心を寄せていた。

4月30・5月2日の一日入部では、1年生は各部を回り、多くの者が入部し、元気に活動している。5月は委員会活動や部活動委員会が始動し、今年度の活動方針や予算を作成した。事務局では総会に向けてクラス討議資料を作成し、評議員会に提出した。

各クラスで活発な討議が行われ、それを基に各種委員会で論議された。また、ほつま祭や体育会の実行委員会が発足された。

6月6日には生徒会総会が開かれた。今年度のスローガン『We can make it!』踏み出せ学園の「一歩」です。『We can make it!』はうまくいく!と聞こえます。ほつま祭や体育会などの大きな行事はもちろん、普段の生活においても

上級生が「組体操」に取り組むことで例年以上に大きなビラミッドが組み立てられたりして迫力のあるものとなった。学年の部第1位は3年1組、2年4組、1年2組、兄弟学級の部第1位は1組、応援の部第1位は5組であった。

5年年目となるが、学園生の登下校、電車内マナーがよくないということから、評議員会で話し合い、「学園マナーUP作戦2012」と題して、学園生同士でお互いに注意しあう雰囲気づくりを行っている。

8年目となった『リレークリーン作戦』も一学期よりおこなっている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅等に對し、お礼(感謝)の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミをしない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位でチームを作り、試験中を除き一日おきに連続して金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。町内の方にも温かい言葉をかけていただき、どのチームも一生懸命取り組んでいる。

何事も一生懸命に頑張れば必ずうまくいくはず。勉強を、部活動を一生懸命がんばる。そうすればテストや試合などがうまくいきます。そしてそのことが自分にとって大きな力となり、金光学園中学校の輝く未来を創り上げるのです。それぞれが自分のベストを尽くしてよりよく輝く学園を作り上げていきましょう」と会長の堀君から説明され、基本方針と共に承認された。今年度の活動計画・予算・昨年度の決算が説明の後に承認された。準備・運営など評議員や事務局の動きは頼もしかった。

委員会でも積極的な活動を始めた。評議員会では障害者の福祉活動へ支援のため「愛の募金」に取り組み、総額8万2144円が集まった。保健委員会は健康観察簿の取り組みや風邪予防ポスターの作成、生活委員会では服装指導と挨拶運動に取り組み、図書委員会では本の紹介の通信発行や読書の呼びかけなどを行った。学習委員会では、全校漢字テストを第1回は6月5日に、(第2回は6月16日に実施予定)実施した。その結果、第1回の第1位は3年1組と4組であった。2回目の第1位は2年2組で

る。

各委員会の動きとしては、評議員会は一学期に取り組んだ「愛の募金」に続いて、今年度は広島市土砂災害に関する義援金に取り組む準備を行っている。学習委員会では、全校漢字テストを10月16日(第3回)に実施した。その結果、第3回の第1位は3年4組であった。

《新聞部》

新入部員6名を迎え、現在中学2年生3名、高校1年生8名で活動している。

4月には、新任の先生紹介号、教育実習生紹介号を発行した。夏には、1泊2日で合宿を実施した。9月には、定期発行のタブロイド版ほつま新聞196号(ほつま祭特集号)を発行した。10月に行われた体育会では、中高共に、速報を発行した。

《天文気象部》

7月、美星天文台で夏合宿を行った。散開星団M11の色等級図を作成することを目的に2泊3日で実習を行った。2日目は、リング状星雲や亜鈴星雲などの星雲を撮影することもできた。

9月、ほつま祭では、例年のように、展示・プラネタリウム・天文台公開を实

施。展示内容は、月食やすばる望遠鏡などを中心に行った。美星町の星空感謝祭で、小型望遠鏡を用いて木星や火星や星座の案内などを行った。

10月、皆既月食の観測を行い、食前後の月の写真を撮影することができた。皆既の時に天王星の観測にも挑戦した。

11月、科学の祭典に参加。光のスペクトルについてブースを出し、来場者に簡易分光器の作成や様々な光のスペクトルの観察を体験させることができた。

《生物部》

生物部は現在、中学生29名、高校生4名で活動をしている。今年度から部員全体で絶滅が危惧されているブッポウソウの生態についての研究も開始した。6月14日に倉敷市立自然史博物館で開催されていたブッポウソウ特別展を見学し、生息地・繁殖スケジュール・餌の種類等について学習した。6月28日・7月12日に吉備中央町の4つの巣箱で成鳥と雛に足環をつける作業を見学し、実際に子育てをしている様子を観察した。7月29日・30日には生息地で餌となる昆虫類の調査を行った。

学会等に出場し、研究内容を発信する

活動も行っている。平成26年スーパーコンピュータ「京」と生命科学発表会で八方・橋本「コケの分布」が出場した。11月16・17日に日本科学技術振興財団主催の青少年のための科学の祭典に「にほしの解剖」で出場し、小学生にも好評だった。

《電気科学部》

8月31日に、仁科ロボコンが行われ、中学4台、高校2台が出場し、高校一年のチームが決勝トーナメントに進みましたが、トーナメント一回戦敗退でした。

《中美術部》

中学美術部は金光町のキッズフェスティバルに向けて、クリスマステーマに個人作品を制作中。また、高校美術部は1月の高校美術展に向けタブロー・立体と個人で制作中。出品に向け頑張っている。

《中高書道部》

高三小泉優が第29回ふれあい書道展（熊野）で特選を受賞した。7月28日・30日で夏合宿を行い、ほつま祭作品に取り組んだ。

《茶道部》

4月に4名の中1新入部員が加わり、

みんな熱心に碧水庵にて部活動に励んでいる。4月27日に後楽園で行われた第69回栄西禅師賛仰献茶式・大茶会で、お運び、水屋のお手伝いをさせていただいた。また、8月2日・3日には金光北ウィングで行われたハンドメイドマルシェ会場でお茶会をさせていただいた。初めてのことが多かったが、生徒たちにとっては日頃の練習の成果を発表できるよい機会となった。

ほつま祭での今年のテーマは生誕400年を迎える戦国時代の茶人、古田織部にちなんで「武将のお茶」とした。ほつま祭茶会にむけて、生徒は茶杓作りにも挑戦した。天候にも恵まれ、多くの方々に来ていただいた。また、姉妹校である春川女子高校の生徒にもほつま祭茶会に来ていただき、お茶を通して交流することができた。

2月11日に、ベルフォーレ津山にてインターネットリジェンスコンサートに出演し、「ハリウッド万歳」「SEDONA」「ジャパニーズグラフィティIV弾厚作作品集」「夢をかなくてドラえもん」「RPG」恋するフォーチュンクッキー」を演奏し、参加した5

《音楽部吹奏楽団》

2月11日に、ベルフォーレ津山にてインターネットリジェンスコンサートに出演し、「ハリウッド万歳」「SEDONA」「ジャパニーズグラフィティIV弾厚作作品集」「夢をかなくてドラえもん」「RPG」恋するフォーチュンクッキー」を演奏し、参加した5

つの学校による「ハイディックスブルク万歳」の合同演奏を行った。

2月28日、卒業式にて「ハリウッド万歳」を卒業する高校3年生とともに演奏。3月18日、ゆずり葉の会にて「RPG」恋するフォーチュンクッキー」を演奏。4月8日、入学式にて「ファンファーレ・マーチ&セレブレーション」等を演奏。4月15日、たんぼぼまつりにて「宝島」「ハイブレッシャー」「空より高く」等を演奏。4月27日、保護者会総会にて「九ちゃんグラフィティ」を演奏し、その後学校で、定期演奏会に向けて1泊2日の合宿を行った。4月29日には倉敷市芸文館にて、倉敷南高等学校吹奏楽部と合同でスプリングコンサートを行い、「ハリウッド万歳」「SEDONA」「九ちゃんグラフィティ」「デイスコキッド」を演奏した。このコンサートにはヨハン・デメイを招き、「Summer」の特別演奏も行った。5月2日に、1日体験入部があり、多くの中学1年生が本吹奏楽団を訪れた。5月3日に、倉敷市民会館にて『第42回定期演奏会』を行った。第一部では、「ハリウッド万歳」「SEDONA」「ジャパニーズグラフィティIV弾厚作作品集」「火の鳥」

第二部では、「ハイブレッシャー」「宝島」「Bird Land」「夢やぶれて」「九ちゃんグラフィティ」「デイスコキッド」「糸」「残酷な天使のテーゼ」「乾杯」「かっぱれファンク」「愛をありがとう」「勝利への賛歌」を演奏した。このコンサートで高校3年生が引退。新体制での活動が始まる。6月7日、本部祭場にて金光ミュージックフェスタに参加。ホスト校として、演奏だけでなく、準備に参加した。6月8日、金光教独立記念祭にて、演奏奉仕をする。「今今日で一心にたのため」「ソーラン」「神人の栄光」を演奏。6月15日に、浅口音楽フェスティバルにて「生命の奇跡」「かっぱれファンク」「翼をください」を演奏。6月22日、倉敷市民会館にて吹奏楽祭に参加。「カッポレFUNK」「高吹連賛歌」を演奏。7月6日に、山陽女子中学高等学校吹奏楽部と合同練習を行った。7月19日は野球応援の後に、金光町夏祭りに参加し「I can't turn you loose」「新童謡オーブニング」「勇氣100%」等を演奏した。7月31日に金光学園幼稚園を訪問し、夏祭りに参加。8月24日には部内アンサンブルコンテストを行った。9月14日はほつま祭で「ぼよん行

進曲」「Don't say that again」「夏色」「浪漫飛行」「かっぱれねぶた」を演奏。9月26日は高校体育会、10月4日は中学体育会があり、ファンファーレや「海兵隊」「プロモーション」を演奏した。9月28日には教祖生誕200年奉祝行事があり、「ハリウッド万歳」「かっぱれねぶた」等8曲を演奏した。また、コーラス部と合同で、「神人の栄光」を演奏した。10月3日には外国人留学生を歓迎する演奏会を開き、「I can't turn you loose」「夢をかなくてドラえもん」「éternité」「make her mine」を演奏した。

《音楽部コーラス》

3月16日（日）に卒部式を校内で行った。今年もたくましく育った部員達が未来へと一歩を踏み出している。

3月27日（木）・28日（金）で春合宿を京都府城陽市で行った。初日は作曲家の北川昇氏にレッスンをさせていただき、楽譜の読み方と歌い方を丁寧に教えていただいた。夜には交流のある西城陽高等学校合唱部の定期演奏会を鑑賞。昨年以上に力強く、細やかな演奏に圧倒され、たくさんの刺激を受けることができた。2日目は音楽家の田末勝志氏にレッスンを

をしていただいた。体を使った練習などとても分かりやすく、勉強になった。

4月13日(日)に金光公民館大ホールでたんぼぼまつりが開催され、ステージ発表に参加した。「秋桜」や「グリーングリーン」など懐かしく、親しみのある曲を歌い、みんなで楽しめた。

5月31日(土)に保護者会を開催した。たくさんの方々が集まり、サマーコンサートや総文祭のことなどを中心に話しあうことができた。

6月7日(土)に岡山県高等学校合唱祭が高梁総合文化会館で開催された。総文祭に向けて田中達也氏に編曲・構成していただいた「異聞・うらじゃ」(桃太郎とうらじゃの音楽を融合)を初演し、好評を得た。また、「[777] We can sing a soul」も元氣いっぱいダンスと共に披露した。合同曲は「春に」を岡山城東高等学校の森野先生に指導していただき、しっかりと力強く歌い上げた。今年新たに入部した15人の中1にとって初ステージであったが、みんな緊張しつつも最後まで力いっぱい歌うことができた。

6月15日(日)に浅口音楽フェスティ

ステージは「混声合唱とピアノのための歌はどこから」を現役生とOBOG合同で演奏した。OBOGが加わることで安定した厚みのある合唱となった。第3ステージは「ありのままに」をテーマに劇に合唱、ダンス、さらにチアリーディングやカラーガードなどを加え、楽しいステージにすることができた。この日は台風が近づき、開催が危ぶまれたが、時間を夕方にするし何とか開催にこぎつけた。変更にもかかわらず、約800人の方が来てくださり、部員一同感謝と感激であった。

9月14日(日)にほつま祭でステージ発表をした。サマーコンサートの曲に新たなメドレーを加え、元氣いっぱいに歌うことができた。高3引退後、新体制として初のステージを成功で終えることができた。

9月28日(日)に金光教祖ご生誕200年奉祝行事の記念演奏会が開催され、出演した。懐かしの曲からJ・Pop、クラシックな合唱曲まで様々なジャンルを織り交ぜ40分間のステージを精一杯歌いきった。

バルが里庄総合文化ホール「フロイデ」で開催された。「RPG」「君はペガサス僕はポラリス」「異聞・うらじゃ」骨太な3曲だったが、夏に向けて士気も高く、練習を重ねてよい演奏ができた。

7月5日(土)の午前中、金光公民館で金光の少年少女合唱団「ひまわり」と交流会をさせていただいた。はじめはお互いに緊張気味だったが、踊りを一緒に練習する頃には打ち解け、楽しい時間を過ごすことができた。またその日の午後総文祭に向けての保護者会を開催した。

7月19日(土)に岡山県芸術フェスティバルがマービーふれあいセンターで開催された。総文祭の前哨戦でもあるこの会では、岡山県代表として茨城へ行く文化部が一堂に会し、日ごろの練習の成果を発揮した。ステージの音響面で合唱には厳しい状況であったが、総文祭に向けてよいステージとなった。

7月30日(水)～8月1日(金)に第38回全国高等学校総合文化祭に出場するため茨城県つくば市へ行った。生徒は総勢76名が参加した。慣れない地での演奏会で不安や緊張があったが、地元の金光

《英語部》

部員は現在、高校3年生8名(男子3名、女子5名)。今年度は「サマリー&スピーキング」を強化する目的で、毎回1つの題材(物語や記事)を読解して大意把握した後、英語で要約し、自分の意見を添えて口頭発表するトレーニングを週1回行う。受験生ということもあり日程が調整できず、実際には活動が不可能となってしまう。

《写真部》

今年度はほつま祭には参加できなかったが、体育会では報道係として、撮影にあたった。

《中放送部》

9月13、14日に開催されたほつま祭では、演劇の音響とアナウンスを高校生とともに担当した。本年から新たな音響設備が小体育館に設置され、以前よりもスムーズに操作することができた。11月11日には、「第3回晴れの国おかやま映像コンテスト」に出品したCM「人を育み、人を大切にする町 浅口市」が、グランプリ、準グランプリに次ぐ「部門賞」を獲得した。この作品は、大学卒業後、東京で就職した女性が仕事に疲れ果て、故

郷の先生や信者の方が応援に駆け付けてくださり、非常に心強く感じた。本番直前までの緊張がうそのように生徒たちは笑顔で伸び伸びとした演奏をすることができた。演奏内容は「中国地方の子守唄」から始まり、温羅伝説に関わる語り、そして温羅に光をあてた「異聞・うらじゃ」に和太鼓、拍子木、鈴を加えて演奏し、郷土色豊かにそしてダイナミックに演奏することができた。翌日、コンクールで全国1位の千葉県立幕張総合高等学校合唱部の練習見学をさせてもらった。練習方法の違いはもちろんのことレベルの違いに圧倒され続けた2時間であった。普段では経験できない様々なことを通して、生徒は多くのことを学び成長することができた素晴らしい3日間であった。

8月3日(日)～5日(火)で夏合宿を校内で行った。迫るサマーコンサートに向け、生徒は総文祭の疲れも見せず、集中した練習をすることができた。

8月10日(日)に里庄総合文化ホール「フロイデ」で11回目となるサマーコンサートを開催した。第1ステージは「約束」をテーマに様々な曲を全体だけでなく中・高に分かれて歌ったりした。第2

郷の浅口市に帰郷し、改めて故郷の良さを実感して元氣を取り戻すストーリーで、制作や出演者はすべて中1が行った。

《高放送部》

新入生が加わり現在、7名で活動している。4月13日(日)、市民会館金光を会場に開催された第17回たんぼぼまつりに参加した。生徒は司会・音響係として活動した。さらに4月29日、山陽女子高校でのアナウンス・朗読講座に参加して研修した。6月には第51回岡山県高等学校放送コンテスト兼第61回NHK杯全国高校放送コンテスト岡山県予選の決勝大会が山陽女子高校で開催された。アナウンス部門に高3平松佳乃子と高2草加帆果が朗読部門に高3田邊恭子と高2川上百代が出場した。田邊は惜しくも次点だった。

第38回岡山県高等学校総合文化祭総合開会式及び高校生芸術フェスティバルに高3の田邊恭子が放送文化部門の代表として参加すると共に総合司会の大役を果たした。そして彼女は7月27日～31日に茨城県日立市(日立シビックセンター)で開催された「いばらき総文2014」の朗読部門に出場した。会場では金光教

水戸教会の先生をはじめ信者の方から心のこもったご声援をいただき、十分に力を発揮した。

8月18日～19日にかけて強化練習を行った。特に今年は卒業生でアナウンサーの遠藤寛子氏を講師にお迎えし、朗読・アナウンスの基礎基本を学んだ。その他、文化祭の音響や発声練習を中心に活動を行い、中学生との親睦も深めた。9月13(土)・14(日)のほつま祭では音響係として活躍した。また、体育会でも放送係としてアナウンスを中心に選手紹介を行った。第38回岡山県高等学校総合文化祭兼第38回岡山県高等学校秋季放送コンテストが11月24日(月)に山陽女子高校で開催され、アナウンス・朗読部門に山本彩加・川上百代がエントリーした。残念ながら入賞には至らなかった。

《囲碁将棋部》

普段は部室で練習している。ほつま祭では自由対局をして囲碁・将棋の普及に努めている。日々、技能の向上に努めている。5月5日、山陽新聞社主催の全国高校将棋選手権岡山県大会が開催された。高3の羽仁豊君がベスト16へ、高2平松祐真君は残念ながら予選敗退となった。

また、高校将棋秋季新人戦が10月4日に水島工業高等学校で開催され、高2平松祐真君、高1土屋昌希君がAグループ3勝2敗で中国大会まであと一歩だった。

《科学部》

科学部は現在、中学生24名、高校生16名で活動をしている。4月の新入生歓迎会では丹精こめて作った葉脈標本のしおりを新入生に配布している。7月には鴨方で行なわれる科学の祭典に参加し、カルメ焼きのブースで、子供たちに作り方を優しく教えながら楽しんでいる。また、本校主催の川教室に補助員として参加し、小学生への指導から運営まで関わり、活躍している。毎年8月に行われる合宿では中国四国地方を中心にバスで回り、博物館の見学などを行っている。ほつま祭では、合宿の報告や日頃の実験の成果の報告と共に、プランヤスライムなど体験型の実験を準備し、個々が責任を持って楽しく取り組んでいる。昨年11月にはライフパーク倉敷で行われた科学の祭典に参加し、割れないシヤボン玉を作って子供たちを楽しませた。また3月には本校で行われた探究授業の中間発表会に参

加し、色について行った研究をまとめ、英語で発表を行った。研究を行うだけではなく、成果を外部に発信する活動にも力を入れている。そして、昨年より岡山大学環境理工学部名誉教授である坪井先生にご助言をいただき、科学部員の興味・関心のある分野の研究をしている。

《軽音楽部》

ほつま祭で4バンド13名が演奏を行い、練習した成果を存分に発揮した。

《文芸部》

新入部員4名を迎え、総勢14名で今年度の活動をスタート。6月に習作集「ぬばたま」を制作し、部員同士で互いの作品に対する批評を行った。夏休みには初となる合宿を行い、親睦を深めつつ、作品の執筆と批評を繰り返すことで技術の向上に努めた。9月には、ほつま祭で文芸誌「榴槤火」を販売し、無事に完売した。また、高文連文芸部会主催の「文芸道場おかやま」散文部門に4名が作品を応募し、当日には6名が参加。他校の生徒と交流しながら、創作意欲を高めた。11月には習作集「水色」を制作し、批評会も行っている。

《ダンス部》

9月14日(日)本校ほつま祭で、例年どおり中1から高2までの30名で、10作品を発表した。5月から始め、夏休み期間中も頑張りました。

《陸上競技部》

高校

「全国大会」
全国高等学校総合体育大会「南関東インターハイ」に徳原真奈美400mハードルに出場した。

「中国大会」

・中国高校陸上に徳原真奈美400mハードル3位、400m6位。清水沙世紀5000m競歩5位。大久保咲紀400mハードル。4×400mリレー三輪大貴・加賀拓磨・渡邊智哉・田邊詢・田頭操真・眞田剛寛が出場した。

・中国高校新人に清水沙世紀5000m競歩2位。若狭悠佑ハンマー投げ6位。田頭操真3000m障害。眞田剛寛400m。4×400mリレー加賀拓磨・渡邊智哉・田邊詢・田頭操真・眞田剛寛・粟井凱耶が出場した。

「県大会」

・岡山県高校新人に若狭悠佑ハンマー

投げ優勝 円盤投げ8位。清水沙紀5000m競歩3位。田頭操真3000m障害4位。眞田剛寛400m4位。4×400mリレー3位加賀拓磨・渡邊智哉・田邊詢・田頭操真・眞田剛寛・粟井凱耶。4×100mリレー8位。加賀拓磨・渡邊智哉・田邊詢・眞田剛寛・粟井凱耶・平本晋二郎が出場した。

中学

「県大会」

・秋季新人戦に眞田明日香砲丸投げ3位。仁平優宙走り幅跳び4位に出場した。

《ラグビー部》

4月12日(土)から中国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会が行われ、1回戦は津山工業に5―78で完敗。第3代表決定戦にまわり1回戦を一宮高校に59―0で勝つも、2回戦で関西高に5―64で敗れた。力及ばず2年連続の中国大会出場はならなかった。5月3・4日は美作ラグビー場で行われる強化練習会に参加。技術・体力の向上に努めた。5月31日(土)、6月1日(日)には岡山県総合体育大会15人制の部が、7日(土)には同じく7人制の部が開催された。15人制の部はBブロックに参加し、

1回戦は一宮高校に88―10で勝つも決勝戦は朝日高校に終盤に追いつかれ19―19の悔しい両校優勝となった。7人制の部はブロック敗退となり、3年生はこの大会を最後に引退した。8月には18日(月)から2泊3日の校内合宿を実施。多くの卒業生の参加をえて、充実した合宿となった。9月20日(土)からは岡山県高等学校ラグビーフットボール選手権大会に参加。1回戦は高松農に67―5で勝つも、ブロック決勝戦は津山高専に19―47で敗れた。全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会も玉島高校に5―61で敗退。1・2年生チームでは、3年生を多く残す学校の厚い壁を超えることは難しかった。

《中男子ソフトテニス部》

中学男子ソフトテニス部は、3年生11名、2年生10名、1年生13名の総勢34名で新年度のスタートを切った。5月3日(土)に行われた井原中学生招待ソフトテニス大会では、横山・小野、樋口・福嶋組が初戦敗退、佐藤・大出組がベスト16であった。6月7日(土)の備西支部ソフトテニス研修会では、磯田・高垣、横山・小野組は2回戦敗退、樋口・福嶋

組がベスト4に入り、佐藤・大出組が優勝して地区大会団体戦の第1シードを獲得した。7月5日(土)・6日(日)の備南西地区総体は、個人戦で北古賀・福井、磯田・高垣、石原・才野組が初戦敗退、横山・小野組が3回戦敗退、樋口・福島組がベスト16(ベスト10決定トーナメント進出も)、2回戦県大会がけの試合で敗退)、佐藤・大出組が優勝であった。団体戦では予選リーグで笠岡東中、金浦中にそれぞれ2-1、3-0で勝利し、準決勝で新吉中に2-1で勝利、決勝戦は降雨のため途中で順延となったが、場所を笠岡総合体育館に移して2-1で鴨方中に勝利し、優勝することができた(団体メンバー 佐藤・大出・樋口・福島・横山・小野・石原・才野)。7月23日(水)・24日(木)には岡山県総体が行われ、個人戦に佐藤・大出組が出場。倉敷西中に1-4で破れ、初戦敗退であった。団体戦は津山東中に全試合ファイナルながら0-3で破れ、初戦敗退であった(団体メンバー 佐藤・大出・樋口・福島・横山・小野・石原・才野)。8月2日(土)に第17回チャレンジカップが行われI部に9ペア、II部に5ペアが出場したが、

降雨のため途中順延となった。8月5日(火)・7日(木)に仲間との親睦とソフトテニス技術の向上を目的に夏合宿を行った。8月23日(土)に第17回チャレンジカップの続きが行われ、I部で佐藤・大出組が優勝であった。3年生11名がここで引退となった。

新チームになって、9月3日(日)にプロシードカップ中学生団体戦に出場した。予選リーグで玉島東中に3-0で勝利し、2位で決勝トーナメントに進出したが、総社中に0-3で敗れた。9月20日(土)の備西支部ソフトテニス研修会では、金川・山崎組、荒尾・金尾組が初戦敗退、石原・福井組、北古賀・板阪組が2回戦敗退であった。10月18日(土)・19日(日)の備南西地区秋季ソフトテニス大会では、個人戦で竹内・倉田組、吉田・小田原組、荒尾・金尾組、金川・山崎組が2回戦までに敗退、石原・福井組がベスト16であった。石原・福井組は県大会出場をかけたトーナメントを勝ちきり、県大会出場を決めた。団体戦では予選リーグで鴨方中に1-2で敗退、里庄中に2-1で勝利したが、予選リーグ敗退であった(団体メンバー 石原・福井・

北古賀・板阪・金川・山崎・荒尾・金尾)。11月10日(月)には岡山県秋季ソフトテニス大会が行われ、個人戦で石原・福井組が初戦八浜中に4-3で勝利し、2回戦で倉敷福田中に0-4で敗れた。11月15日(土)に行われた第18回チャレンジカップには、I部に4ペア、II部に7ペアが出場し、I部で石原・福井組がベスト8、II部で竹内・倉田組が準優勝であった。

《中女子ソフトテニス部》

8名の新入部員を迎え、計20名で今年度の活動がスタートした。

6月7日に金光スポーツ公園テニスコートで行われた、備西・井原支部合同夏季研修大会に4ペアが出場し、畠山優・畠山佳ペアがベスト8。7月5・6日に井原運動公園テニスコートで行われた、備南西地区総体では、個人戦に6ペアが出場し、畠山優・畠山佳ペア、塚岡・向ペアがベスト8となり、県大会の出場権を獲得。団体戦では予選トーナメント1回戦で井原中学校に2-1で勝利したが、同2回戦で鴨方中学校に1-2で敗れ、県大会出場はならなかった。7月19日に倉敷スポーツ公園テニスコートで行

われた、中学生選抜ソフトテニス大会に県大出場権を得た2ペアが出場し、畠山優・畠山佳ペアがベスト8。7月23日に浦安総合公園テニスコートで行われた、県総体(個人戦)では畠山優・畠山佳、塚岡・向ペアがともに1回戦敗退。9月20日に井原運動公園テニスコートで行われた、備西・井原支部合同秋季研修大会に4ペアが出場し、塚岡・向ペア、黒川・白石ペアがベスト8。10月18・19日に井原運動公園テニスコートで行われた、備南西地区秋季総体では、個人戦に6ペアが出場し、塚岡・向ペアが準優勝で県大会出場権を獲得。団体戦では予選トーナメントを美星中学校・芳井中学校に對してともに2-1で勝利し突破。続く準決勝で矢掛中学校に2-1に勝利し、決勝では新吉中学校に1-2で敗れたものの準優勝となり、久しぶりの県大会出場権を獲得。11月10日・11日に福田公園テニスコートで行われた県秋季大会では、個人戦・団体戦とも初戦敗退。11月15日に金光スポーツ公園テニスコートで行われた、第18回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会に5ペア参加し、I部で塚岡・向ペアが準優勝。

《高男子ソフトテニス部》

4月19日(土)・20日(日)、春季高等学校ソフトテニス選手権大会が水島緑地福田公園テニスコートでおこなわれた。4ペアが出場したが、それぞれ初戦を勝ち進んだものの2回戦で敗退した。

5月5日(月祝)には全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会の備西地区予選会(個人)が井原市営テニスコートでおこなわれた。黒川・竹内裕組が第3位、高橋・長田組がベスト8となり、この2ペアが県予選会への出場権を獲得した。5月6日(火祝)には同じく井原市営テニスコートにて備西地区高等学校対抗ソフトテニス大会がおこなわれた。各校のAチームが出場する1部トーナメントでは2回戦で玉島商業高校に3対0で勝利したが、準決勝で笠岡工業高校に1対2で敗れ、第3位となった。各校Bチームが出場した2部トーナメントでは第3位、また各校のCチーム以下が出場する3部トーナメントでも第3位という結果に終わった。

そして5月31日(土)・6月1日(日)、全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会の岡山県予選会(団体)が浦安総

合公園テニスコートでおこなわれた。1回戦は林野高校に3対0で勝利、2回戦は岡山一宮高校に3対0で勝利し、ベスト8をかけて第3シードの岡山南高校と対戦したが、0対3で敗れてベスト16で大会を終えた。続いて7日(土)に備前テニスセンターでおこなわれた同大会の岡山県予選会(個人)には備西地区予選会を勝ち抜いた2ペアが出場したが、ともに1回戦で敗退した。

6月22日(土)に国民体育大会の岡山県予選が浦安総合公園でおこなわれ、高橋・長田組が出場したが、初戦で岡山理大附属高校のペアに敗退した。

夏季休暇中には8月7日(木)・8日(金)に備前テニスセンターで開催された岡山県ソフトテニス交流大会に参加して県内の高校と団体戦をおこない、3年生が引退したあとの新チームの強化を図った。

8月20日(水)・23日(土)には、水島緑地福田公園テニスコートで高梁川流域高等学校ソフトテニス大会がおこなわれた。個人戦では高橋・長田組と黒川・竹内組が3回戦まで進出したのが最高で、上位入賞は果たせなかった。団体戦ではAチームは2回戦で倉敷南高校Bに

0対3で、Bチームは倉敷商業高校Aに1対2で敗れ、秋に向けて課題の残る大会となった。

そして9月20日(土)に岡山県新人ソフトテニス選手権大会(ダブルス)の備西地区予選会が玉島の森テニスコートでおこなわれた。21日(日)には順位決定戦までおこない、最終的に黒川・竹内組が第3位、高橋・長田組が第4位、三宅祥・石原組が第8位に入賞し、この3ペアが県大会への出場権を獲得した。しかしながら、11月1日(土)2日(日)に浦安総合公園でおこなわれた県大会(個人)では出場した3ペアとも2回戦で敗退した。いっぽう県大会(団体戦)は8日(土)〜11日(火)に備前テニスセンターでおこなわれた。1回戦で備前緑陽高校に2対1で勝利し、2回戦は笠岡工業高校に2対1で勝利したが、3回戦で第4シードの倉敷工業高校に0対3で敗れ、総体と同じく2大会続けて県ベスト16の成績で大会を終えた。

《高女子ソフトテニス部》

4月春季高等学校ソフトテニス選手権大会、5月全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会備西地区予選会(個

人)、備西地区高等学校対抗ソフトテニス大会(団体)、全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会岡山県予選会(団体)、6月国民体育大会岡山県予選会(8月高梁川流域高等学校ソフトテニス大会、9月岡山県新人ソフトテニス選手権大会(ダブルス)の備西地区予選会、11月岡山県新人ソフトテニス選手権大会(団体)と出場を重ねるも、3回戦までに敗退、上位入賞はならなかった。現在、高二2名、高一4名で活動している。当面の目標は、基本技術の向上と体力づくりである。来年の県大会出場を目指して心身ともに鍛える冬でありたい。

《中卓球部》

3月16日に岡山県団体総合卓球選手権大会に女子が出場した。予選リーグで山陽女子高Bに0-3、松田工業に1-3、玉島商業に3-1、高島クラブに3-1の2勝2敗で3位トーナメントに進み、準決勝でTFとみやまに3-1で勝ち、決勝で金光学園高に3-1で勝ち、1位になった。

3月21日に笠岡市卓球選手権大会(団体の部)に参加した。男子団体では予選

リーグ1位で決勝トーナメントに進み、1回戦で新田に勝ち、2回戦で乙島TTCに勝ち、準々決勝でD・ドウリウムに敗れたがベスト8に入った。女子団体ではAチームが予選リーグ1位で決勝トーナメントに進み、1回戦で総社東Aに勝ち、準々決勝で洞林寺クラブに勝ち、準決勝でねや卓球クラブに敗れたが3位に入賞した。Bチームも予選リーグ1位で決勝トーナメントに進み、準々決勝で新芳クラブに勝ち、準決勝でT・Cマルカワに敗れたが3位に入賞した。

4月6日に井原チエリーカップオープン大会に参加した。男子団体ではAチームが予選リーグ2位で決勝トーナメントに進み、1回戦ではらの町卓球Bに勝ち、2回戦で社クラブに敗れてベスト16、Bチームは予選リーグ2位で決勝トーナメントに進み、1回戦でばらの町卓球Aに勝ち、2回戦でMTC鳥取Bに敗れてベスト16であった。女子団体ではAチームが予選リーグ2位で決勝トーナメントに進み、決勝トーナメント1回戦で倉敷北に勝ち、準々決勝で山陽女子Bに敗れてベスト8、Bチームは予選リーグ2位で決勝トーナメントに進み、1回戦で木之

子・芳井に勝ち、準々決勝で社クラブに敗れてベスト8に入った。

4月20日に笠岡市卓球選手権大会(個人の部)に参加した。男子個人で升本(L2)が4回戦進出した。

4月26日に近府県卓球選手権大会(一般の部)に女子が出場した。女子団体予選リーグで就実高に0-3、倉吉北高に0-3、岡山操山高に3-1の1勝2敗で予選を敗退した。

4月29日に福山オープン卓球選手権大会(中学生以下の部)に参加した。男子個人では青木(L3)、唐川(L3)、桑原(L3)がベスト32に入った。女子個人では内山(L3)が優勝、中務(L3)が準優勝、東(L3)と藤澤(L3)がベスト8、森藤(L2)がベスト16に入った。

5月3、4日に近府県卓球選手権大会に参加した。男子団体では予選リーグで西大寺に1-3、武生第二(福井)に0-3で敗れ、3位トーナメント1回戦で倉敷北に0-3で敗れた。女子団体では予選リーグで斐川西TTC(島根)に3-1で勝ち、今治南(愛媛)に1-3で敗れ、2位トーナメント1回戦で安室(兵

庫)に3-2で勝ち、2回戦で新芳クラブに3-2で勝ち、準々決勝でサンフラワーに3-2で勝ち、準決勝で松江第一に3-1で勝ち、決勝で鳥取県選抜Bに2-3で敗れたが2位になった。女子個人では内山が4回戦まで進んだ。

6月7、8日に備西支部合同練習会に出場した。男子団体では7勝0敗で優勝した。女子団体では6勝0敗で優勝した。男子個人では唐川が準優勝、石井(L3)がベスト4、大島(L3)と升本がベスト16に入った。女子個人では内山が優勝、東が準優勝、中務がベスト4、藤澤がベスト8、西原(L3)と森藤がベスト16に入った。

6月29日に井原協会総合個人戦大会に女子が参加した。女子一般の部で内山が優勝、藤澤が準優勝、中務がベスト8に入った。

7月5、6日に備南西地区総体に出場した。男子団体では決勝で木之子に2-3で敗れ準優勝であった。女子団体では決勝で鴨方に3-0で勝ち、優勝した。男子個人では石井、唐川がベスト8、升本がベスト16で県大会出場を決めた。女子個人では内山が優勝、中務と東がベ

スト4、藤澤と森藤がベスト8、西原がベスト16で県大会出場を決めた。

7月24、25日に岡山県総体に出場した。男子団体では、2回戦で落合に3-1で勝ち、3回戦で灘崎0-3で敗れてベスト16であった。女子団体では2回戦で京山に3-0で勝ち、3回戦で芳田に3-0で勝ち、決勝リーグで富山に3-2、玉島西に3-0、山陽女子に0-3、就実に0-3、操南に2-3の2勝3敗でベスト4に入った。男子個人では石井、唐川、升本が出場し1回戦敗退であった。女子個人では内山がベスト16、中務・東・藤澤・森藤が2回戦敗退、西原が1回戦敗退であった。

8月13日に岡山県カデットシングルス大会に参加した。男子13歳以下の部では原田(L1)がベスト64に入った。男子14歳以下の部では升本がベスト16に入った。女子14歳以下の部では森藤が優勝、徳毛(L2)がベスト16に入った。

8月31日にワコー財団杯争奪卓球大会に出場した。男子団体では金光学園Aが優勝した。女子団体では金光学園Aが優勝、金光学園Bが準優勝であった。男子個人では唐川が準優勝、石井と升本が3

位、安東（L2）がベスト8に入った。女子個人では内山が優勝、藤澤が準優勝、中務と東が3位、西原と森藤がベスト8に入った。

9月20、21日に備西支部合同練習会に出場した。男子団体は5勝0敗で優勝した。女子団体は6勝0敗で優勝した。男子個人は升本が優勝、安東が準優勝、原田がベスト4、小野（L2）と信岡（L2）がベスト16に入った。女子個人は森藤が優勝、藤（L2）がベスト4、徳毛がベスト8に入った。

9月23日に全日本県予選会（ジュニアの部）に出場した。女子シングルの部で内山がベスト32、中務と藤澤がベスト64に入った。

10月5日に県境卓球大会に男子が参加した。男子団体予選リーグでは3勝3敗の4位で決勝トーナメントに進み、1回戦で朝日（兵庫）に3―1、準々決勝で御南Bに3―0、準決勝で増位（兵庫）に3―2、決勝で御南Aに3―2で勝ち、優勝した。

10月18、19日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体は5勝1敗で3位、女子団体は6勝0敗で優勝し、県大会出

場を決めた。男子個人は升本が優勝、安東が3位、古賀（L2）と原田がベスト8に入り、県大会出場を決めた。女子個人は森藤が優勝、藤が3位、徳毛がベスト8に入り、県大会出場を決めた。

11月3日に井原会長杯争奪卓球大会に参加した。男子団体ではAチームが予選リーグ1位で決勝トーナメントに進み、1回戦で金光学園Dに勝ち、準々決勝で芳井Aに2―3で敗れてベスト8であった。女子団体ではAチームが予選リーグ1位で決勝トーナメントに進み、準決勝でD・ドゥリームAに3―2で勝ち、決勝で倉敷ORクラブAに3―2で勝ち、優勝した。

《高卓球部》

3月16日に岡山県団体総合卓球選手権大会に出場した。男子団体では予選リーグで横井卓球に3―0、倉敷天城高に3―2、日比中に3―0、チームHAGI TAKUに0―3の3勝1敗で2位トーナメントに進み、準々決勝でチームSMS A S Hに敗れた。女子団体では予選リーグで小学生選抜に0―3、岡山大学に1―3、岡山操山高に3―2の1勝2敗で3位トーナメントに進み、準々決勝で岡

山東商に3―1で勝ち、準決勝で瀬戸内スポ少に3―1で勝ち、決勝で金光学園中に1―3で敗れて2位となった。

3月21日に笠岡市卓球選手権大会（団体の部）に参加した。男子団体では予選リーグで倉敷天城高Cと三原高Aに勝ち、決勝トーナメントでみたけクラブに勝ち、準々決勝でOKTに敗れてベスト8であった。女子団体では予選リーグで福山明王台高と志度高に勝ち、決勝トーナメントで岡山南高に勝ち、準決勝で岡山操山高に敗れたが3位に入賞した。

4月6日に井原チェリーカップオープン卓球大会に参加した。男子団体ではAチームが予選リーグ1位で決勝トーナメントに進み、準々決勝で鳥取敬愛Cに敗れてベスト8であった。女子団体ではAチームが予選リーグ2位で決勝トーナメントに進み、準々決勝で明石西に0―3で敗れた。

4月20日に笠岡市卓球選手権大会（個人の部）に参加した。男子シングルスでは西岡（U3）がベスト16に入った。女子個人では遠藤（U3）がベスト16に入った。

4月26～27日に近府県選手権（一般の部）に参加した。男子団体では予選リーグを1勝3敗で4位、続く決勝4位リーグを3勝1敗で1位であった。女子団体では予選リーグを3勝1敗で2位、続く決勝2位リーグを1勝5敗で7位であった。

8月22日に県高校夏季卓球大会に出場した。2年男子シングルスでは中嶋がベスト16、原田（U2）がベスト32に入った。1年男子シングルスでは福田がベスト8に入った。2年女子シングルスでは児嶋と小見山がベスト16に入った。1年女子シングルスでは西岡がベスト8、難波もなみがベスト16に入った。

9月23日に全日本県予選会（ジュニアの部）に出場した。男子シングルスでは中嶋がベスト32、掛谷と福田がベスト64に入った。女子シングルスでは西岡がベスト32、児嶋と小見山と難波もなみがベスト64に入った。

5月4～6日に笠岡市営球場などで行われた第9回笠岡東ライオンズクラブ杯では、2回戦小北中学校に15―0、3回戦鴨方中学校に7―0、準決勝寄島中学校に3―1、決勝金浦中学校に5―0で勝利し、2年連続2度目の優勝を果たし

《中野球部》

5月31～6月1日に県高校総体に出場した。男子団体では2回戦で岡山朝日に3―0、3回戦で岡山理大附に3―1、準々決勝で水島工業に3―2で勝ち、準決勝で倉敷工業に0―3で敗れ、3位決定戦で岡山操山に0―3で敗れたが、ベスト4に入り、中国大会出場を決めた。女子団体では2回戦で岡山商大附属に2

部）に参加した。男子団体では予選リーグで鳥取敬愛Cに3―1で勝ち、三菱自動車Aに1―3で敗れた。女子団体では予選リーグで就実中に0―3で敗れ、鳥取敬愛Bに0―3で敗れ、岡山理科大学3―2で勝った。

5月5、6日に全国中国高校予選会に出場した。男子シングルスでは西岡がベスト16に入り、中国大会出場を決めた。また、中嶋（U2）と福田（U1）がベスト64に入った。男子ダブルスでは掛谷（U2）・福田組がベスト16、杉野（U3）・山守（U3）組と中務（U3）・平岡（U3）組がベスト32に入った。女子シングルスでは西岡（U1）がベスト32、遠藤と小見山（U2）がベスト64に入った。女子ダブルスでは児嶋（U2）・小見山組がベスト32に入った。

5月31～6月1日に県高校総体に出場した。男子団体では2回戦で岡山朝日に3―0、3回戦で岡山理大附に3―1、準々決勝で水島工業に3―2で勝ち、準決勝で倉敷工業に0―3で敗れ、3位決定戦で岡山操山に0―3で敗れたが、ベスト4に入り、中国大会出場を決めた。女子団体では2回戦で岡山商大附属に2

―3で敗れた。

6月13～15日に中国高等学校卓球選手権大会（広島市）に出場した。男子団体では1回戦で岩国（山口）に3―2で勝ち、2回戦で出雲北陵（高根）に0―3で敗れたが、ベスト16に入った。男子シングルスでは西岡が1回戦で宇部工業（山口）に敗れた。

7月19日に国体予選（少年の部）に出場した。男子シングルスでは井上（U3）と中嶋と福田がベスト64に入った。女子シングルスでは児嶋と小見山と難波もなみ（U1）と西岡がベスト64に入った。

8月5日に倉敷市長杯争奪卓球大会に出場した。男子団体では決勝で倉敷工に1―3で敗れたが準優勝であった。女子団体では決勝で倉敷青陵に3―1で勝ち、2年連続の優勝であった。男子シングルスでは中嶋と福田がベスト8、掛谷がベスト16に入った。女子シングルスでは児嶋がベスト4、小見山と難波もなみと西岡がベスト16に入った。

8月12～14日に西日本オープン新人研修会に参加した。男子団体ではAチームが予選リーグを3勝1敗で2位、続く決勝2位リーグを3勝1敗で2位であっ

た。

6月7日・8日に笠岡市営球場で行われたシード決め大会では、笠岡東中学校に2年2組の楠くんがノーヒットノーランを達成し4-0で勝利し、決定戦では鴨方中学校に3-1で勝利しシードを獲得した。

7月5日・6日の備南西地区夏季総体では、笠岡西中学校に7-0、決定戦では小北中学校に4-1で勝利し、2年連続7度目の県大会出場を決めた。

7月26日から岡山県営球場などで行われた県大会では、1回戦中道中学校に6-2で勝利したが、2回戦で総社西中学校に1-4で敗れ、ベスト16に終わった。

8月1日・2日に総社球場で行われた総社市長杯では、1回戦総社中学校に8-0で勝利したが、準決勝加賀中学校に1-6で敗れた。

新チームとなり8月23日・24日に笠岡市営球場などで行われたワコー杯では、2回戦鴨方中学校に4-0、準決勝金浦中学校に2-1、決勝矢掛中学校に7-1で勝利し、4年ぶりの優勝を果たした。9月20日・21日に行われたシード決め

大会では、美星中学校に6-0、鴨方中学校に3-1で勝利したが、決定戦で笠岡東中学校に2-3で敗れて、シードを獲得できなかった。

10月18日・19日に井原球場などで行われた備南西地区秋季大会では、金光中学校に8-1、小北中学校に7-0、代表決定戦では金浦中学校に3-1で勝利し、3年連続の県大会出場を決めた。

11月10日・11日に新見ビオネ球場などで行われた県秋季大会では、1回戦新見南中学校に2-1のサヨナラ勝ち、2回戦操南中学校に2-1で勝利したが、準決勝船徳中学校に2-2特別延長の末1-2で敗れ、2年連続の3位となった。

7月14日から行われた第96回全国高等学校野球選手権岡山大会において、一回戦で興陽高校に6対1で勝利するも、二回戦で関西高校に1対8で敗れました。

8月30日からは平成26年度秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われ、玉野高校に5対4（延長10回）、倉敷南高校に5対3、高梁日新高校に9対1、たまの商業高校に4対1で勝利し、県大会出場を決めた。

9月27日から行われた平成26年度秋季岡山県高等学校野球大会において一回戦で関西高校に0対1で敗れた。

11月8日から行われた平成26年度岡山県高等学校野球一年生大会において、一回戦で岡山城東高校に6対9で敗れた。

《中サッカー部》

6月7日・8日に寄島三ツ山スポ対ッ公園で支部大会が行われました。

対鴨方（8対0）勝利、対金浦（4対1）勝利、対笠岡西（4対1）勝利、対高屋（4対0）勝利し、一位となりました。7月5日に寄島三ツ山スポ対ッ公園で地区大会が行われました。

対笠岡東（1対1）で引き分けPK戦で負けてしまい、県大会出場を逃してしまいました。

7月26日・27日に寄島三ツ山スポ対ッ公園で第一回AKANO杯が行われました。

対玉島西（3対0）勝利、対玉島東（4対0）勝利、対玉島北（2対0）勝利、対寄島（3対1）勝利し優勝をしました。

この大会を最後に三年生は引退をしました。キャプテン吉川 和希君、副キャプテン神原 隆太君・品川陽太郎君を中

心とした、10名の三年生。目標を「岡山県一位」として、毎日朝練で外周を一生懸命走りました。その結果、最後の大会で過去の先輩たちもできなかったライオンズ杯優勝を掴み取ることができました。

このチームの一年間の記録は48勝28敗13分け。総得点は175点、総失点は85点でした。

《高サッカー部》

3月9日、練習試合、対岡山工業A（0-2）+B戦、対おかやま山陽A戦+B戦負け。3月16日、練習試合、対社会人（5-7）25分×7。

第4回浅口カップ大会の結果は以下の通り。3月21日、交流戦、対大門（3-0）、対芳泉（0-3）、対大安寺（1-0）、3月22日、対創成館（0-6）、対城東（0-0）PK（3-4）、対津山工業B戦、3月23日、対岡山工業（1-3）、対岡山工業B（0-6）、対関西B（1-2）。

春合宿in美作を3月30日・31日に実施。一日目は、作東町B&グラウンドでトレーニング、二日目は、美作サッカー場で勝山高校と練習試合を行った。ゆのこ

う美春閣で宿泊し、有意義な合宿となった。

県総体備中地区予選1回戦・2回戦の結果は、4月20日、対高梁（4-1）、4月29日、対おかやま山陽（1-4）。

5月4日の練習試合では、対理大附（2-4）、対高知コロン（0-4）（3-1-0）。5月25日の練習試合では、対笠岡（1-0）（1-0）。

備中支部総体備西大会の結果は、一次リーグでは、5月10日、対玉島（1-4）、対笠岡商業（2-1）。2位トーナメントに進出し、5月11日、対井原（3-1）、対山陽（1-1）PK4-2。

高円宮杯U-18サッカーリーグ2014 OKAYAMA1stの結果は、5月6日、対和気閑谷（0-1）、6月21日、対山陽B（4-2）、7月13日、対新見（3-0）、7月19日、対勝山（2-0）、7月20日、対矢掛（0-2）、7月21日、対大安寺（1-3）。

練習試合を行った。8月1日、対玉島A（1-1）・B戦（0-2）（1-0）。8月4日、対岸和田B（1-6）、対岸和田A（0-4）、対岸和田B（0-0）。対理大附（1-2）。

I P Uフェスティバルに参加した。8月7日、対伊吹A（0-1）、対彦根工業（0-5）。8月8日、対水口A（0-3）、対I P U（0-8）。

8月23日・24日、U-16大会に参加した。対岡山工業（0-5）、対明誠学院（0-4）、対古城池（0-2）、対総社（0-1）。

練習試合を行った。8月31日、対アクト（0-3）（3-4）。9月7日、対社会人（6-8）（20分×2・25分×4）。選手権大会一次トーナメントの結果は次のとおりである。9月14日、対和気閑谷（2-0）、9月21日、対朝日（1-3）。

高円宮杯U-18サッカーリーグ2014 OKAYAMA2ndの途中結果は次のとおりである。9月15日、対笠岡工業（0-0）、9月23日、対津山商業（2-1）。

《中柔道部》

7月5日里庄武道館で行われた備南西地区において男子団体戦は3位となった。男子個人戦では中2十倉拓哉50kg級5位、中2虫明春哉55kg級5位、中3黒川拓馬60kg級2位、中3石井敦浩66kg級1位、中2橋高光哉73kg級3位、中1森永慶之81kg級1位となり、黒川・石井・

橋高・森永は県総体の出場権を得た。

7月23日岡山武道館で行われた岡山県中学校総合体育大会(柔道競技)において、石井(66kg級)・森永(81kg級)がそれぞれベスト8となった。橋高(73kg級)は2回戦敗退、黒川(60kg級)は1回戦敗退であった。

10月18日里庄武道館で行われた備南西地区秋季大会において、男子団体・女子団体とも優勝した。男子個人戦では中2十倉拓哉50kg級2位、中2小原拓也55kg級4位、中2虫明春哉60kg級1位、中2橋高光哉73kg級2位、中1森永慶之81kg級1位、女子個人戦では中1宮口史穂が40kg級で1位、中1宮口史織同2位となった。それぞれ県大会の出場権を得た。

11月9日岡山県秋季柔道大会が岡山武道館で行われた。男子団体戦では1回戦倉敷北中学校に3―2で勝利したが2回戦で倉敷南中学校に2―2の内容差で敗退した。女子団体戦は1回戦福浜中学校に敗れた。男子個人戦では中1森永慶之81kg級で優勝し、中2虫明春哉60kg級で準優勝であった。十倉(50kg級)小原(55kg級)橋高(73kg級)はそれぞれ1勝したが2回戦で敗退した。女子個人

戦では中1宮口史穂、宮口史織は健闘したがそれぞれ1回戦で敗退した。中1森永・中2虫明は2月8日に鳥取県で行われる中国大会への出場権を得た。

《高柔道部》

4月26日27日に岡山武道館で行われた中国柔道大会岡山県予選において男子団体戦は一回戦で操山高校に2―2の内容差で敗退した。個人戦では高3西井孝輔が66kg級で3位に入賞し中国大会の出場権を得た。また高1江草ひな子が3位に入賞した。高3石井は1回戦敗退であった。

5月31日・6月1日に岡山武道館で行われた岡山県高校総体柔道競技において江草ひな子が3位に入賞した。高3西井は1回戦、石井は2回戦でそれぞれ敗退した。

6月7日8日に岡山武道館で行われた、中国高校柔道大会に岡山県代表として高3西井孝輔が出場した。1回戦で島根県1位の平田高校長島選手と対戦した。3分間を通して西井の持ち味を生かした柔道を展開することができた。手足の長さを生かした組手と相手の力に逆らわず流れるように得意の内股に入るなど

健闘を見せたものの力及ばず優勢負けとなった。

11月1日に玉野スポーツセンターで行われた岡山県新人柔道大会に高1福島拓紀が出場したが1回戦で敗退した。

《中高柔道部》

8月2日から5日まで岡山武道館補助道場で行われた岡山白陵中学高等学校の合宿に参加させていただいた。

8月16日から19日まで金光学園柔道場にて夏合宿を行った。他校の生徒や多くのOBの先輩方に参加していただき稽古をつけていただいた。また3日目には保護者の方にも協力をいただいた。本当にありがとうございました。

《中剣道部》

《段級審査会》6月29日(日) 日名啓介(2年)が初段合格。

《備南西地区大会》7月5日(土) 笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子団体試合で第3位となる。女子個人試合で金尾涼乃(2年)、男子個人試合で佐伯優真(1年)、市川真広(1年)が2回戦敗退。池田弦輝(2年)、日名啓介(2年)が3回戦敗退。平川龍之介(3年)、後藤正千代(3年)が1回戦敗

退であった。

《段級審査会》8月3日(日) 池田弦輝(2年)が初段合格。

《浅口市剣道大会》9月28日(日) 天草公園体育館で開催され、団体試合で中学校チームは2回戦、ほつま剣友会チームは1回戦敗退であった。個人試合は平川、松本椋平(3年)、日名、池田が2回戦敗退。岡本紘太郎(1年)が1回戦、佐伯が3回戦敗退であった。

《備南西地区大会》10月18日(土) 笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子団体試合で第3位となる。男子個人試合では日名が1回戦、岡本が2回戦、市川、池田が3回戦敗退であったが、佐伯が第2位となり、県大会出場権を得た。

《県大会》11月9日(日) 武蔵武道館で個人試合が開催され、佐伯優真(1年)が健闘したが、3回戦敗退であった。

《第33回笠岡剣道大会》11月16日(日) 笠岡総合体育館で開催され、ほつま剣友会として1チームが出場したが、1回戦敗退であった。

《第61回玉島剣道大会》11月23日(日) 玉島の森体育館で開催され、中学校チームは健闘したが、3回戦敗退であった。

《高剣道部》

《中国大会予選会》4月19日(土) 20日(日) 桃太郎アリーナで開催され、男子個人試合に田村晃輝(3年)、文箭和也(2年)、女子個人試合に川崎貴乃(3年)、中村奈々(2年)、山西琴子(1年)が出場したが、1回戦敗退であった。

《国体予選会》4月27日(日) 笠岡総合体育館で開催され、田村、中村が1回戦敗退。文箭、川崎が2回戦敗退であった。

《備中支部大会》5月10日(土) 県立倉敷商業高等学校体育館で開催され、女子団体試合が1回戦で共生高校に敗れたが、敗者復活戦(3校リーグ戦。笠岡高校・笠岡商業高校)で2位となり、県総体への出場権を得た。

《県総体》5月31日(土) 6月1日(日) 川崎学園総合体育館で開催され、女子団体試合は1回戦で津山工業高校に敗れる。個人試合は田村、川崎が1回戦敗退、文箭、中村が2回戦敗退であった。

《新人戦》11月1日(土) 2日(日) 津山東体育館で開催され、文箭が1回戦、中村、三木佳苗(2年)が2回戦敗退であった。

《第61回玉島剣道大会》11月23日(日) 玉島の森体育館で開催され、高校チームは1回戦敗退であった。

《中高剣道部》

奉祝「教祖様ご生誕二百年」(昨年)「金光学園創立百二十年」(剣道部創部百十年)「二〇二〇記念館竣工」を心よりお祝いし、昨年から一連の祝賀記念行事を、11月13日(木)の「記念稽古会」で快い汗を流し、締めくくりといたしました。お世話になりました多くの方々、心よりお礼を申し上げます。ご報告いたします。

《中男子バスケットボール》

新入生13人が、新たにメンバーに加わり上級生とともに練習に励んでいる。6月に行われた総体へのシード決め大会では、備南西地区内総当たりで行い、2位となり、夏の総体では第2シードを得ることができた。総体では、決勝で矢掛中学校に敗れ、県大会出場はできなかった。

9月には、新チームとしてシード決め大会に参加し、地区内総当たりを行い、2位で秋季大会の第2シードを得た。10月に行われた地区大会では、決勝で鴨方

中学校に敗れ、県大会出場を逃した。

《中女子バスケットボール部》

新入部員10人を加え、保護者の多大なご協力も得ながら、日々練習に励むことができています。

6月7日に行われた支部大会では、初戦 笠岡東中に12―38学園、準決勝、里庄中に20―39で勝利し、決勝では、鴨方に38―16で負け、シードを取る事ができなかった。新チームになり、練習の成果が少しずつでた試合だった。

7月5日・6日に行なれた地区大会では、初戦、矢掛中に43―48学園、準決勝、笠岡東中に59―48で敗退し、悔いのある試合になった。

《高男子バスケットボール部》

4月12日・13日、春季優勝大会備中区予選会に参加した。一回戦、笠岡工業に54―32で勝ち、二回戦、宿敵総社南に41―37で勝った。トーナメント準決勝で第一シードの倉敷古城池と対戦し、86―23で負けたが、冬から春にかけての強化の成果を感じさせる大会となった。

5月10日・11日、夏季総体（インターハイ）予選備中区予選会に参加した。一回戦、新見高校に43―41で勝ったもの

の、二回戦、総社南に38―23で負け、悲願の県大会出場は果たせなかった。三年生にとつてはこの大会が現役最後の大会となり、悔し涙があふれた大会となった。

9月20日・21日、選抜優勝大会（ウインターカップ）予選備中区予選会に参加した。この大会は、2年生中心の新チームとなり、初めての公式戦だった。相当の決意を持って臨んだ大会だったが、一回戦で笠岡商業に64―50で敗れた。この敗戦はチームにとつても大きなショックとなり、以後の練習への意識が格段に高まったと感じた。

その後、11月15日から行われている、新人優勝大会備中区予選会に参加している。一回戦、おかやま山陽に勝ったが、二回戦、シード校の倉敷古城池に敗れ、敗者復活トーナメントにまわった。敗者復活トーナメント一回戦、玉島に勝ち、トーナメント準決勝で倉敷商業と対戦し、惜敗した。

《高女子バスケットボール部》

8月4日（月）～6日（水）に鳥取県の大山で合宿に参加した。今年は高校だけでなく、鳥取大学医学部の学生とも試合をする機会があり、今年も様々な面で

良い刺激を受けた。高校2年生が下級生を引っ張り、去年に比べより充実した合宿になった。また、中3生も一緒に参加をし、高校生を相手に積極的にプレーし多くの経験を積むことが出来た。

9月20日（土）、21日（日）に選抜優勝大会備中区予選が行われ、20日（土）に第四試合で岡山龍谷高校と対戦し、勝利。21日（日）に倉敷中央高校と対戦し、敗退。

《中男子バレーボール部》

平成26年度の戦績
6月に行われた支部大会、地区大会と順調に勝ち進み、7月に行われた県大会では優勝した。この優勝は2年ぶり9回目。

8月に岡山県で行われた中国大会では準々決勝で敗れ、ベスト8になった。

チームが一新し、新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。県大会でも優勝。この優勝は3年ぶり3回目。

これは、常勝のプレッシャーをはね返す事が出来た結果であろう。

《中女子バレーボール部》

6、7月に行われた夏季支部、地区大

会では中1を加えて臨んだが、予選リーグで敗退。6名で頑張ってきた中3は引退となった。新チームになってから9月、10月に行われた秋季支部、地区大会でも予選リーグ敗退となったが、中1のみの部員7名で善戦した。

《高男子バレーボール部》

4月19日20日に行われた岡山県春季大会では準決勝で岡山東商業、決勝で玉野光南にストレートで勝ち、優勝を果たした。中国大会への出場権を得ることができた。4月29日に行われた備西地区大会では決勝で笠岡商業に勝ち優勝。5月9日・11日に行われた中国大会では、2回戦 高川学園（山口県）に敗れ、ベスト

8。6月7日15日、全国大会をかけたインターハイ岡山県予選。準決勝で倉敷商業にストレートで勝ち、玉野光南との決勝戦。1セット取られ崖っぷちの中、2・3セットを死闘の末取り逆転勝ち。7年ぶり4回目の優勝を果たし、インターハイの切符を手に入れた。8月1日～6日に行われたインターハイでは予選グループ戦で一関修紅（岩手県）にフルセットの末、勝利。決勝トーナメント進出。1回戦 強豪・習志野（千葉県）と対戦。

善戦したが力およばずストレートで敗れた。全国の舞台でよくやりました。岡山県選抜にも4名選出され、8月に行われた中国ブロック予選を勝ち抜き、10月に長崎県での国民体育大会に出場。7位入賞した。11月8日9日に行われた春高予選では、準決勝 岡山東商業に勝ち、決勝戦 玉野光南。1―3で敗れ準優勝。今年も県大会、優勝2回 準優勝2回。全国大会、決勝トーナメント進出という成績に終わりました。

《高少林寺拳法部》

5月31日に玉島武道館で開催された岡山県総合大会に出場した。男子単独演武の部で、高2中野真聡が3位入賞。高2永井綾介が決勝に進出した。また、女子単独演武では、高2の有田胡桃が決勝に進出した。男子団体演武の部では2位に入賞した。中野と男子団体演武は中国大会への出場権を得た。

6月14日、15日に広島グリーンアリーナで開催された中国大会に出場した。男子単独演武の部の中野は健闘したが、予選で敗退した。

11月1日に岡山工業高校で開催された、岡山県新人大会に出場した。男子単

独演武の部では、中野真聡が第1位に入賞した。また、高2山中勲輔が5位、高2永井綾介が7位に入賞した。女子単独演武の部では、有田胡桃が3位に入賞した。男子団体演武の部は2位に入賞した。男子単独演武の中野は、3月に丸亀市で開かれる全国選抜大会への出場権を得た。

《中少林寺拳法部》

6月1日に開催された岡山県中学生大会に出場した。男子単独演武の部では中3佐藤秀紀が決勝に進出した。

《家庭科同好会》

ほつま祭において初めての展示を行った。被服教室を会場として、部員が製作した5着の服をボディにさせて展示。モデルを学園生に依頼し、製作した服を着てもらって撮影した写真もあわせて展示した。雰囲気盛り上げるための小物や飾り付けも工夫し、たいへん好評を博した。

学園だより

出校日・大祭奉仕 4月5日、在校生は出校し、新クラス発表の後、教室移動を行った。また、中2はこれに先立ち、本部祭場の清掃奉仕を行った。イギリスへの海外研修参加者が3日無事に帰金し、本部参拝を行った。

入学式 4月8日、中学は午前中に、高校は午後からほつま体育館で行い、それぞれ192名、221名(留学生含む)の新入生が希望に胸を膨らませて入学した。**留学生** AFS留学生として、ノルウェーからハンナ・アスクさんが来校した。高校1年に1年間滞在する。

始業式 4月9日、中高合同で1学期始業式がほつま体育館で行われ、新任教員紹介の後、校長式辞、在校生を代表して高3の田中敦望君から歓迎の言葉、また新入生を代表して中1の末吉里奈さんから挨拶がそれぞれあった。

◇新入生代表挨拶(中1 末吉 里奈)

暖かな春の日差しの中、希望を胸に私たち中学校192名、高等学校221名は晴れて金光学園の生徒として第一歩を踏み出しました。憧れだった制服に身を包み、この学園に通えることを大変嬉しく思います。

金光学園は今年度、創立120周年目を迎えます。この120年という長い歴史の中に金光学園の一員として6年間学べることをご大変幸せに思います。また、今年7月完成予定の120記念館で勉強できるのが楽しみです。

「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を心に刻み、校長先生をはじめ諸先生方、そして先輩方の温かなアドバイスをいただきながら金光学園の生徒として、共に助け合い励まし合い、6年間の実りのある学園生活を送ることをここに誓います。

新入生本部参拝 4月11日、晴天に恵まれ中1と高1が金光教本部に参拝し、これからの学園生活の立ち行きをお願いした。その後、境内でクラス毎の記念写真を撮った。



◇お届け(高1 堀 晃己)

4月8日、中学校新入生192名、高等学校新入生221名、合計413名は、多くの方に祝福され、金光学園に無事入学させて頂くことができました。どうぞ皆様にお礼を申し上げて下さい。

私たちは、自らの意思で勉強やスポーツに励むために金光学園に進学しました。それぞれの夢を実現させるために精進し、一日一日を大切に過ごして、充実した学園生活が送れるようにすることを

誓います。この先、大きな壁にぶつかることもあると思いますが、先生方・家族・友人などの多くの人に支えて頂きながら、乗り越えていきたいと願っています。

また、4月15・16日には高校1年生が牛窓の研修センターで、18・19日には中学1年生が校内で入校時合宿を行います。全員が初期の目的を達成し、安全に過ごせるようお願いいたします。

◇教主金光様のおことば

皆さん、おめでとございます。今日も明日もあさっても、皆、今日今日になります。どうぞ『お世話になるすべてに礼をいう心』をもって、今を大切に、今申されました願いに沿って勉強を進められ、おかげを頂かれますよう、祈ってやみません。

なんでも相談室 毎週水曜日は午前10時から午後4時まで教育相談室・相談室で開設され、教育相談委員がカウンセリング・助言・支援を行っている。

街頭交通指導 4月5日から16日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。

検尿 4月11・12日に高校生、15・16日に中学生を対象に検尿を実施した。

学習合宿 4月15・16日、高1は牛窓研修センター「カリヨンハウス」で学習合宿を行い、高校生としての学習習慣を確立するための方法を学び、親睦も深めた。

交通安全教室 4月18日、中1は備前自動車岡山教習所の先生に交通安全教室を実施していただき、交通マナーや交通法規について学んだ。高1は雨のため中止になった。

入校時合宿 4月18・19日、中1が校内で行い、金光教玉水教会控所に宿泊した。学園歌コンクール、町内クイーンオリエンテーリングや夜の集い(集団ゲーム・キャンドルサーブिस)などを通じ、親睦を深め、集団生活の規律を学んだ。

沖縄修学旅行 4月18・21日、中3は沖縄を訪れた。語り部による戦争体験の話、平和集会や折り鶴献納などを通じ、平和について考えると同時に沖縄の歴史や自然について学習した。

総合健康診断 中学は4月24日に、高校は23日に、身体測定と内科・歯科・視力・聴力(3年)の検診が行われた。

心電図 4月30日に中1を、5月1日に高1を対象に実施した。

胸部X線撮影 5月1日、高1を対象に実施した。

やつなみ保護者会総会 4月27日、1限に授業参観、2限に学級会、3・4限に総会と講演が行われた。講演は、淑徳大学教授の北野 大先生の「何のために学ぶのか：われらに燃ゆる希望あり」であった。

人権講演 5月2日、高3は元県立岡山盲学校教頭の竹内昌彦先生から「私の歩んだ道」という演題で講演を聴き、笑いあり涙ありのお話の中から今後の人生への示唆を受けた。

人権教育 中1は4月25日に、あだ名・いじめ・携帯トラブルについてのアンケートをとり、その結果を通信にまとめ、16日にはそれをもとに、今何ができるかをクラスで話し合った。

避難訓練 5月8日、全生徒・教職員を対象に、避難訓練を行った。

探究講演会 5月12日、中3・高1・保護者を対象に、金沢工業大学虎ノ門大学院・早稲田大学ビジネススクールの三谷宏治先生から『子供が「幸せ」になる子育てで脱ワンワールドと携帯戦争』という演題で講演が開催された。

教育相談保護者会

5月17日、7名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に「子どもの心を理解しよう」という演題で話をうかがい交流が行われた。

教育実習 5月19日から6月7日までの期間、卒業生2名が2週間ないし3週間の実習を行った。

教育キャンプ 5月21～23日、中2は第47回大佐山教育キャンプを行った。天気にも何とか恵まれ、充実したキャンプを体験した。1日目はキャンプファイヤ1、2日目は大山登山―小雨の中を登りはじめたが、頂上では霧も晴れ、雲海も楽しめた。3日目には9つのグループに分かれて野外活動を体験。初夏の大自然を満喫した。

喫煙防止指導 5月30日、中2は喫煙防止の指導を行った。タバコのリスクについて話を聞いた後、ビデオを観て感想文を書いた。

性教育 中3は5月22日と13日に、男女交際や感染症・避妊について学習した。また、中2の生徒と保護者は5月29日に、ウイメンズクリニックの上村茂仁先生から「大好き」って相手のしあわせを考えること」という演題で講演を聴

いた。その後、3日にビデオを観て性感染症・避妊について学習した。

7月23日公設国際貢献献大大学国際保健医療学部の助産師、内尾京子先生の講演が高2を対象に行われた。「責任ある性」をテーマに、男女の思春期の性に違いについて考えた。中1は10月22日にDVD「正しく知る―二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て感想文を書き、11月5日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

教科担当者会議 中学校において、日頃の授業の様子や中間テストの結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。高校（1・2年）では、学力向上の目的で、今年度からスタディサポート分析会に代わった。

塾対象学校説明会

6月6日、塾の先生を対象に学校説明会を行い、金光学園の学習や行事、部活動などについての現状を詳しく説明した。また、午前中には全学年・全クラスの授業を公開した。

耳鼻科検診 6月4日に中1、5日に高1を対象に実施した。

眼科検診

6月4日に中1と中3、5

日に高1と高3を対象に実施した。

中3進路学習 5月9日に高校教務課長の中島寛教諭から高校での学習についての話を聴き、6月10日に進路課長の藤井幹久教諭から進路についての話を聴いた。

音楽奉仕 6月8日、教団独立記念式において音楽部が音楽奉仕を行った。

高2修学旅行 6月16日～20日にシンガポール・マレーシア班は現地学生との交流やホームステイを体験し、15日～20日にオーストラリア班は南半球のクイーンズランド州のアサートンでファームステイなどを体験し、16日～20日に北海道班は北の大地の自然や文化・歴史にふれた。（紀行文は今号に掲載）

探究Ⅱ中間発表

高2「探究Ⅱ」の各ゼミと科学系部活動で行っている研究に対して、6月4日（理系）、12日（文系）の中間発表を午後から行った。それぞれ大学の先生にお越しいただき、今後の進め方について指導・助言をいただいた。

高3読書会 6月13日、希望の本別に12のグループに分かれて、お互いの意見を交換した。

学校説明会

6月21日、金光学園の受

験希望者と保護者を対象とした学校説明会を行い、午前中に高2（修学旅行後の家庭学習日）を除く、全学年の授業を公開した。

オーストラリア総領事館商務官来校

6月26日、高1探究クラスと希望者は、商務官の富永さおり氏から「オーストラリアの魅力」というテーマで講演をしていただいた。

大学説明会

6月27日、岡山大学・広島大学から教職員の方に来て頂き、高1を対象に大学の概要・学部学科や入試制度の説明をして頂き、相談にも乗って頂いた。

進路委員会

7月1・2日、高3学年団は学力の現状分析と今後の指導方針を検討した。

英語検定試験実施

7月6日（日）第1回の英語検定2次試験が本校の中学棟を利用して実施された。

120年記念館竣工奉告祭

創立120周年の記念事業として建設中であった120記念館が完成し、7月15日、10時より竣工奉告祭が1階大講義室で厳かに挙行された。奉告祭には学園や工事関係者ら約60人が出席。金光校長が「有効

に活用し、古き良き伝統を守りながら学園を発展させたい」と挨拶された。1階は240人が入る大講義室、2・4階には美術、被服、音楽教室を設ける。2015年度までは高



短期留学生

6月20日～7月28日にかけて、アメリカ出身のポランド雷電君を高1に受け入れた。

高3 1学期終業式

7月19日、3年生は竣工式を終えたばかりの大講義室で1学期終業式を行った。

特別授業・補習

7月23日～28日、中学は午前中授業、高1・2は午前中特別授業、高3は希望者補習を行った。オープンスクールPart1「一日入学」

7月27日、Part1として第16回目の一日入学が行われ、小学生や中学生及び保護者を合わせて1463名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、

9月13・14日のPart2のほつまつ

祭では198名の小学生が参加した。10月4日、Part3の中



高2～中1終業式

7月28日、高2以下の生徒は2限まで授業を行った後、終業式を行った。

大田記念病院一日医療体験

7月29日、田中誠先生、守分俊浩先生、安田智幸先生、石田崇彦先生、久繁正人先生、妹尾歩先生の引率で中学3年から高校3年までの30名の生徒が福山の大田記念病院に

て、医師・看護師・薬剤師・リハビリ療法士・管理栄養士・検査技師の各コースに分かれて医療体験を行った。

岡山大学医学部研究室訪問

7月30日、田中誠先生、瀬戸信貴先生の引率で中学3年から高校2年までの7名の生徒が岡山大学医学部の細胞生理学教室・病原細菌学教室での実習を経験した。

仁川英語村語学研修

7月30日～8月6日、大西康史先生の引率で中学2年から高校1年までの14名の生徒が韓国の仁川英語村で英語研修に参加した。

SSH宿泊研修

8月1日～3日、田中誠先生、内村政司先生、小林歩美先生、角南佑典先生の引率で中学・高校の希望者30名が大阪大学の薬学部・工学部での講義と実習をそれぞれ平田（高28回卒）、西嶋（高23回卒）両教授から受けた。また、3日目には大阪市立科学館で英語でのディスカッションを行った。

東京大学研修とSSH生徒研究発表会見学会

8月5～7日、田中誠先生、高司和道先生、村山真生先生の引率のもと、校内で選抜された生徒9名が東京大学の金子先生からマイクロガスタービンの分解組み立てに関する講演をいただいた。

また、パシフィコ横浜でのSSH生徒研究発表会見学会に参加した。

東京研修

8月8日～10日、田中誠先生、宰相裕一先生の引率で中学・高校の希望者28名が、東京大学教養学部の板津木氏によるワークショップ、卒業生で衆議院議員の柚木道義氏の案内で国会見学、その他上野動物園、国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館・東京都美術館等の研修を行った。

高校棟耐震化工事

7月29日～12月22日にかけて高校棟の耐震工事を行った。

東京大学主催「主要大学説明会」参加

8月16日、希望者57名が広島国際会議場で東大や京大をはじめとする国公立大学や早稲田大学や慶応大学などの私立大学の説明会に参加した。

教職員夏季研修

8月21・22日、全教職員が参加して27回目の夏季研修が行われた。初日は古市 浩氏（岡山県総務部総務学事課副参事）から「いじめ防止対策推進法」と学校の取り組みについて、小森美登里氏（NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事）から「いじめって何ですか？」いじめに対する大人の認識を考える」というテーマで講演

演を聴き研修した。その後、午前中の講演を受けて午後より8グループに分かれて、「金光学園におけるいじめの現状と今後の取り組みについて」各グループ討議をした。そして討議した内容を記録係の人が報告した。2日目は筒井愛知氏（環太平洋大学次世代教育学部講師）から「ケータイ・スマホの人間関係いじめを生み出す『画面越し』の不自由なコミュニケーション」のテーマで講演をいただいた。その後、AED・心肺蘇生法及びエビペン講習会を大ホールに場所を移して行った。2日間に渡る実り多き研修会となった。

特別授業 課題テスト

8月23日から29日まで、中1から高2の後期特別授業が行われた。8月27日・28日・29日には宿題テストが実施された。（中学は28、29日のみ）

始業式

9月1日、中高合同で2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意・諸連絡があった。

教育実習

9月1日から13日あるいは20日までの期間、卒業生2名が2週間または3週間の実習を行った。

街頭交通指導

9月2日から10日まで

教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全県民運動」に合わせて交通指導を行った。

金光学園杯小学生バレーボール大会

9月7日、第12回バレーボール大会が小体育館で行われた。15チームの参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

進路委員会

9月9日、19日、高3の先生を中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

第5回姉妹校交流 春川女子高等学校来校

2009年に姉妹校提携をして以来、6年目となる今年は9月11日より15日まで春川女子高校の生徒16名と先生方3名が来校された。授業や部活動体験だけでなくほつま祭にも参加した。さらに倉敷・広島への観光旅行を行い、本校の生徒と交流を深めた。

創立120年記念展覧会開催

9月13日～20日まで、学園にゆかりのある著名な方々の美術品を集めて120記念館大講義室で展覧会を開催した。

ほつま祭

9月13日、14日の両日、記念すべき創立120年の文化祭が開催された。今年のテーマは「一等星」輝ける

青春となれ」特に今回は記念行事の一环で記念展覧会を大講義室で開催した。また、韓国からは春川女子高の生徒16名も参加し、ポスターの展示や舞台でのダンスを披露した。多くの方をお迎えし素晴らしい文化祭となった。

霊地親睦の集い

9月16日、霊地各機関対抗の球技大会（バレーボール・ソフトボール）が行われ、学園教職員が参加した。いづれも予選で敗退となったが、懇親会に多くの方が参加され親睦を深めることができた。

進路講演

高2は9月19日、香川大学の山崎裕正先生による進路講演『自らの未来を拓く進路を考え、合格へのアプローチを知る』を、高1と保護者は10月10日にベネッセコーポレーションの荒武遼氏による講演『希望進路実現に向けて』をそれぞれ聴いた。

創立120年記念音楽会

9月24日、台風の影響が懸念されたが、雨の影響もあまりなく金光教本部祭場にて太鼓芸能集団「鼓童」の公演を開催した。一般・来賓の方々と金光町内3校の小学校をはじめ金光学園幼稚園の園児など多くの人が日本の伝統芸能を堪能した。

高校体育会 9月26日、晴れやかな秋空の下、高校体育会が華やかに行われた。

高校進学懇談会

9月30日、公立中学校の先生方を対象に平成27年度高校入試の説明等を行った。

教祖生誕200年前夜奉祝行事

9月28日、例年のように金光駅から本部境内まで教祖の生誕を祝う提灯行列が行われ、学園教職員も参加し、学園御輿を担ぎ行列を盛り上げた。

塾対象入試説明会

9月30日、午前中2時間は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では27年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

留学生来校

10月2日、4日、7日、9日の4日、倉敷市の姉妹都市クライストチャーチ市より留学生ジョージア・ピターソン君が来校。中学2年の3組ホストファミリーのクラスに参加して学園生活を体験した。

アメリカから大学生来校

10月3日、4日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生23名が来校し、本校の生徒と交流した。留学生の在籍校は、ボストン大学・ブラウン大学・シカゴ大学・ペンシルバニア

大学・ワシントン大学・イエール大学・ミシガン大学・コルビー大学・ウエレスリー大学・マカレスター大学・コネチカット大学・タフツ大学・ヴァサール大学・ハミルトン大学。

中学体育会 10月5日、台風の影響で前日のグラウンド状況が心配されたが、好天に恵まれての開催となった。来場者も大変多く、創立120年の記念すべき体育会となった。

高2大祭奉仕 10月7日、高2は金光教本部祭場の清掃奉仕を行った。

高3大祭参拝 10月10日、高3生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

金光学園杯小学生卓球大会 10月11日、台風の影響が懸念されたが、第13回小学生卓球大会が本校の小体育館で開催された。

進路学習 10月14日、中2は講師に卒業生の柚木道義氏を招いて「才能とは継続できる情熱である」と題して、中学校生活の後半の過ごし方を進路面から考える講演を行った。10月14日、中3は高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。

人権教育 10月18日、中3は映画「どんぐりの家」を鑑賞して人権について学習した。

学部・学科説明会 10月24日、高1・2は10の希望の学部学科に分かれて、大学の教職員の方からそれぞれの学部・学科の説明を聞いた。

教育相談保護者会 10月18日、安原こずえ先生を講師に、4名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

飯盒炊さん 10月31日、中1は遙照山の藤波キャンプ場で飯盒炊さんを行った。中2での教育キャンプの予行演習を兼ねて班毎にカレーを作り、深まり行く秋のひと時を楽しく過ごした。

大学出前出張講義 10月31日、高2は大学出前講義を実施した。進路課主催でHRの時間に国公立・私立大学の先生方から各学部の説明をそれぞれ希望の生徒を対象に実施した。(参加大学：岡山大学、香川大学、下関市立大学、九州工業大学、関西福祉大学、就実大学、同志社女子大学)

中学・高校入試模擬テスト 10月27日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月2日、来春の高等学校

入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生(希望者)を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明会で平成27年度入試についての説明を行った。

心の教育 11月21日に中1は金光校長から「金光学園の歴史を学ぶ」と題した話を聴き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

読書会 高2は10月10日に、高1は11月7日に、中2は11月21日に、中1は11月25日に、中3は11月28日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

浅口市弁論大会 11月5日、本校の大講義室で浅口市の弁論大会が開催された。

人権教育 中2は11月4日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書き、話し合いをした。また、中3は10月18日にビデオ「どんぐりの家」を鑑賞し感想文を書いた。そして11月4日に感想文をもとに話し合いをした。

教科担当者会議 中1から中3まで、

日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。高1、高2はスタディーサポート分析会を実施した。

ロードレース 11月12日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

探究Ⅱ課題研究中間発表会 11月19日、今年度の金光学園教育研究会(課題研究合同発表会)が開催された。探究クラスの生徒が研究内容をポスターにして発表した。理系と文系英語ゼミは英文でのポスター発表に挑戦し、文系の他のゼミは日本語で行った。各大学の助言の先生方や岡山大学・岡山理科大学の留学生より貴重なアドバイスを頂き、実り多き発表会となった。

創立120年記念式 11月13日、創立120年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。記念講演は、佐藤真海氏(パラリンピアン 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了)を講師に迎え、「夢を跳ぶ」という演題で実施された。

また、この日、国の文化審議会から文

部科学大臣に答申されていた記念講堂の有形登録文化財の登録証の伝達式が浅口市長より記念式に先立ち行われた。

里見川環境改善プロジェクト 7月24日に第1回川教室が開かれ、浅口市・里庄町内の小学生と本校の生徒45名が参加した。この教室では、里見川で川エビを捕獲し川の環境を考えた。さらに第2回川教室が11月8日に開催された。(44名参加)今回は、ザリガニを捕獲し、水辺の環境を調査した。

金光学園サイエンスチャレンジ 11月24日に小学4〜6年生を対象に開催された。(52名参加) 問題解決型の2つの課題(折り紙を用いた課題、フィールドワーク)に4人1組で取り組んだ。本校からは中学科学部が競技補助員として参加した。

サイエンスチャレンジ岡山2014 11月23日、玉島の中国能開高等学校で開催され、昨年に引き続き、本校からも2チームが参加した。内容は、数学分野・化学物理分野・生物地学分野の3分野において、筆記競技と実技競技が行われた。その結果、実技競技のペアブリッジで科学系部活動の連合チーム、KGMが

2位を獲得した。

お祝い 岡辺雅男教諭には私学協会功労者表彰を受賞されお慶び申し上げます。堤先生には9月30日に長男が誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 山本善直中学教頭先生の御尊父で、山本澄枝先生の御岳父には3月28日に、高3松浦里佳さんの御尊父には4月28日に、旧職員の佐藤宝貴子氏(高9回卒)には5月28日に、また旧職員の岡本肇氏には7月22日に、榊平恵美子先生の御母堂には11月29日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

学び多き飯盒炊さん

「頂上はまだ?」「遠い!」生徒が遙照山のキャンプ場を目指して歩く。中一の飯盒炊さんが行われた。雨が心配されたが、なんとか降らずにすんだ。朝8時半に出発し、列をなして歩き始めた。最初は笑顔だったが、だんだんと疲れの色が出てくる。そうかと思えば、おしゃべりしながら元気よく登る生徒もいる。「なんで疲れないんだろう?」足早に進んだ友人を見ながら、感心している生徒もいた。

テンポよく登ると、予定よりも早く頂上についた。登山の疲れを見せることなくカレー作りを始める生徒をみて、こちらも頑張らなければという気持ちになった。まずはかまどづくりで、だいたい大きさを決め、スコップで掘っていき、鍋と飯盒があるからと一生懸命計算して大きさを決める。薪と新聞紙を用意し、火をつける。ポオッと炎が舞い上がり、あちこちから歓声が聞こえ始める。うちわで必死にあおいだり、燃やすための落ち葉を拾って来たり、忙しく動き回る。その間に、飯の担当者は米を洗い、野菜を切る。手際よく支持する生徒とそれを見て感心する生徒たち。普段の授業や生活では見えない、意外な一面が見えた。班によっては作

り方にもこだわりがあり、中には一度野菜をレンジで加熱してみたり、調味料としてケチャップなどを混ぜたりと、生徒の熱心さがうかがえる。

そしてちょうどお腹がすく12時ごろカレーが完成した。野菜がごろごろ入ったカレーやチーズをたっぷりつけたカレー、福神漬けをちらしたカレー、キーマカレー:それぞれの班によってこだわりのカレーが出来上がった。また、デザートもこだわりがみられた。オレンジャ梨さらにはフルーツヨーグルトを作るなどして楽しい会話が始まった。「おいしい!」「うまい!」楽しい会話が始まった。「先生、味見してください!」と自慢のカレーを振る舞う生徒もいた。「このカレーが一番おいしいかな?」といろいろなところを食べ比べる生徒もいたが、「どこが一番おいしかった?」と聞くと、どの生徒も「自分の班が一番!」と答えた。食事の後の片付けもしつかり行い、米一粒残さずきれいに洗い上げた。帰りに雨が降り始めてしまったが、大きなケガもなく、無事に終わることができた。今回の飯盒炊さんで、友人の意外な一面を垣間見てさらに関係を深めたり、班のメンバーと協力して新たな友情を築けたりと、普段の教室では経験できない多くのことを体験できた飯盒炊さんであった。このような行事を通して、いろいろなことを経験し、成長していったほしいと思った1日だった。

編集後記

今年度は創立120年ということで様々な記念行事が盛大に開催された。特に、11月13日の記念式典は厳粛に盛大に開催された。そして午後からの記念講演は、心に染みる感動的な講演となった。掲載させていただいた各記事には120年のお祝いの年に相応しいそれぞれの思いがしっかりと語られているように思う。

今回のやつなみは創立120年の記念号ということで内容も大変多くなっている。特に記念誌「金光学園の歩み」を創立記念式に合わせての発刊となったため、編集部では忙しい2学期となった。

今回の編集に当たり、やつなみ教養部との話し合いで、120年の記念に寄稿句を投稿していただいた。投稿していただいた歌は、いずれも秀作で皆さんの学園に対する熱い思いが伝わってきた。寄稿していただいた方々に、改めてお礼を申し上げます。

いよいよ創立120年も暮れようとしている。来る121年が学園ばかりでなく、日本や世界にとっても暮らしやすい明るい年となるように祈って、ここに筆をおく。

平成26年12月12日印刷
12月22日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五一一一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町古見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

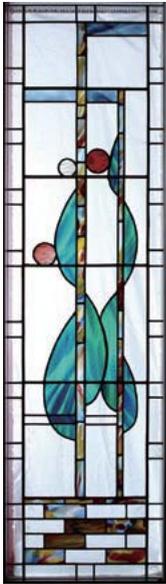
やつなみ保護者会から学校へ 2つのプレゼント

ステンドグラス

金光学園創立120年を記念して竣工された「120記念館」の正面玄関に、ステンドグラスサークルの方によって制作された「ステンドグラス」が寄贈され、8月30日に設置された。

このステンドグラスでは金光学園のやつなみの校章、シンボルツリーのメタセコイア、正門に続く煉瓦塀、そして合言葉など学園の魂といえるものを見事にデザインしていただいています。

120記念館にお越しの際は、ぜひ一度ご覧ください。
(実物サイズ 横70cm×縦263cm)



金光ベアー（創立120年 Sp.ver.）

友愛セールで大人気の“金光ベアー”を学園のマスコットとして保護者会の役員さんが創立120年スペシャルバージョンで制作し寄贈してくださいました

ご存じのように素材は生徒のシャツを使ってあります。本館玄関のショーケースにいます。会いに来てください。





中学体育会



中3 沖縄修学旅行



高校体育会



高2 シンガポール・マレーシア修学旅行



高2 北海道修学旅行



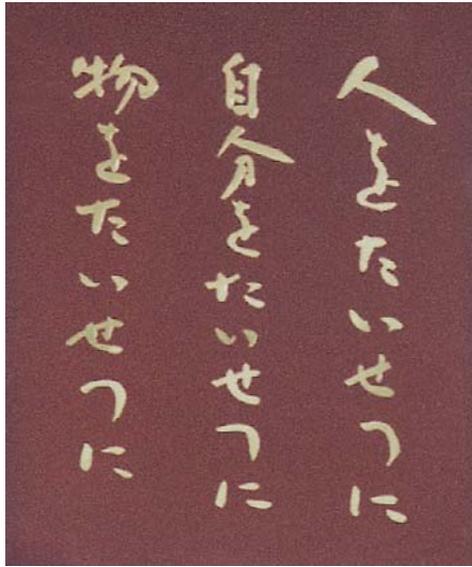
ほつま祭



中2 大佐山教育キャンプ



高2 オーストラリア修学旅行



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net